

# 株式会社 LIXIL グループ CSR 経営 2014



## 【報告期間】

2013 年度（2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日）

## 【対象組織について】

株式会社 LIXIL グループ及び株式会社 LIXIL をはじめとする連結会社の活動。

対象範囲が限定される項目については、注記などで記載しています。

※本 PDF は、株式会社 LIXIL 公式ホームページ「CSR 経営」の各ページを PDF 化したものです。

（2015 年 3 月 31 日付掲載内容）

※表紙画像 — 水の環境教育（於：ベトナム）

# 株式会社 LIXIL グループ CSR 経営 2014

## 【INDEX】

### CSR 方針

CSR 方針	3
CSR 推進体制	4
CSR 活動の目標実績	5

### ステークホルダーダイアログ

ステークホルダーダイアログ	10
トップダイアログ	10
課題別ダイアログ	10
地域ダイアログ：2013 年度開催概要	11

### お客さまのために

お客さま満足度を高める	13
ショールームにおける取り組み	17
製品安全への取り組み	19

### 取引先様とともに

調達に関する考え方	24
CSR 調達	26
取引先様とのコミュニケーション	27

### 社会・地域とともに

水資源の保全活動	29
森林生態系の保全活動	36
地域コミュニティへの参画	38

### 従業員とともに

人事の基本的な考え方	42
社内コミュニケーション	45
ダイバーシティ推進	47
労働安全衛生	50
働きやすい職場づくり	53
人材育成	56
労使関係	59

### 環境活動

環境方針	62
環境ビジョン	63
環境戦略	64
環境マネジメント	68
中期目標	73
マテリアルバランス	77
製品・サービス	
環境配慮設計	81
エコ商品データベース	84
お客さまへの提案	87
事業活動	
地球温暖化防止	88
資源循環	90
汚染防止	93

### コンプライアンス

### 知的財産活動

### リスクマネジメント

### 情報セキュリティ

### 編集方針

### コーポレート・ガバナンスについて

\* [株式会社 LIXIL グループ公式ホームページ](#) 参照

コーポレート・ガバナンス体制、グループ経営理念、グループ企業行動憲章、内部統制に関する情報を記載しています。

# CSR 方針

**サステナブルな社会の発展に貢献していくため、  
CSR 方針と CSR の推進体制を整えました。**

## CSR 方針

LIXIL グループの CSR とは、企業理念「私たちは優れた製品とサービスを通じて世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献」の実現に向けたプロセスそのものです。この企業理念のもと、「イノベーション」「サステナビリティ」「インテグリティ」を軸とする CSR 方針を掲げ、活動を進めています。2013 年 7 月には、UNGC(国連グローバル・コンパクト)に署名しました。4 分野 10 原則を尊重し、2014 年度は「人権デューデリジェンスの実施」「CSR 調達の促進」などの活動テーマに取り組みます。

## CSR 方針

Link to Good Living –

「良い住まい、良い暮らしにつながる絆を、世界に広げる」、それが LIXIL グループの社会的使命です。

私たちは、世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来のために、

製品とサービスのイノベーションを追求し、サステナブルな社会の発展に貢献します。

そして、ステークホルダーとの対話を重ね、インテグリティに基づく事業活動を継続していきます。

### 重点テーマ

#### イノベーション

エネルギーと水資源の効率利用への取り組み

衛生・安全・安心と高齢社会の共助への取り組み

#### サステナビリティ

地球環境の保全と地域社会の発展への貢献

労働環境や資源配分に配慮されたサプライチェーンの構築

#### インテグリティ

ビジネスパートナーと協働したお客さま満足最大化

リーダーシップやダイバーシティに溢れた企業文化づくり

迅速・透明な情報開示や社会貢献ストーリーの相互理解

### 具体的活動

1. 地球規模の気候変動や水資源問題の重要性を認識し、住宅・ビルでのエネルギー利用のゼロ・バランス、および水資源の効率利用に資する製品・サービスのイノベーションを追求します。

2. 世界の衛生問題や安全で安心できる住環境の重要性を認識し、水回りの衛生改善、高齢社会への対応、および共助社会の構築に資する製品・サービスのイノベーションを追求します。

3. 地球環境や生物多様性を保全し、事業所周辺の地域社会の発展に貢献するために、コミュニティや NGO との対話と協働に努めます。

4. 労働環境や人権、資源配分に配慮された、公正・公平なサプライチェーンを築くために、サプライヤーとの対話と協働に努めます。

5. 製品・サービスの購入や使用において、お客さまの安全衛生を保護し、満足を最大化するために、ユーザーとのコミュニケーションやビジネスパートナーとの協働を推進します。

6. 社会課題の解決において、リーダーシップを発揮し、国籍・性別・人種・年齢・価値観などの多様性を尊重し、ダイバーシティがもたらす力を活用する企業文化づくりを推進します。

7. 株主・投資家からの長期的な信頼を獲得し、社会とともに成長し続けるために、迅速で透明性が高い情報開示や、社会貢献に向けた道筋と役割の相互理解を推進します。

# CSR 推進体制

## 推進体制の確立

2013 年度までは CSR 推進委員会のもと、「顧客」「サプライヤー」「従業員」「環境」のステークホルダー別の 4 つの部会がそれぞれ目標を掲げ活動を行ってきました。2014 年 4 月、経営層が一同に会するグローバル・マネジメント・コミッティ(GMC)\*のスタートに伴い、CSR 推進の体制も見直しました。各リージョン・事業会社ごと(日本、中国、アジア、北米、欧州の地域・カンパニーごと)に 4 つの部会の推進責任者を指名し、LIXIL グループとしてグローバルマネジメント体制を構築しました。グループの重要課題については GMC で決定し、経営層がリーダーシップを発揮していきます。

\* GMC についての詳細はこちら

また、2013年7月には、経営会議での合意を経て、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に署名し、責任ある行動でリーダーシップを発揮していくことを表明しました。

\* 国連グローバル・コンパクト(UNGC)の加盟についてはこちら

## マテリアリティ(重要課題)の特定

現在、事業分野・規模・領域やバリューチェーンを考慮し、社外有識者の意見を反映させた重要課題の特定と中期アクションプランの策定に取り組んでいます。今後グループとしては、特定された重要課題、中期アクションプランにもとづく活動の進捗・成果について WEB サイトなどで、適切に情報開示していきます。

マテリアリティ(重要課題)の特定は、CSR 方針の重点テーマや具体的活動を実行に移すためのプロセスです。GRI ガイドライン第 4 版に記載されたマテリアル・アスペクトの項目を参考に検討しています。



## CSR 活動の目標と実績

### 地球環境負荷低減と循環型社会の構築

地球環境問題への取り組みは企業として果たすべき責任のひとつであるとともに、人類にとっての命題でもあります。グループ全体のマネジメントシステムを整備したことで、以前から進めてきたエネルギー使用量削減や環境法令の遵守などの環境負荷低減が、グループ全体の課題として統合されました。

\* [詳細はこちら「環境活動」](#)

\* [集計対象・範囲はこちら](#)

#### 環境パフォーマンスの向上 (LIXIL グループ中期環境目標への取り組み)

取り組み課題	KPI	2013 年度目標	2013 年度実績 (補足)	自社 評価	2014 年度 以降の目標
環境マネジメント システムの改善*1	新規 ISO14001 認証取得拠点数	海外生産 子会社 5 社	5 社 (中国 2、タイ 2、 ベトナム 1 工場)	○	国内物流部門に ISO14001 認証拡大
省エネ製品の評価 手法の統一*2	評価手法の 正確性の検証	「2012 年度製品 使用時の GHG 排出削減貢献量」 第三者検証実施	保証完了	○	環境データ第三者 保証の拡大
製品の性能向上と 普及による日本の 民生部門へのエネ ルギー削減の貢献 *2	エネルギー削減 貢献量 (製品の 1990 年比 エネルギー削減量 ×販売 数量)	2010 年度比 1.3 倍 (4.85 百万 GJ)	2010 年度比 1.34 倍 (5.03 百万 GJ)	○	2010 年度比 1.50 倍 (5.61 百万 GJ)
調達・製造・ 販売・廃棄における エネルギー消費 総量の削減*1	エネルギー 消費総量	2010 年度比 9%減 (56.7 百万 GJ)	2010 年度比 8.5%減 (57.0 百万 GJ) 原単位は改善、 国内新設住宅着工 数増により生産量が 増加し目標未達	×	2010 年度比 9.3%削減 (56.6 百万 GJ)
日本国内事業所 での CO2 排出量の 削減*2	CO2 排出量	1990 年度比 49%減 (411 千 t)	1990 年度比 49%減 (411 千 t)	○	1990 年度比 50%削減 (403 千 t)
生産活動での 水使用量の 削減*1	水使用量	2012 年度比 1%減 (15,033 千 m <sup>3</sup> )	2012 年度比 17.8%減 (12.481 千 m <sup>3</sup> ) 高岡工場閉鎖に より大幅減	○	2013 年度比 1%削減 (12.356 千 m <sup>3</sup> )

### サプライチェーンマネジメント \*3

「品質・コスト・納期+環境への取り組み」を、これまで資材調達先様の評価基準としてきました。2013年3月期からは、サプライチェーン全体における労働・人権問題などの社会課題についても把握・改善していく取り組みを開始しました。

\* [詳細はこちら「取引先様とともに」](#)

#### 労働環境や資源配分に配慮された サプライチェーンの構築

取り組み課題	KPI	2013年度目標	2013年度実績 (補足)	自社 評価	2014年度 以降の目標
調達方針・ ガイドラインの 共有化	取引金額率	国内：85% (社数率：15%)	国内：85% (社数率：15%)	○	国内：85% (社数率15%)
		海外：60% (社数率：15%)	海外：62% (社数率：16%)		海外：算定中 (社数率15%)
アンケート調査 と活動フォロー	重点評価項目 適合率	国内：100% (重点10項目)	100% (国内50社)	○	国内：85% (全48項目)
		海外：100% (重点11項目100%)	100%(海外16社の 訪問フォロー実施)		海外：85% (全66項目)

※国内：国内事業所での調達

※海外：海外事業所での調達

### 製品安全 \*2

生活者の安全で安心な暮らしを支える製品を扱うメーカーとして、製品安全活動に率先して取り組んでいます。製品安全推進体制を整え、安全な製品を供給する文化・仕組みづくりとともに、消費者にとって適切な情報を的確に伝え、ご理解いただける活動を推進しています。また、事故発生時の対応をはじめ企業として製品安全文化を構築しています。

\* [詳細はこちら「お客様のために」](#)

#### 安全な製品開発体制を確立し、製品安全文化を構築

取り組み課題	KPI	2013年度 目標	2013年度実績 (補足)	自社 評価	2014年度 以降の目標
再発防止・未然防止のため に事故情報・品質情報の設計 への反映と教育の実施	新規重大製品事故 発生件数(製品起因または 製品起因が疑われる事故)	0件	0件	○	0件
有識者とのダイアログを通じた、 製品安全活動、体制の継続的 見直し	製品安全ダイアログの実施	1回	2回「消費者教育」「LIXIL 製品安全活動」をテーマに開催	○	2回
メンテナンス、製品安全、 事故防止についての情報 発信強化	顧客への情報発信数	2回	2回 沖縄・愛媛で製品安全 セミナー開催 安全パンフレット配布	○	第4回の開催、製品安全 セミナーへの参画、維持メン テナンス情報等の発信

## 風土醸成(人材の活性化) \*2

従業員は企業活動を支える要となるステークホルダーです。従業員がいいきと働ける職場、創造性とエネルギーを発揮できる企業風土を醸成するため、ダイバーシティの推進を上位のテーマに掲げました。現状の人員構成や人材活用状況の把握・分析に基づいて、リーダーの育成とともに特に日本国内における女性活躍の推進に注力しています。

\* [詳細はこちら「従業員とともに」](#)

### 多様な人材の活躍を促進するとともに パフォーマンス発揮のための基盤を整備

取り組み課題	KPI	2013 年度 目標	2013 年度実績 (補足)	自社 評価	2014 年度 以降の目標
ダイバーシティ タレントの発掘、 登用と育成	管理職の女性比率	3%	3.3%(76 名： 前年比 29 名増)	○	4%
	定期採用者の 女性比率	30%	2014 年 4 月入社： 32.5%	○	30%以上
	リーダーシップ研修 参加者の女性比率	15%	21.7%(MBA 女性 派遣比率 20%)	○	15%以上
ダイバーシティの 理解促進・ 啓発機会 の創出	ミーティング実績	12 回	13 回	○	12 回／年以上
	LIXIL Women's Network の 活動実績	イベントの開催	・全国大会：1 回 ・エリアフォーラム等：8 回	○	イベントの開催及び ネットワークの拡大
ワーク・ライフ・ フレキシビリティ を推進する 支援 制度の 充実	諸制度・ ルール整備の実施	労使の専門委員会 による検討と 諸制度の整備	・延長保育料の 補助制度導入 ・育児短時間 勤務の適用期間延長 など	○	導入制度の定着と 活用の促進



## 地域社会とともに \*1

LIXIL グループの工場、ショールーム、店舗では、自治体、自治会、地域でご活躍、お住まいのステークホルダーの方々と地域交流、地域貢献などをテーマにダイアログを開催しています。

\* [詳細はこちら「地域社会とともに」](#)

### 地域ダイアログ

取り組み課題	KPI	2013 年度目標	2013 年度実績 (補足)	自社 評価	2014 年度 以降の目標
コミュニティ・ダイアログの開催	開催拠点数	工場 30 拠点、 営業 12 拠点、 店舗 2 拠点 (拠点数変動により 期中見直し)	工場 24 拠点、 営業 7 拠点、 店舗 3 拠点 延べ 69 回の準備会議等を実施、 現場に沿ったダイアログを開催	△	工場 13 拠点、 営業 18 拠点、 店舗 10 拠点

## 世界の衛生問題への取り組み

2013 年度より、国連が掲げる「ミレニアム開発目標」に賛同し、世界の貧困層の居住空間の改善や安全衛生設備・施設への支援などを開始しました。

\* [SISI2018 プロジェクトについての詳細はこちら](#)

### SISI 2018 プロジェクト

取り組み課題	KPI	2013 年度目標	2013 年度実績 (補足)	自社 評価	2014 年度 以降の目標
児童への清潔な衛生環境の提供 ・ミレニアム開発目標(7)に貢献する ・ユニセフ WASH プログラムと連携	学校トイレ改善 および教育支援の 対象児童数	2013 年 11 月発表、 12 月スタートのため、 13 年度目標未設定	中国、フィリピン、 ケニアにて 延べ 60 校以 上、60,000 人 以上	-	・2014 年目標 : 164,000 人 ・2018 年目標 : 累計 2,018,000 人

### [ 活動テーマ対象範囲について ]

\*1…統合 3 年未満の会社を除く

\*2…(株)LIXIL のみ

# ステークホルダーダイアログ

LIXIL グループでは、  
さまざまなステークホルダーの皆様との対話を重視し、  
双方向のステークホルダーダイアログを実施しています。

## ステークホルダーダイアログ

### エンゲージメントポリシー

LIXIL グループでは、さまざまなステークホルダーの皆さまとの対話を重視し、双方向のダイアログを実施しています。これらの対話を通じて知った社会からの要請や期待に応えることで、持続可能な社会の発展に貢献していきたいと考えています。

### トップダイアログ

LIXILグループのCSR経営全般を推進するために、マネジメント層と関連ステークホルダーの皆さまとのダイアログを開催しています。

#### 住生活産業のグローバルリーダーを目指す LIXIL グループへの期待・CSRの意義 (2012年6月20日開催)

「良い住まい、良い暮らしにつながる絆を、世界に広げる」を社会的使命に、住生活産業のグローバルリーダーを目指すLIXILグループ。CSR経営を推進するにあたって社会から何を求められ、何に挑戦しなければならないのか、3名の有識者をお迎えして、意見交換を行いました。



### 課題別ダイアログ

LIXILグループが取り組むべき課題ごとにダイアログを実施しています。ダイアログはCSR推進委員会の各部会主導のもと、開催しています。

#### 第3回製品安全ダイアログ「垣根を越えた協力関係の構築と、未来に貢献する製品安全文化の確立」(2014年3月25日開催)

LIXILではダントツの「LIXIL Quality」を実現するために製品安全活動への取り組みを強化しています。今回3回目となる「製品安全ダイアログ」では、安全学、消費生活アドバイザー、また弁護士のお立場で活躍中の有識者の方々をお招きし、当社が行うべき製品安全活動についてご意見をいただきました。



#### 【過去の課題別ダイアログ】

[第2回 製品安全ダイアログ「消費者に届き、行動に結び付く製品安全教育」\(2013年9月18日開催\)](#)

[第1回 製品安全ダイアログ「LIXILの取り組みと消費者教育」\(2013年1月9日開催\)](#)

## 地域ダイアログ

自治体、自治会、地域でご活躍、お住まいのステークホルダーの方々と LIXIL グループの工場、ショールーム、店舗における地域交流、地域貢献などをテーマにダイアログを開催しています。



### ・株式会社 LIXIL 生産工場 開催一覧 (計 26 拠点、※内、3 工場は合同で開催 )

開催日	開催場所	開催日	開催場所
2013年3月26日	下妻工場(茨城県下妻市)	2014年2月4日	知多工場(愛知県知多市)
2013年7月19日	石下工場(茨城県常総市)	2014年2月6日	筑波工場(茨城県つくば市)
2013年9月10日	大谷工場(愛知県常滑市)	2014年2月12日	鹿島工場(佐賀県鹿島市)
2013年10月22日	有明工場(熊本県玉名郡長洲町)	2014年2月21日	榎戸工場(愛知県常滑市)
2013年10月29日	一関工場(岩手県一関市)	2014年2月25日	佐賀工場(佐賀県多久市)
2013年11月21日	岩井工場(茨城県坂東市)	2014年2月27日	小山工場(栃木県小山市)
2013年11月25日	横浜工場(神奈川県横浜市緑区)	2014年3月7日	尾道工場(広島県尾道市)
2013年11月29日	半田工場(愛知県半田市)	2014年3月14日	熊山工場(岡山県赤磐市)
2013年12月3日	大和工場(茨城県桜川市)	2014年3月20日	桐生工場(群馬県桐生市)
2013年12月4日	伊吹工場(岐阜県不破郡垂井町)	2014年3月25日	小矢部工場(富山県小矢部市)
2014年1月10日	久居工場(三重県津市)	2014年3月31日	東濃工場(岐阜県恵那市)
2014年1月28日	土浦工場(茨城県土浦市)	※生産子会社も LIXIL の工場名称で表記	

[ダイアログ詳細はこちら\(PDF:2.31MB\)](#)

### ・株式会社 LIXIL 営業拠点 開催一覧(計 8 拠点)

開催日	開催場所	開催日	開催場所
2013年3月13日	横浜港北ショールーム (神奈川県横浜市都筑区)	2014年3月11日	東京西支店(東京都立川市)
2013年11月27日	高松支店(香川県高松市)	2014年3月17日	山口支店(山口県山口市)
2014年2月26日	熊谷支店(埼玉県熊谷市)	2014年3月26日	青森支店(青森県青森市)
2014年3月6日	札幌支店(北海道札幌市東区)	2014年3月27日	船橋支店(千葉県船橋市)

[ダイアログ詳細はこちら\(PDF:1.02MB\)](#)

### ・株式会社 LIXIL ビバ 店舗 開催一覧(計 4 拠点)

開催日	開催場所	開催日	開催場所
2013年3月21日	スーパービバホーム岩槻店 (埼玉県岩槻市)	2014年3月5日	スーパービバホーム手稲富丘店 (北海道札幌市手稲区)
2013年2月28日	スーパービバホーム岩槻店 (埼玉県岩槻市)	2014年3月5日	スーパービバホーム清田羊が丘店 (北海道札幌市清田区)

[ダイアログ詳細はこちら\(PDF:724KB\)](#)

## **お客さまのために**

**お客さまの目線に立った商品やサービスを提供するための  
取り組みを実施しています。**

## お客さま満足度を高める

### CS \*活動

LIXIL グループでは企業理念「LIXIL CORE」および、グループ共有の価値観である「LIXIL VALUE」に基づき、お客さまの目線に立って考えられた商品やサービスの提供、コミュニケーションを通じて、お客さま満足度の向上を目指しています。

※CS(Customer Satisfaction : お客さま満足、顧客満足)

<お客さまの声を大切に>

お客さまからいただく声を大切に活用し、お客さまに満足いただける商品・サービスを提供します。

<従業員は全員CS担当>

従業員一人ひとりが、常にお客さまの目線に立って行動し、ひたむきにお客さまの満足を追求し続けます。

\* [「LIXIL CORE」と「LIXIL VALUE」はこちら](#)

### お客様の声を改善につなげる仕組み

お客さま相談センターや修理受付センター、総合商品情報支援センターなど、お客さま窓口で寄せられる月間約 29 万件のデータを共有データベースに蓄積・情報共有し、関連部署で改善を行い、商品やサービスの向上につなげています。

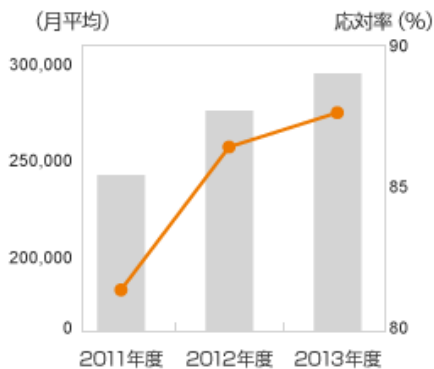


※VOC : お客さまの声(Voice of customer)

## お問い合わせ件数と満足度調査の実施

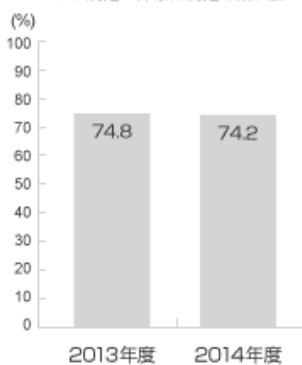
商品をご利用・ご検討されているお客さまからのご質問やご相談、修理依頼のほか、取引先様からの件数も含め、2013年度は毎月平均29万件以上のお問い合わせをいただきました。また、お客さま相談センターでは、半期に1度、満足度アンケートを実施し、お客さまにご満足いただける対応が来ているかを確認し、日ごろの取り組みの成果を検証しています。

### お問い合わせ件数



### 満足度調査結果

※コールセンターの評価結果で  
やや満足～非常に満足の累積値



### 満足度調査でいただいたお客さまの声

- ・お客さま目線で対応して欲しかった
- ・なかなか電話が繋がらないのが残念でした
- ・もう少し詳しい説明が欲しかったです
- ・品番の特定に熱心に対応してくれた
- ・声に温かみがあり、感じが良かったと思います
- ・古い商品に関する質問にも丁寧に回答してくれました

(調査時期: 2014年4月)

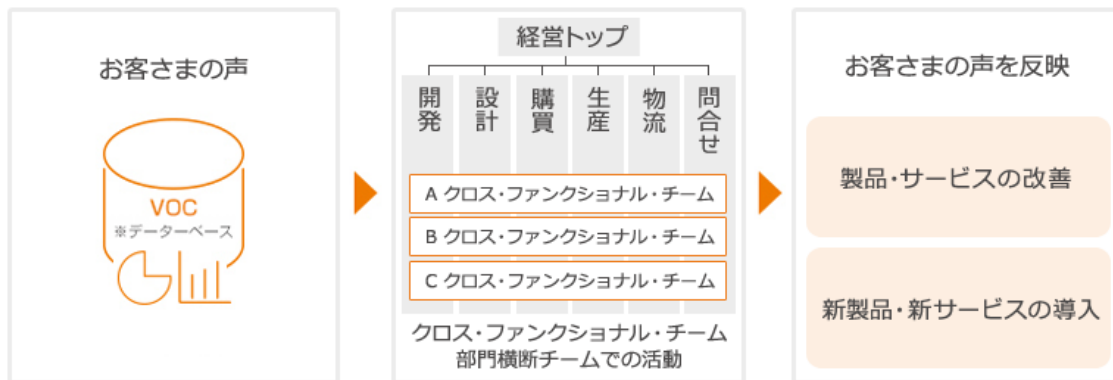


## シックスシグマの導入

LIXIL は、お客さまの満足を高めていくことを企業活動の重要課題と位置付け、常にお客さまの声(VOC: Voice of customer)に耳を傾けながら、より良いモノづくり、サービスの構築を進めています。その活動が持続的な活動となる、しくみと風土を根付かせることを目的として、シックスシグマを導入・展開しています。



シックスシグマは、まずお客さまの声を聞き改善課題を設定することから始まります。そして、勘や経験に基づいた判断ではなく、数値分析に基づいた事実によって、業務やサービスにおけるばらつきを抑え、品質改善につなげていきます。その改善活動において、各カンパニーや部門横断型のクロス・ファンクショナル・チームをつくり、課題改善プロジェクトを実施していきます。シックスシグマを通じて、お客さま目線で業務改善課題を見える化し、製品の品質はもちろん、サービスから日常の業務まですべての活動においてイノベーションを実現していきます。



## 応対サービスの向上で最優秀テクノロジー部門賞を受賞

LIXIL お客様相談センターは、協力会社と協働で2014年9月19日に行われた、コンタクトセンター(コールセンター)の業務改善の取り組みを表彰する「コンタクトセンター・アワード 2014」において最優秀テクノロジー部門賞を受賞しました。

「お問合せ回答の生産性」をあげながら「対応の品質」を向上させることをテーマに活動し、音声認識システムの導入、業務マニュアルの改善やお客さまとの応対を自動評価するシステムの開発が、「使い手の気持ちを理解した最新ツールの展開である」と評価を受けました。



## お客様の声を活かした改善事例

お客さま窓口に寄せられた「お客様の声」をもとに改善した事例を紹介します。

\* [「お客さまサポート」ページで、さらに事例を見たい方はこちら](#)

### ● [お客様の声]なかなか電話が繋がらない……

朝から、お客様相談センターに何度も電話しましたがなかなか繋がりません。  
急いでいるときにつながらないので、とても困ります。なんとかしてもらえませんか？



### ● 改善内容

お客様相談センターの商品別のチーム編成の見直しにより、お問い合わせの件数に応じた人員配置を行ないました。また相談員の専門性及び応対スキル向上を図ることによりお客様の電話がつながり易くなりました。(2013年2月～)

改善前

対応率 2012年9月 **69%**



改善後

対応率 2013年2月 **86%**

17%  
向上



## お客さま窓口のスキルアップの取り組み

お客さまのお困りごとがスムーズに解決できるように、業務知識や商品知識の研修を定期的に行っています。また、相談員のスキルに応じて表彰を行い、モチベーション向上を図っています。

### 【商品研修】トイレ商品を使用した商品知識研修の様子



### 【施工研修】窓サッシ取付の施工研修の様子



### 【表彰制度】定期的に実施している応対コンテストの表彰者



## ショールームにおける取り組み

ショールームは、お客さまと直接コミュニケーションを取ることができる数少ない接点の 1 つです。LIXIL は、全国 96 ヶ所(2014 年 8 月現在)にショールームを構えています。これらのショールームでは、実物の商品をご覧いただける他、広くお客さまにご来館頂ける「ショールームフェア」などのイベントも開催しています。

### 「LIXIL ショールーム VALUE」の実践

LIXIL ショールームでは、ショールームコーディネーター全員が常にお客さま満足度を高める活動を心がけるため、「LIXIL ショールーム VALUE」を実践しています。

LIXIL は世界中の人びと、一人ひとりの“Good Living”を実践しています。

ショールームでは、

- 生活者に対して、いい暮らし・いい住まいを体験、実現できる「場」
  - 生活者の価値（満足度）を高め、信頼と感動を創造する「場」
- を提供し、Good Livingに貢献します。

ご来館頂いたすべてのお客さまに「LIXILショールームVALUE」を実践し、お客さまの満足を最大限に高めます。

「LIXILショールームVALUE」

1. 待たせない、煩わしさのない「受付」
2. 見やすい、分かりやすい「商品展示」、「設え」、「表示」
3. きめ細かい、親身になった「接客」、「もてなし」
4. 質の高い、プロフェッショナルな「説明」、「提案」

### ショールームコーディネーターの育成

LIXIL ショールームでは、建築主さまの他にビジネスユーザーさまや地域住民の方々など、さまざまな方にご来館いただいています。そのため、ご来館されたお客さまごとのどのような対応が最適かを見極め、来館目的に応じて適切にご案内できるショールームコーディネーターの育成に取り組んでいます。

商品研修では、新人コーディネーター向けの基礎研修を始め、お客さまの期待に応える提案を行えるよう知識や経験に応じたレベルアップ研修を実施しています。また定期的に、お客さまに満足いただくための知識がコーディネーターに備わっているかを測定し、不足している、知識、技術、モチベーションを高めるカリキュラムを設けています。さらに、全国にショールームの運営品質を管理する担当者を配置し、エリアごとの課題を見つけよりよいお客さま対応が行えるよう、さまざまな改善活動や研修を実施しています。

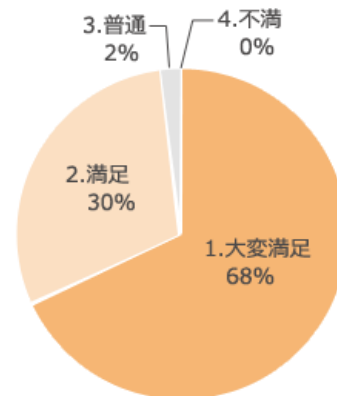


## 接客アンケートの実施

ショールームでの応対や商品提案レベルの向上を目的に、ご来館されたお客さまに「接客アンケート」へのご協力をお願いしています。アンケート内容はショールームコーディネーターに伝えられ、ショールーム運営にも活かされます。アンケートの結果をもとに、お客さま一人ひとりにご満足いただける提案をするための研修を実施しています。

## 2013 年度接客アンケート結果

(全13支社97ショールームで実施:有効回答数:120,859件)



## 見やすくわかりやすいショールーム

自由にご見学されるお客さまにもご満足いただくため、ショールーム内の商品配置や POP の内容を改善しています。具体的な施工例など、お客さまの理想の暮らしを見つけるヒントをご自身で検索できる大型タッチ式モニターを設置を進めています。ご見学後に、ご自宅に戻られてからご家族で検討できるツールもご用意しています。



▲ 大型タッチ式モニター

▼ POP

**【キッチン編】**  
**20年前とこんなに違う!**

- エコ** 出しっぱなしの水やムダな光熱費を節約できます。
- 収納力** ラクな姿勢で取り出しやすい! しかもたっぷり収納できます。
- お掃除** 固着だったレンジフード内部の掃除が簡単に!
- 便利** 調理中の「湯た」を解消する様々な仕掛けを用意しました。

さらにエコ、収納力、お掃除、便利の4つのポイントで、LIXILのキッチンが、20年前とこんなに違う理由を詳しく解説しています。

さらにエコ、収納力、お掃除、便利の4つのポイントで、LIXILのキッチンが、20年前とこんなに違う理由を詳しく解説しています。

**収納力** たっぶり容量ですっきり収納。しかも軽く引けて取り出しやすい。らくパッと収納

加熱調理のエリア | 調理のエリア | 水まわりのエリア

## 製品安全への取り組み

株式会社 LIXIL では、企業の利益ならびにお客さまや社会からの信頼獲得の源泉が「品質」であることを理解し、「株式会社 LIXIL 品質方針」に基づき、ものづくり・サービス、そしてあらゆる仕事に誇りを持ち、常に最高の品質を追求しています。

特に、重大な品質の不備はお客さまに不安を与え、信頼低下につながるという認識のもと、「LIXIL 製品安全行動指針」に基づき、部門横断的に課題解決に取り組んでいます。

### 株式会社 LIXIL 品質方針

- 株式会社LIXILは、住生活に関わる商品を提供する総合メーカーとして、常にお客さまの視点から、製品とサービスの品質の維持・向上に取り組めます。
- ダントツ品質の製品とサービスで、お客さまに安全で快適な住生活を提供することにより、企業業績の向上に貢献します。

## 製品安全行動指針

製品安全活動は、LIXIL のダントツ品質の前提となり、お客さまに安全で安心な生活を提供する上で最優先の事項です。製品安全を確実に実施するために製品安全行動指針を定め、製品安全の確保に積極的に取り組みます。

### LIXIL 製品安全行動指針

#### イノベーション

- 製品安全分野で世界トップレベルの体制を構築します。
- 絶対安全に近づくために革新的な安全技術の開発に努めます。

#### サステナビリティ

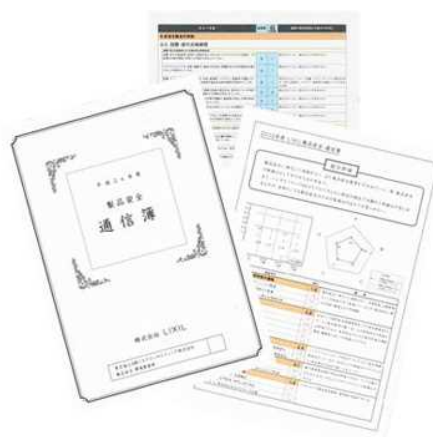
- 最先端の製品安全情報を収集し、常に製品安全活動の向上を指します。
- 製品のライフサイクル全般にわたり安全性を確保するため、ビジネスパートナー、お客さまとのネットワークを構築します。

#### インテグリティ

- 代々のお客さまから信頼を得るために、誠実かつ実直に製品安全活動に取り組めます。
- お客さまの安全・安心を第一に、製品安全情報を迅速に分かりやすく開示します。

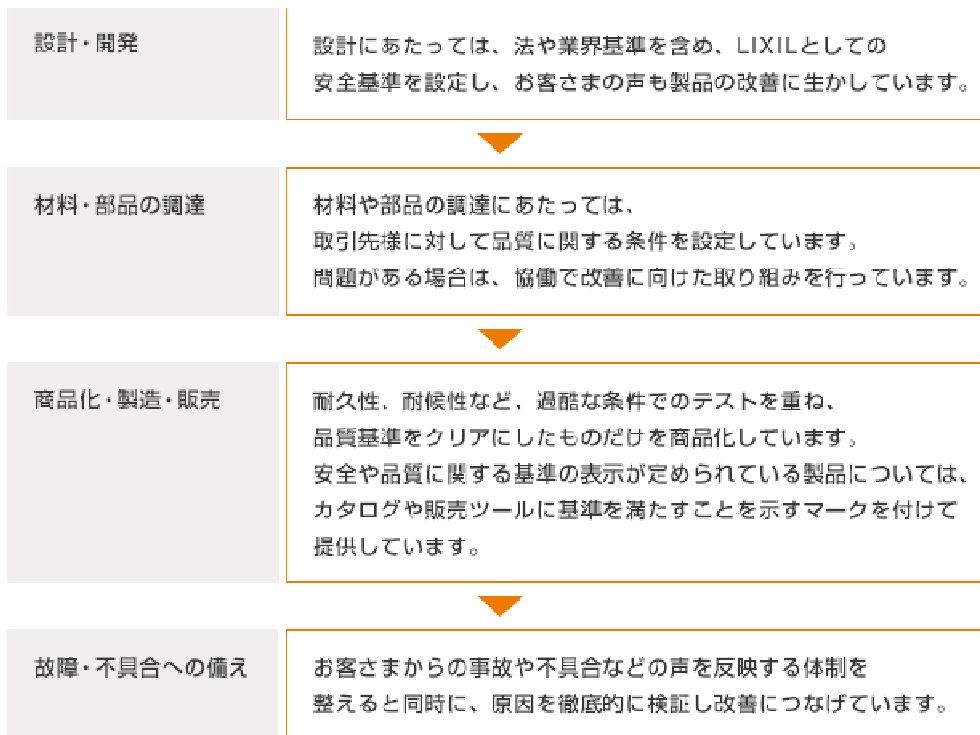
## 製品安全通信簿

LIXIL では、半年ごとに第三者による「製品安全通信簿」を作成しています。「製品安全体制の構築」「安全な製品の供給」「消費者コミュニケーション」「事故発生時の対応」「製品安全文化の構築」の 5 つの視点、147 項目で評価し、その結果に基づき、自社の活動目標を設定し活動しています。また、年に一度「製品安全活動報告書」を作成し、社外専門家の意見を取り入れながら次年度の製品安全向上に反映させています。



## ライフサイクル全体での品質向上

LIXILでは、製品の開発から販売後まで、確かな品質の製品とサービスをお届けし、お客さまの安全を確保するため、商品の開発段階から、設計、製造、流通、そして販売後のサポートまで、さまざまな段階で品質向上の取り組みを行っています。



## 重大製品事故発生時の対応と再発防止のための取り組み

LIXILでは、製品事故が発生した際には、情報入手から24時間以内に、リスク管理チームに情報を集約し、関係部署に緊急連絡を発信、お客さま相談窓口が緊密な連携で現場対応、事故調査等を実施する体制を整備しています。また、「消費生活用製品安全法に基づく重大製品事故報告・公開制度」に基づき、行政へは、事故情報入手から10日以内の報告を行います。2013年度以降規重大製品事故は0件でした。再発防止のため、事故情報の隠蔽時への反映や、未然防止のための安全技術開発の実施を進めています。

\* [製品をお使いのお客さまへ重要なお知らせ](#)



## 製品安全対策優良企業表彰

経済産業省が主催する「第8回 製品安全対策優良企業表彰制度」の大企業製造・輸入事業者部門において、優良賞を受賞しました。今回の受賞は、LIXILの①業界に先駆けた10年間の長期保証サービスの展開や点検時期お知らせ機能による点検・トレーサビリティ確保といった経年事故防止の取り組み、②過去のトラブルの原因を究明し、製品改善に反映してきた取り組み、③「Safe Lifestyle Gallery(安全なくらしのギャラリー)」の開設をはじめとした、製品安全関連情報を社内外へ公開する啓発活動の推進などの取り組みが高く評価されました。

\* [詳細\(表彰制度の概要など\)はこちら\(PDF:220KB\)](#)



### 【総評】

社員や消費者の製品安全意識の向上に積極的に取り組み、製品安全文化の普及に貢献している状況を高く評価します。統合前の個社の経験をまとめ上げ、基準化を進めており、統合によるメリットが出てくることが期待されます。審査を通じて、統合までの各個社が一丸となって製品安全に取り組んでいることが確認できました。今後さらに設計・評価基準の整備等を進め、実績を積み上げて、本表彰制度に再挑戦いただくことを期待します。

## Safe Lifestyle Gallery(安全なくらしのギャラリー)

お客さまに末永く安心して製品をご愛用いただくため、「Safe Lifestyle Gallery(安全なくらしのギャラリー)」を、LIXIL WINGビル LIXIL 資料館(東京都江東区)内にオープンし、LIXILの製品の正しい使い方と定期的な点検修理の大切さについてご理解いただき、暮らしの安全・安心に役立てていただく場として運営しています。「製品安全コーナー」では、シャワートイレの焼損事故を再現した展示、「NITE コーナー」では、独立行政法人製品評価技術基盤機構(通称 NITE)が行った製品事故の再現テストの映像を放映しています。「お手入れメンテナンスコーナー」では、末永く安心して商品をお使いいただくためのポイントを紹介し、製品安全・消費者教育に関する書籍もご覧いただけます。さらに、「特別展示コーナー」では製品安全・消費者教育に係る新しい情報や商品や、お子さまの安全に配慮した商品に与えられる2013年度キッズデザイン賞を受賞した商品を展示しています。Safe Lifestyle Galleryには、2015年2月までに消費者団体や業界関係者・取引先など約2,000名にご来場いただきました。社外見学者からは、製品安全に取り組むLIXILの企業姿勢に対して好意的な評価の声が多く聞かれます。



▲左：故障を放置して使い続けたシャワートイレ焼損(再現品)

▲右：ミニキッチン用電気コンロの改善例と洗面化粧台の経年劣化による鏡落下(再現品)

## 【LIXIL 資料館アンケート より(2015 年実施)】※一部抜粋

- ・大変興味深くコンセプトに共感しました。事故事例と対策製品が対比されていて分かりやすかったです。
- ・一番初めに焼け焦げたトイレが目飛び込んできて衝撃的でした。祖母は年をとってから以前よりトイレの掃除やガスコンロの掃除をしなくなったので注意しようと思いました。
- ・事故の展示が他社にはなく、過去を学んで未来に生かすというこの資料館の意義を表現していると感じました。
- ・「Safe LifeStyle Gallery」の展示スペースを増やし、さらに多くの事例を紹介していただきたいと思いました。

\* [「LIXIL 資料館」の詳細はこちら](#)

\* [「Safe Lifestyle Gallery」のニュースリリースはこちら](#)

## 製品安全ダイアログの開催

LIXIL では、製品安全への取り組みを強化するため、「製品安全」に関する有識者ダイアログを開催しています。2013 年度は、9 月に公益社団法人消費生活アドバイザー・コンサルタント協会の古谷氏、立山氏、小笠原氏、杉並くらしの情報プロジェクト代表の田之江氏をお招きし、「消費者に届き、行動に結び付く製品安全教育」についてご意見をいただきました。また 3 月には明治大学名誉教授の向殿氏、公益社団法人消費生活アドバイザー・コンサルタント協会の古谷氏、弁護士の五味氏をお招きし、「垣根を越えた協力関係の構築と、未来に貢献する製品安全文化の確立」というテーマについてご意見をいただきました。

\* [詳細はこちら](#)



## **取引先様とともに**

**取引先様との公正・公平な取引を心がけ、  
CSR 調達を推進しています。**



## 調達に関する考え方

### 調達方針

LIXIL グループの事業は、ビジネスパートナーである取引先様に支えられています。

世界中の取引先様と健全なパートナーシップを築いていくために、「公正・公平な取引」「社会規範の順守」「人権の尊重と労働環境への配慮」「環境への配慮」「取引先様との共存共栄」を柱とした「調達方針」を定めています。

#### LIXIL 調達方針

##### <公正・公平な取引>

取引の機会を平等に開放し、取引先様を広く求めます。選定にあたっては、品質・コスト・納期に加え、環境・人権・労働安全などの CSR を十分に考慮し、公正・公平に評価します。

##### <社会規範の順守>

調達活動において関連する法令およびルールを順守し、社会に信頼される活動を実施します。

##### <人権の尊重と労働環境への配慮>

国際的に宣言されている人権基準を尊重すると共に、適切な労働環境を重視します。

##### <環境への配慮>

環境負荷の小さい原材料・資材を優先して調達していきます。

##### <取引先様との共存共栄>

取引を通じ、パートナーとして共に成長する関係を目指します。

### サプライチェーンマネジメント

LIXIL グループでは 2011 年 4 月の 5 社統合以降、サプライチェーンマネジメントの枠組み整備を進めてきました。取引先様とともに持続的に発展していくため、国内外の調達部会を通じて、CSR 調達を含めた体制整備を実施しています。取引先様への理解浸透として、当社の「調達方針・ガイドライン」の共有化を図り、ご理解いただいた調達先様へは、次のステップとして「CSR 調達アンケート」を用いた現状把握と改善活動のフォローを行っています。

2013 年度は、活動の更なる深化を目的として「CSR 調達アンケート」項目を大幅に改訂し、取引金額で国内 85%、海外 62%を占める調達先様への「調達方針・ガイドライン」の共有化および、それらの企業の「CSR 調達アンケート」の中で特に重要であると思われる重点項目の適合率 100%を目標として活動し、達成しました。調査結果で評価の低い取引先様については、改善のための活動フォローを行ってきました。また海外調達先への実施を強化していきます。

\* [CSR 調達アンケートについての詳細はこちら](#)

#### 2013 年度進捗状況(LIXIL グループ全体)

重点テーマ	取り組み項目	KPI	2013 年度目標		2013 年度実績		2014 年度目標	
			国内	海外	国内	海外	国内	海外
労働環境や資源配分に配慮されたサプライチェーンの構築	1、調達方針・ガイドラインの共有化	取引金額率 (社数率)	85%	60%	85%	62%	85%	-%
			-15%	-15%	-15%	-15%	-15%	-15%
	2、アンケート調査と活動フォロー	重点評価項目適合率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		評価項目適合率(14年度は全項目を対象にした適合率に変更)	-	-	79%	84%	85%	85%

[ 対象範囲 ]

(株)LIXIL および(株)LIXIL グループ連結会社の調達先

国内…国内事業所での調達

海外…海外事業所での調達

#### 2014 年度以降の改善に向けた調達部会重点テーマ (LIXIL グループ全体)

1、日本国内での調達(調達先：日本国内企業、海外企業)	課題の抽出と、取引先様への深化した推進活動
2、海外拠点での調達(調達先：海外企業、日本国内企業)	中国、韓国、タイ、ベトナムなどの ASEAN 地域 ならびに欧米地域への活動展開

#### 取引先様の選定

LIXIL グループは、取引の機会を公平に開放し、取引先様を広く求めています。選定にあたっては、QCD(Quality : 品質、Cost : コスト、Delivery : 納期)に加え、環境保全や人権、労働安全への取り組みなど、CSR 活動の内容などを評価して決定する仕組みを構築しています。

#### 取引先様(『資材購入先』『業務委託先』様)からのコンプライアンス情報の受付

LIXIL グループは、企業活動を通して、広く社会に信頼される有用な企業でありたいと思っています。そのために、LIXIL グループのコンプライアンス違反に関する情報を提供していただきたく、社外の法律事務所に受付窓口を設けています。

\* [情報提供はこちら](#)

## CSR 調達

### CSR 調達促進のために

LIXIL では、これまでも取引先様について「取引評価基準」を設け、QCD(Quality : 品質、Cost : コスト、Delivery : 納期)や技術力、安定供給能力だけでなく、コンプライアンスや環境への配慮の観点から企業の信頼性などを総合的に評価してきました。

2012 年度からは、より具体的な環境保全項目を整備、CSR 調達を促進する観点から新たに CSR に関する項目を追加し、取引先様の環境対策や法令順守状況を定期的に確認しています。今後は、グローバルな調達活動に対応するため、取引評価基準に人権、労働安全等の項目を追加し、サプライチェーンマネジメントを強化していきます。

### CSR 調達の考え方



### 化学物質等管理(取引先様へ)

LIXIL では、国内において製品含有および生産工程での使用を禁止もしくは管理する物質を定めています。「LIXIL 使用管理物質一覧表」は、以下よりダウンロードいただけます。

\* [LIXIL 使用管理物質一覧表\(2014.11.01 更新\)](#)

### CSR アンケート調査の実施

調達部会の重点テーマである「労働環境や資源配分に配慮されたサプライチェーンの構築」のためには、取引先様の十分なお理解とご協力が欠かせないと考えています。調達方針に基づいた「CSR 調達アンケート」を用いて、環境保全や人権、労働安全への取り組み、地域コミュニティへの配慮などに関する調査を行っています。各項目について適正に評価し、調査結果の低い取引先様については、改善のための推進として支援活動を強化、または取引先様を選定する上での判断材料としています。2013 年度以降はアンケート項目に新たに「CSR 経営」「人権」「労働」「安全・衛生」「地域貢献」などの項目を追加(全 66 項目)し、CSR 調達に向けたより具体的な取り組みへつなげる実態把握を進めています。そのうち日本ではリスクの少ない項目を除いた 48 項目に限定したアンケートを実施しています。

### CSR 調達アンケート項目 (2013 年度)

	海外	日本
1.CSR 経営	10 項目	6 項目
2.公正な事業	8 項目	8 項目
3.人権	7 項目	6 項目
4.労働	13 項目	9 項目
5.安全・衛生	9 項目	7 項目
6.地球環境保全	14 項目	10 項目
7.地域貢献	5 項目	2 項目
合計	66 項目	48 項目

### 2013 年度アンケート表ダウンロード

\* [海外のサプライヤー向け\(PDF:233KB\)](#)

\* [日本のサプライヤー向け\(PDF:197KB\)](#)

## 取引先様とのコミュニケーション

### 品質改善活動の推進

信頼性の高い商品を提供し、社会へ貢献するためには、取引先様との強固なパートナーシップが欠かせません。LIXIL では、取引先様と協働して品質の管理向上に努めています。常に安定して品質の高い製品を納入していただける体制を維持・向上するために、既存の取引先様に対して、品質維持監査を実施しています。監査では、工程管理や設備管理、検査表の整備、試験などの項目に関して実施し、是正処置が必要な場合は協働で改善活動に努めています。また、「品質改善会議」の開催や新規部品事業の立ち上げ支援、海外調達品の品質保証活動の推進などを行っています。2013 年度はこれらの取り組みを通じて、取引先様に起因する不良・不具合件数を前年度比約 30%減と大幅に減らすことができました。

### 方針説明会の実施

LIXIL の方針をより深く理解していただくことを目的に、主要取引先様向けの方針説明会を開催しています。「第 3 回 LIXIL 取引先様方針説明会」を 2014 年 6 月 18 日東京都にて開催、購買・物流に関連した取引先様 270 社 475 名が参加されました。方針説明会では、全体方針や調達方針、品質向上への取り組みなどを説明させていただいたほか、2013 年度のコストダウン、品質向上に大きく貢献いただいた取引先様(購買：2 社、物流：2 社)への表彰、ならびに感謝状の贈呈を行いました。



## **社会・地域とともに**

**ステークホルダーと対話を重ね、社会や地域とともに、  
さまざまな活動を展開していきます。**

## 水資源の保全活動

### 「水から学ぶ」

住まいの水まわり商品を扱う企業として、従業員が講師となって海外や日本国内の子どもたちに授業を行うことにより水の大切さを伝えています。



#### ベトナムの活動

水まわり商品の主要な生産拠点であるベトナムは、未だ衛生設備の整っていない地域が残っており、環境保全の知識も十分ではありません。ベトナム国内での衛生陶器トップシェアをもち、ベトナムの発展とともに現在の地位を築いてきた企業として、少しでもベトナム社会の役に立ちたいと考え、国際NPO「Bridge Asia Japan」、「Seed to Table」や現地の行政と協働し、現地の社会情勢や環境に応じた水に関する環境教育を実施しています。

7年目となる2013年度は、夏と冬にベトナム北部ホアビン省や中部フエで実施した他、ハノイの工場で見学も行い、交流を深めました。



#### 日本での活動

地域の営業部門の従業員が、小学校へ赴き、合計2時限の授業を実施しています。オリジナル教材を使い、地球の水循環や水問題を通じて「水は限りある資源」であることを認識し、自分たちの暮らしを振り返るきっかけを与える出前授業を実施しています。2010～2013年度の4年間で、延べ30支店が74回の授業を実施、約3,900名の生徒が参加しました。参加した生徒からは、自分たちがいかにたくさんの水を無意識に使っているかが分かったこと、世界の他の国の水事情への驚き、そして、これからはもっと水を大切にしていきたい、という素直な感想が多数寄せられました。講師を務めた従業員は、子どもたちの熱心な反応や真面目に授業を聞いてくれる姿勢に触れ、やりがいを感じた者が多く、従業員の成長にもつながっています。



## 水資源の保全活動 ベトナム活動教育について

### ベトナム環境教育の考え方

2006年、LIXIL(当時の株式会社 INAX)は、ベトナム国内での衛生陶器トップシェアを持ち、ベトナムの発展とともに現在の地位を築いてきた企業として、少しでもベトナムの社会の役に立ちたいと考えました。単に資金や物資の提供でなく、ベトナムの未来につながる活動を支援するパートナーを探し、実績ある NPO と2007年から具体的な活動をはじめ、今年で8年目となりました。水まわり製品を扱う企業としての蓄積を活かし、「水環境」をテーマに、ベトナムの将来を担う子どもたちにとって本当に必要とされる教育の支援を目指しています。それは、「水が汚れるからゴミを川に流さないようにしよう」ではなく、「何が原因で川が汚れるのかを理解して、どうしたら良いかを子どもたち自身が考える」ための教育です。



この考えにもとづき、LIXIL は現地の実情に沿った教材を作成し、現在は国際 NPO である Bridge Asia Japan(BAJ)、Seed to Table(STT)とベトナムの現地従業員とともに、現地の実情に沿った実践的な環境教育として、夏と冬の年2回の活動を継続して行っています。

### 協働先について

#### Bridge Asia Japan (BAJ)



1993年設立のBAJは、その名の通りアジアと日本の架け橋となって国際協力を行っています。ベトナムでは貧困層の子どもたちへの支援を中心に、環境教育については2002年ごろから準備を始め、ベトナム中部のフエで2004年から本格始動しています。プラスチックなどの有価物回収や、生活排水を直接川に流さないように浄化槽を設置するなど、BAJの実践的なサポートにより、現地の子子どもたちが自ら考え行動する活動が広がっています。LIXILは、2007年からBAJとともにホーチミンやフエで環境教育活動を行っています。

\* [Bridge Asia Japan \(BAJ\)の公式 HP](#)

#### Seed to Table (STT)

**Seed to Table** ~ひと・しぜん・くらしつながる~

STTは、2009年7月設立の日本のNPO法人で、ベトナムの人々と共に、地域の種、自然、そして文化を守り、自給と収入を改善するための経済基盤を整えながら、家族や友人と楽しく暮らしていけるようになることを目指しています。農法などの地域の知恵を記録し伝えることをはじめ、人々の出会いと話し合いの場をつくり、次世代を担うリーダーを育てながら、食と農と地域づくりに取り組んでいます。ベトナム北西部ホアビン省はその活動の中核拠点です。LIXILとSTTの協働活動は、2010年、ホアビン省ナムソン村での環境授業からスタートし、その後隣接するフーヴィン村、ディックザオ村と活動地域を広げています。

\* [Seed to Table\(STT\)の公式 facebook ページ](#)



\* [Seed to Table\(STT\)の公式 HP](#)

## 最新の活動 2014年7月16日～20日

15回目となる今回は、ベトナム中部のトゥア・ティエン・フエ省と北部のホアビン省で、トイレについての授業や地域のトイレ調査、トゥア・ティエン・フエ省に隣接するクアンナム省にある Danang INAX で工場見学を行いました。BAJ や STT のスタッフ、ベトナム現地法人の LIXIL INAX VIETNAM Corporation(以下 LIXIL VIETNAM)および LIXIL INAX DANANG Manufacturing Co., Ltd. (以下 Danang INAX)から4名の従業員、および日本から訪れた2名の従業員が、子どもたち約120名と活動を通して交流を深めました。



### <活動内容の詳細>

#### ■ BAJ とともに

LIXIL が協働している BAJ は、年間を通し、トウイスワン小学校の1～3年生の全クラスと、ラムモンクアン中学校の1年生(日本の小学6年生)の希望児童を対象とした環境教育を行っています。今回の3日間の活動は、夏休み中にも関わらず、環境活動を継続しているトウイスワン小学校の1～3年生22名と、ラムモンクアン中学校環境クラブの21名、そして、フエ市フォンロン地区の中学2年生～高校1年生(日本の中学1年生～高校1年生)6名、合計49名の子どもたちと、BAJ スタッフ6名、Danang INAX 従業員2名、LIXIL VIETNAM 従業員1名、LIXIL 従業員2名で行いました。フォンロン地区は、BAJ が2008年から2010年まで活動していた地区で、LIXIL(当時の株式会社 INAX)も授業を行ったことがあり、今回は子どもたちから BAJ に環境活動を再開したいという要望があったことがきっかけとなりました。

#### ラムモンクアン中学校での環境活動とトゥア・ティエン・フエ省フエ市内のトイレ調査 (7月16日)

ラムモンクアン中学校は、前回も環境活動を行った学校で、フエ市から車で約1時間の距離の海とラグーンに挟まれた白砂地帯が広がる村にあります。最初に、子どもたちからの活動報告を行いました。ラムモンクアン中学校の子どもたちは、校庭の樹木のCO<sub>2</sub>吸収量と全校生徒が排出するCO<sub>2</sub>排出量を比較する研究と、ツル性植物の成長観察とコンポストづくりの発表、フォンロン地区の子どもたちは、自分たちの住む地域と町の中心部の通りにおける樹木のCO<sub>2</sub>吸収量と、その通りを通行する車両から排出されるCO<sub>2</sub>排出量を比較した研究を報告してくれました。どちらの研究発表でも、人や車両の排出量のほうが吸収量より小さいという結果でした。子どもたちは、発表を聞いていた校長先生に校庭の樹木の植樹をお願いしていました。

その後は、テキストを使った授業を行いました。このテキストでは、トイレが使用されるようになった歴史的背景や、トイレの種類やその特徴、使い方、掃除方法を学習しました。講師となった Danang INAX の従業員は、子どもたちに「普段どこでおしっこしている？」などと声をかけ、意見を引き出しながら授業を行っていました。子どもたちは「庭でおしっこをしている」など現状を恥ずかしがりながらも元気に答え、それによっておこる問題点を勉強しました。



ツル性植物の成長記録の説明



クイズを交えつつ授業をすすめる



友達と意見を交わす子どもたち



午後は、4グループに分かれフェ市内のトイレ調査を行いました。グループそれぞれに LIXIL の従業員と BAJ スタッフが付き、トイレの種類や問題点などを調査します。小学生グループは、グループ内の友人 2 名のお家のトイレ(水洗トイレとドライトイレ)の調査をしました。どちらも一般的なトゥイスワン地区内の農家です。それぞれのトイレで、午前中に勉強したトイレの授業を思い出し、トイレの種類を考えていました。また、「床がきれいに掃除されている」「雨だと困るね」と気付いた点を記録していました。



トゥイスワン地区の農家宅



自宅のトイレを紹介



屋外のドライトイレ

### トゥイスワン小学校での環境活動とフェ市内のトイレ調査まとめ（7月17日）

トゥイスワン小学校はフェ市郊外にある小学校で、前回も訪れた小学校です。午前中は、トゥイスワン小学校の子どもからこれまでの活動報告として、地域に生えている木や地域の中の好きな場所の紹介を模造紙に書いた地図などを用いて紹介してくれました。その後、子どもたちといっしょに外へでて、発表のあった好きな場所に連れて行ってもらいました。LIXIL の従業員は童心に返り、通り道の木の実を摘み取り食べたり、いっしょに手作りの網を使って魚を獲ったり、家の軒下に潜ってアリジゴクを探したりしながら、子どもたちと交流を深めました。



地域に生えている木についての説明



いつも通る裏道をみんなで探検



子どもといっしょにアリジゴク採集

午後は、小学校に戻りフェ市内のトイレ調査のまとめを行いました。調査に同行した LIXIL の従業員がアドバイスしながら、昨日撮影した写真を使って模造紙にまとめていきます。2 日間で親しくなった子どもたちと従業員たちは、調査結果を楽しそうに一枚の紙にまとめていました。出来上がった模造紙には、調査結果だけではなく、「トイレの見えない部分の構造を教えてもらった」や、「いっしょに市場のおばさんにインタビューをしてくれた」など、今回の環境活動の思い出も合わせて書き込まれていました。



まとめ方をアドバイス



調査した結果をいっしょにまとめる



写真と絵を使って完成

## Danang INAX の工場見学(7月18日)

3日目は、環境教育に参加した子どもたちや学校の先生を DanangINAX に招待し、環境活動内容の報告と工場見学を行いました。フエ市から工場までは車で3時間弱の遠い道のりです。まず初めに、DanangINAX の従業員に対し子どもたちがこれまでの環境活動を報告しました。大勢の大人たちの前で、子どもたちはこれまで以上に緊張しながら報告をしていました。その後の工場見学では、実際に稼働している生産現場で水栓金具ができる様子を見学しました。ベトナムでは工場見学は非常に稀なものです。普段見ることのできない生産現場の様子を、大変興味深く見学しながら、LIXIL の従業員に質問をしていました。「とても工場が片付いていた」「工場のトイレは、これまで調査したどのトイレよりもきれいだった」との感想をいただきました。最後に「今日は楽しかった」ととても大きな声で答えてくれ、子どもたちにとって印象深い環境活動になったと感じました。



発表を聞く従業員



見たことの無い完成前の水栓に興味津々



子どもたちに商品の説明をする製造部長

## ■ STT とともに

### ナムソン村での環境活動(7月18日)

ナムソン村は、ハノイから車で約3時間ベトナム北部の山岳地帯にあり、米やトウモロコシなどを栽培する人口1,500人余りの農村です。7つの集落が点在し、傾斜の急な農地なども利用しながら生活しています。LIXIL が協働している STT は、この村で在来種の活用や生態系に配慮した農法の取り組み、生き物の調査や衛生改善などを村の人々と話し合いながら行っています。また、村民からの声を受けて、トイレ建設の支援も行っております。建設費用の半額を支援し、残りを各世帯が負担して、建設作業も自分たちで行ってもらうことで、持続的な衛生改善をすすめています。3年ぶりとなった今回の訪問では、子どもたちや青年団66名を対象にトイレの授業とワークショップを行いました。最初に、建設したトイレを適切に使い続けてもらうために、オリジナルテキスト「トイレについて考えてみよう」を使った授業を LIXIL VIETNAM の従業員が講師となりました。プロジェクターが使えなかったため、テキストを見せながらの授業となりましたが、子どもたちに近寄り声をかけながら授業を進め、子どもたちはいきいきと問いかけに答え、笑顔あふれる授業となりました。



伝統的な衣装を身に付け、  
農作業をするナムソン村の住民



オリジナルテキストを使ったの授業



子どもたちに話しかけ授業をすすめる

その後、集落のトイレについて調査した結果をまとめるワークショップを行いました。子どもたちは、青年団を中心に集落ごとにトイレの種類やその割合、問題点を写真やイラストを使ってまとめ、発表しました。集落ごとに割合は違いますが、水洗トイレを設置している集落は少なく、土壌浸透型トイレ(穴を掘っただけのトイレ)が8割を占める集落もありました。発表では、まずは土壌浸透型トイレをコンポストタイプのトイレに変えていきたいと将来の方針も語られました。「土壌浸透型トイレでは、どんな悪影響があるのか理解できた。」「家に帰ったら、両親に自分の家のトイレの改善を話してみようと思う」との感想もありました。



トイレについてのワークショップ



村のトイレの現状を報告



最後はみんなで記念撮影

今回の活動を通して、子どもたちが環境について興味を持ち、楽しみながら勉強している様子や、生活が改善している様子を見ることができ、これまでの活動が少しずつですが確実に定着している様子を感じることができました。また、ベトナムの従業員にとっても、日頃の業務とはまた違う達成感や充実感を得ることができ、日々の業務の励みにつながっています。

LIXIL は環境活動教育を行うことで、子供の成長を促すだけでなく従業員も成長し続け、ベトナムの持続的な発展に貢献していきます。

### 環境活動参加者

トゥア・ティエン・フエ省	フエ市トウイスワン小学校児童 22 名、フエ市フォンロン地区生徒 6 名 フーロック郡ヴァンミー村ラムモンクアン中学校生徒 21 名
ホアビン省	タンラック郡ナムソン村子どもと青年団 66 名
BAJ	ベトナム事務所：片山恵美子 Ly Ba Khuong (リー バー クオン) Pham Vu Tien (ファム ヴー ティエン) Nguyen Dinh Dong (グエン デイン ドン) Nguyen Tam Thuy Dung (グエン タム トウイ ズン) 東京事務所：押村友里子、通訳：Truong Dinh Lam (チュオン デイン ラーム)
STT	代表：伊能まゆ ベトナム事務所：Nguyen Thanh Tung (グエン タイン トウン) Nguyen Thi Thanh Loan(グエン ティ タイン ロアン) Do Thi Hoa (ドー ティ ホア)
LIXIL	LIXIL VIETNAM 総務部：Le Thi Tuyet Mai (レ チ トウエット マイ) LIXIL VIETNAM 人事部：Nguyen Hong Hanh (グエン ホン ハン) Danang INAX 技術部：Nguyen Quoc Vuong (グエン クック ブン) Danang INAX 製造部：Vo Anh Loc (ヴォー アイン ロック) CSR・環境推進部 部長：川上敏弘、蓼沼亜沙子

## これまでの歩み

活動期間		活動内容
年	月	
2007	-	<a href="#">BAJ、セーブ・ザ・チルドレンと活動を開始(3カ年契約)</a>
	4	オリジナル教育テキストの作成
	6～8	ハノイ北部イエンバイ、フエで環境教育実施
2008	3	エコプロダクツ展(ハノイ)にイエンバイやフエの子どもを招待、INAX VIETNAM Co., Ltd.※1 見学
	6	<a href="#">イエンバイ、フエで環境教育実施</a>
	12	イエンバイ、フエ、クイニョンで環境教育実施
2009	6	<a href="#">イエンバイ、フエ、ホーチミン</a> で環境教育実施
2010	-	BAJ、STTと活動を開始
	1	フエ、クイニョンで環境教育実施。INAX VIETNAM TILE Co., Ltd※2 の工場見学
	7	ホアビン省ナムソン村、フエ、ホーチミンで環境教育実施
2011	1	ホアビン省ナムソン村、フエ、ホーチミンで環境教育実施
	7～8	ホアビン省フーヴィン村、フエ、ホーチミンで環境教育実施、 <a href="#">INAX VIETNAM Co., Ltd.※1 でホアビン省ナムソン村住民による活動報告と工場見学</a>
2012	2	<a href="#">ホアビン省フーヴィン村、フエで環境教育実施</a>
	7	ホアビン省ディックザオ村、フエで環境教育実施、 <a href="#">LIXIL INAX VIETNAM Corporation でホアビン省フーヴィン村住民による活動報告と工場見学</a>
2013	3	ホアビン省ディックザオ村、フエで環境教育実施 <a href="#">LIXIL INAX Saigon Manufacturing Co., Ltd.におけるゴイサオ学校生徒による活動報告と工場見学</a>
	8	ホアビン省ディックザオ村、フエで環境教育実施 <a href="#">LIXIL INAX VIETNAM Corporation におけるディックザオ村住民による活動報告と工場見学</a>
2014	2	<a href="#">ホアビン省ディックザオ村、フエで環境教育実施</a>
	7	ホアビン省ナムソン村、フエで環境教育実施 LIXIL INAX DANANG Manufacturing Co., Ltd.におけるフエ近郊の子どもによる活動報告と工場見学

※ 1 現 LIXIL INAX VIETNAM Corporation

※ 2 現 LIXIL INAX Saigon Manufacturing Co., Ltd.

## 森林生態系の保全活動



### 「森でeこと」

行政や NPO と協働し、森や里山で間伐・植樹、環境整備などのボランティア活動を実施しています。現在の活動拠点は三重県、長野県、茨城県の 3 カ所で、春と秋の年 2 回ずつ地域に根ざした活動を継続して行っています。



### 三重での活動

2008 年から、三重県が進める「企業の森づくり」に賛同し、伊賀市と森林保全協定を結んで上阿波地区にて活動を開始しました。2014 年までに上阿波地区の山林約 0.76ha の敷地に植樹をし、約 0.5ha の敷地に間伐と枝打ちをする計画です。2008 年から 2014 年 10 月までに通算 10 回の活動を実施しました。間伐、植樹、獣害ネットの設置、子供向けの木工作などの活動を行っています。



### 長野県の活動

2009 年から、長野県が進める「森林の里親促進事業」に参加し、下伊那郡阿智村にて活動を開始しました。2016 年までに阿智村西区の山林約 16ha で間伐、整理伐を実施し、1,400m にわたって作業道を整備する計画です。2009 年から 2014 年 10 月までに通算 11 回の活動を実施しました。

2014 年度はチェーンソーを用いた間伐作業、作業道の整備を行い、延べ 135 名が参加しました。



### 茨城県の活動

2009 年から、認定 NPO 法人「穴塚の自然と歴史の会」と協働し、茨城県土浦市穴塚にある里山の保全を開始しました。里山の自然観察や、谷戸といわれる湿地の水源や水路の整備、在来種にとって有害な外来種の撤去などを行っています。2009 年から 2014 年 10 月までに通算 12 回の活動を実施しました。

2014 年度は延べ 163 名が参加し、湿地再生のためのアシカキ除去作業や、林の下草刈りを行いました。



## 2011年度以降の参加人数(2014年10月27日現在)

拠点	開催日	参加人数(名)			合計人数(名)
		地域や自治体の方々	従業員	従業員の家族	
三重県	2011年10月29日	23	93	35	151
	2012年11月3日	28	92	19	139
	2013年4月20日	47	60	17	124
長野県	2011年6月11日	35	28	12	75
	2011年11月3日	13	23	17	53
	2012年6月2日	9	29	15	53
	2012年11月3日	5	22	17	44
	2013年6月1日	10	34	10	54
	2014年6月7日	12	27	23	62
	2014年10月27日	12	28	33	73
茨城県	2011年6月18日	13	66	7	86
	2011年11月5日	10	58	7	75
	2012年7月7日	7	53	3	63
	2012年11月10日	12	45	0	57
	2013年7月20日	13	45	5	63
	2014年6月14日	13	55	6	74
	2014年10月11日	31	56	2	89
合計(延べ)		310	859	232	1,401

### 【関連ニュースリリース】

\* [2014年 秋の活動はこちら](#)

\* [2014年 春の長野の活動はこちら](#)

\* [2014年 春の茨城の活動はこちら](#)

## 地域コミュニティへの参画

### 地域ダイアログの開催

2012 年度より、LIXIL の事業所で、自治体、自治会、地域でご活躍、お住まいのステークホルダーの方々と地域交流、地域貢献などをテーマにダイアログを開催しています。2012 年度は、工場、ショールーム、店舗各 1 拠点、計 3 拠点で開催しました。2013 年度はさらに拠点数を増やし、工場 24 拠点、営業 7 拠点、店舗 3 拠点で開催し、地域ごとに様々な対話がなされました。2014 年度も事業所と地域のつながりを深める活動を広げていきます。



\* [開催概要などの詳細はこちら](#)

### その他の地域貢献活動

**社会貢献支出(寄付)額 2013 年度** ※集計範囲：(株)LIXIL グループと(株)LIXIL 単体

カテゴリー	金額	割合
慈善寄付	245,367,578 円	18.80%
コミュニティ投資	530,329,087 円	40.70%
商業イニシアティブ	528,000,000 円	40.50%
合計	1,303,696,665 円	—

国内外で地域活動を行っている地方自治体や各種協会、地域団体、教育機関などに、寄付を行っています。寄付金はコミュニティの活性化や地域の防犯・安全性維持、障害者・高齢者支援のための活動に活用されています。

### 「野田んぼ いきもの教室」を開催

千葉県にある野田事業所と七光台事業所では、田んぼでの米作りを通して、多様な生き物の大切さを学ぶ「野田んぼ いきもの教室」を、千葉県野田市の水田型市民農園(野田市江川地区)で 2013 年度から活動しています。野田市は、国の特別天然記念物「コウノトリ」の野生復帰を目指して、2012 年 12 月に多摩動物公園からコウノトリのつがいを無償で譲り受け、野田市内の施設で飼育を開始しました。今後、数年かけて、このつがいから生まれたヒナに餌の取り方などを訓練して、自然への放鳥を目指します。今回の活動は、こうした野田市の取り組みに賛同した両事業所が、イトミミズ、カエル、ヘビ、ドジョウやナマズといった食物連鎖の上位にあるコウノトリが暮らしていくために必要な多様な生物の棲み家となる減農薬の田んぼでの米作りを通して、多様な生き物が育つ環境を守る大切さを学ぶことを目的としています。



2013 年度は 4 月の田植えから始まり、草刈りや自然観察会、ホタル観察会、稲刈りまで、全 6 回にわたって活動しました。最終回となる 9 月 29 日(日)には、従業員や家族など、総勢 37 名が参加し収穫祭を行いました。

## トライアスロン国際大会の協賛

スポーツを通じた地域への貢献を目的に「アイアンマン 70.3 セントレア知多・常滑ジャパン」に毎年メインスポンサーとして協賛しています。5 回目となる今大会は 2014 年 6 月 1 日に開催され、国内外から集まったアスリートたちが、ワールドチャンピオンシップの出場権をかけハイレベルなレースを展開しました。LIXIL からは選手や運営・応援のボランティアとして約 200 名の従業員が大会を盛り上げました。

\* [「アイアンマン 70.3」の公式サイトはこちら](#)

\* [「アイアンマン 70.3 セントレア知多・常滑ジャパン」のニュースリリースはこちら](#)



## 災害復興支援活動

LIXIL グループは、2011 年の東日本大震災以降、東北の一日も早い復興を目指し、「みんなの家」伊東豊雄氏プロジェクトへの製品寄贈や「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」などの活動支援プログラムや、従業員参加型の復興支援活動、LIXIL の製品やサービスを通じた活動などさまざまなかたちで支援を行なってきました。2013 年 3 月には「fukushima さくらプロジェクト」に協賛、2013 年 4 月からは LIXIL 東北支社の従業員が「東北復興支援イニシアティブ」に出向し、地域の若者に混じり、地域経済を支える人たちと連携しながら、被災した街の復興と持続的な発展のための取り組みを始めました。今年度は、2014 年 10 月開村予定の「こどもの村東北」の施設への水まわり製品の提供も計画しています。また、2013 年に発生した超大型台風ハイエンによる被害を受けたフィリピン共和国へは、緊急支援金 1,000 万円の寄付をはじめ、LIXIL グループ社員の募金活動による義援金の寄付や物品の寄贈を行い、復興を支援してきました。

## 主な活動

国内／東日本大震災 復興支援	
社員参加による	SMILE AGAIN ～YELL from KASHIMA(2011 年)
チャリティイベント協賛	第 2 回アイアンマン 70.3 セントレア常滑ジャパン(2011 年)
	キッズワークショップカーニバル(2012 年、2013 年)
	LIXIL ショールーム高松チャリティコンサート(2013 年、2014 年) など
チャリティイベント協賛	みちのくフォトプロジェクト(2011 年)
	東北六魂祭(2012 年、2013 年)
	VOICES meets Romantic Beat -Pray for Moon-(2012 年)
	fukushima さくらプロジェクト(2014 年) など
人材派遣	東北未来創造イニシアティブ(2013 年～)
製品寄贈	「石巻市北上町白浜復興住宅プロジェクト」工学院大学(2011 年)
	「みんなの家」伊東豊雄プロジェクト(2012 年、2013 年)
	「東松島市立矢本東保育所」セーブ・ザ・チルドレンジャパン(2012 年)
	「石巻市鹿妻コミュニティセンター」(財)フェール城桜協会(2012 年)
	福島県南相馬市小高区塚原行政区集会所(2014 年)
	「こどもの村東北」NPO 法人 SOS 子どもの村(2014 年) など
寄付・協賛	IPPO IPPO NIPPON プロジェクト(2011 年～継続)



海外／フィリピン共和国 台風被災者救援、被災地復興支援	
寄付	LIXIL グループが認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォームを通じて約 1,000 万円の支援金を寄付(2013 年)
	LIXIL フィリピンが 2,000 米ドル以上をフィリピン赤十字に寄付(2013 年)
	LIXIL グループ社員からの義援金を 12 月初旬に関係先に寄付(2013 年)
	LIXIL が 10,000 個の深皿・平皿・スプーン・子供用の歯ブラシをフィリピンユニセフに寄贈(2013 年)
	LIXIL と American Standard Brands が共同で、ユニセフ・フィリピン事務所に簡易式パン型トイレ 10,000 基を寄付(2014 年)

- \* [「fukushima さくらプロジェクト」のニュースリリースはこちら](#)
- \* [「東北未来創造イニシアティブ」はこちら](#)
- \* [「みんなの家」伊東豊雄氏プロジェクトはこちら](#)
- \* [「こどもの村東北」はこちら](#)
- \* [「フィリピン台風ハイエン\(台風 30 号\)被害への支援に関して」のニュースリリースはこちら](#)

### IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

支援活動の一つとして、全国経済同友会の協力のもと全国 375 社の法人(2014 年 6 月現在)が協力して展開する「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」に 2011 年から協賛しています。このプロジェクトは、専門高校への実習機材の寄贈などを通じて、被災地の子どもたちを応援するもので、被災地の状況を踏まえて人づくりと産業活性化に向けたきめ細かな活動を行なっています。2014 年 1 月 31 日に第 5 期の募集期間が終了し、このプロジェクトの支援総額は 13 億円を超えました。地域に根ざした活動、若い世代への支援が、今後結実していくよう支援を続けています。



- \* [「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」はこちら](#)

### 震災復興チャリティコンサート開催

東日本大震災から 3 年経った 2014 年 3 月 11 日に、LIXIL ショールーム高松にて、有志によるチャリティ演奏会を開催しました。2013 年に引き続き、2 回目の開催となる演奏会には、初回を上回るたくさんのお客さまが参加し音楽を通じて震災復興を願いました。当日集まった募金は 92,524 円で、全額日本赤十字社へ寄付しました。



## **従業員とともに**

**働くすべての人の個性を尊重し、  
働きやすい環境の実現を目指しています。**

## 人事の基本的な考え方

LIXIL グループでは、「住生活産業におけるグローバルリーダーになる」という経営 VISION を達成するために、グローバル競争に勝ち抜くことができる企業文化づくりと、従業員の活力を増大させる人事基盤が必要だと考えています。このため、LIXIL グループが追い求める企業文化を、「実力主義の徹底」、「多様性の尊重」、「公平な機会の提供」と定義し、人材の面で競争優位性を確立するために、各種の人事基盤や運用面の整備を進めています。



## 雇用についての考え方

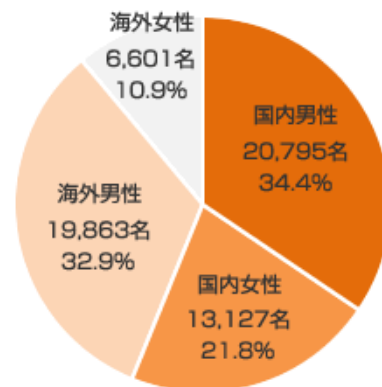
LIXIL グループでは、従業員の採用や雇用にあたっては「人権の尊重」に留意し、公正な選考と、属性に拘らない多様な人材の雇用、および、多様な人材が活躍できる労働基盤整備に努めています。

採用においては、「LIXIL VALUE(共有価値)」で定める価値観を共有し、自らの行動でそれを示すことができる人材、特に「目標達成への熱意のある人」「あくなき向上心を持ち、挑戦し続けられる人」「オープンで率直なコミュニケーションができる人」「お客さまの目線で物事が考えられ、誠実で公正な行動が取れる人」を求める人物像として採用活動を行っています。

また、事業のグローバル競争力を高めるための外部人材の採用、グローバル・オペレーション遂行のための海外現地法人に在籍する人材の活用、ダイバーシティ(多様性)促進のための外国人や女性といったダイバーシティタレントの採用や活用も積極的に推進しています。

\* [「LIXIL VALUE」はこちら](#)

国内・海外別、性別従業員構成比（直接雇用のみ）



## 雇用形態別、性別 従業員構成

		性別	人数	構成比
正社員*1	日本国内	男性	17,954	25.70%
		女性	5,328	7.60%
	海外	男性	19,597	28.00%
		女性	6,505	9.30%
	正社員合計	男性	37,551	53.70%
		女性	11,833	16.90%
合計		49,384	70.60%	
非正規社員*2	日本国内	男性	2,841	4.10%
		女性	7,799	11.20%
	海外	男性	266	0.40%
		女性	96	0.10%
	非正規社員合計	男性	3,107	4.40%
		女性	7,895	11.30%
合計		11,002	15.70%	
直接雇用計		男性	40,658	58.20%
		女性	19,728	28.20%
		小計	60,386	86.40%
間接雇用*3	日本		2,691	3.80%
	海外		6,832	9.80%
	小計		9,523	13.60%
グループ 総計			69,909	100.00%

\*1 正社員：期間の定めのない労働契約に基づき雇用している社員

\*2 非正社員：期間の定めのある労働契約に基づき雇用している社員

\*3 間接雇用：派遣社員、請負社員

## 従業員の増減について(日本国内のみ)

### 採用人数(名)

	2012 年度		2013 年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
正社員(内、新卒)	564 (336)	243(207)	950(376)	373(237)
非正社員	2,767	914	2,758	571
合計	3,331	1,157	3,708	944

※日本国内のみ

## 離職者数(名)

		2012 年度		2013 年度	
			内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
正社員		2,206	1,611	697	274
	離職率*	8.90%	8.90%	3.00%	1.60%
非正社員		2,463	521	2,372	687
合計		4,669	2,132	3,069	961

※日本国内のみ

\*離職率は同年度 4 月 1 日時点の人員表を基準として、同年度 3 月 31 日までの離職者との比較

\* [LIXIL グループ従業員に関するデータ\(アニュアルレポート CSR 関連 非財務データ\)\(PDF:1,664KB\)](#)

(国籍従業員数、管理職者数とその構成、平均年齢、平均勤続年数など)

### 集計対象・範囲

報告対象組織は、(株)LIXIL グループ及び、(株)LIXIL グループの子会社 7 社\*1 と、(株)LIXIL の主要子会社(国内 10 社\*2 海外 26 グループおよび子会社\*3)、計 43 グループおよび子会社です。2014 年 3 月 31 日現在の多くの主要子会社を含みますが、報告範囲は連結財務諸表とは異なります。

\*1 (株)LIXIL、(株)LIXIL ビバ、(株)川島織物セルコン、(株)LIXIL 住宅研究所、ハイビック(株)、(株)日本住宅保証検査機構、(株)LIXIL リアルティ

\*2 (株)LIXIL トータル販売、旭トステム外装(株)、(株)G テリア、(株)LIXIL 鈴木シャッター、ジャパンホームシールド(株)、(株)LIXIL トーヨーサッシ商事、(株)ダイナワン、(株)テムズ、(株)LIXIL ビルリフォーム販売、(株)LIXIL トータルサービス

\*3 Permasteelisa S.p.A.、TOSTEM THAI Co., Ltd.、TOSTEM THAI MARKETING Co., Ltd.、A-S CHINA PLUMBING PRODUCTS Ltd.、LIXIL INTERNATIONAL Pte. Ltd.、PT. LIXIL ALUMINIUM INDONESIA、ASD Americas Holding Corp.、LIXIL INAX VIETNAM Corporation、LIXIL INAX DANANG Manufacturing Co., Ltd.、LIXIL INAX SAIGON Manufacturing Co., Ltd.、驪住海尔住建設施(青島)有限公司、驪住衛生潔具(蘇州)有限公司、驪住(中国)投資有限公司、台湾伊奈股分有限公司 他連結子会社 11 社

### 集計方法・集計期間について

人員数については、主に 2014 年 3 月 31 日時点の各会社の原籍ベースで集計しています。制度利用者数などは、4 月 1 日～翌年 3 月 31 日の年度内の利用状況で集計しています。労働災害度数率、強度率については各会社の出向先ベース(原籍ベースではない)、直接雇用のみで集計しています。

## 社内コミュニケーション

LIXIL グループでは、従業員が問題意識を持って意見をオープンに発言できること、そして自らが常に変化し挑戦し続けることが重要であると考え、社内コミュニケーションを積極的に行っています。

### 従業員意識調査の実施

2012 年度に引続き、2013 年 12 月に従業員意識調査「LIXIL Sunrise Survey」を実施しました。2013 年度より、新たに LIXIL グループの主要事業会社 26 社を加え、対象会社を全 42 社としています。経営戦略の浸透度や従業員満足度などを図ることを目的とした計 60 問の設問で、29,454 名(対象者数 32,365 名、回答率 91.0%)から回答を得ました。この調査の目的は、「経営トップビジョンの浸透度合い」、「LIXIL の目指す企業文化(多様性の尊重、公平な機会の提供、実力主義の徹底)の浸透度合い」、「LIXIL VALUE(共有価値)の実践度合い」、「エンゲージメント(従業員と会社のつながり)の状況」を確認し、今後の人事施策や制度の参考とするものです。

回答結果としては、2012 年度の Survey 結果を受けた全社的な施策や部門単位でのアクションプラン実行の効果があらわれ、全体的に改善傾向にありました。Women's Network 等による女性の活躍推進、全世代を対象にしたリーダーシップトレーニングの展開、有給休暇取得の促進活動等の様々な取り組みの結果、特に「ダイバーシティの浸透」、「人材育成・教育機会の提供」、「仕事と家庭の両立・有給休暇の取得」の項目が大きく改善されています。また、「目標達成への熱意」や「誠実で公正な行動」等の「LIXIL VALUE」に関する項目については、2012 年度から継続して高い結果となりました。

回答結果は、「LIXIL Sunrise Survey Report」として冊子にまとめ、全従業員に配布しています。また、質問項目毎に全社平均値と各部門の平均値が比較できる一覧表にまとめ、全部署にフィードバックしています。その結果をもとに、部署毎にワークショップを開催し、自部門の結果や課題に対しディスカッションを重ね、アクションプランを立てています。Survey 結果を確実にアクションにつなげることで、従業員の声を経営に生かす仕組みのひとつとなっています。

\* [「LIXIL VALUE」はこちら](#)

### 社内イベントの開催

2013 年 11 月、藤森社長の呼びかけで「世界で戦うリーダーになるには。」という投稿の社内公募を行いました。きっかけは、日本経済新聞が展開している「未来を担う新しい日本人をつくるためのプロジェクト」です。2012 年 11 月～2014 年 3 月に、毎月、様々な企業の経営者が学生に向けて課題を出し、アイデアを募るという「未来面」の連載企画に LIXIL も参加。藤森社長が投げかけた同テーマに対して、数多くの学生から反響がありました。



「本来はグローバル化を目指す LIXIL 社員に問うべきテーマである」という趣旨で社内公募を実施し、若手社員から役員まで 380 名から提言が寄せられ、3 名の優秀投稿者を決定しました。お客様向け新商品発表会「LIXPO2014」の東京・中部 2 会場で展示会終了後に行われた表彰式には、投稿者を中心に総勢 300 名を超える社員が集結。人事トップによるトークセッションも行われ、会場は熱気に包まれました。

## 従業員への情報共有と相互交流

従業員自身がLIXILグループを知る機会として、グループ内で行われている活動やニュース、トピックスをメルマガや冊子で社内配信しています。メルマガについては、毎日配信する「LIXIL TODAY」と毎月発行する「LIXIL MONTHLY」に加え、2013年12月より個別の部署単位のニュースを各部署が自由に投稿できる「LIXIL TIMES」を新たにスタートしています。「LIXIL TODAY」では、ショールームの開設や工場の起工式の様子など、他の職場や事業の様子をタイムリーに伝え、「LIXIL MONTHLY」では、LIXILのブランドや文化、組織体制などを理解するための情報を発信しています。また、社内報(「りんく」)は季刊で冊子版として発行しています。工場生産ラインなど普段イントラネットを見る機会の少ない従業員にもグループの動向や社長メッセージを届けています。社内報は持ち帰り、家族にLIXILの活動や職場の様子を伝えるツールとしての活用も呼びかけています。2014年度は社内ブランド浸透のほか、「世界で戦うリーダーになるには」というテーマへの社内公募の結果を4月号で特集しました。このほか、当グループが実施している東日本大震災の復興支援やダイバーシティ推進のための専用イントラサイトを立ち上げ、有志を進める「LIXIL Women's Network」の活動を紹介するなど社内の情報共有を図っています。また、2013年に引き続き、代表執行役社長が国内外でラウンドテーブルを開催し、従業員の率直な提言や意見を受け止めています。視察やイベントで工場や支社・営業所を訪れる際には従業員とのミーティングの機会を積極的に設けています。



▲社内報「りんく」



▲メルマガ「LIXIL MONTHLY」

## ダイバーシティ推進

LIXIL グループは、真のグローバル化に向けて企業力を高めていくためには創造性とエネルギーを生み出す企業文化づくりが不可欠と考え、積極的にダイバーシティを推進しています。「LIXIL Diversity 宣言」を行い、「多様性の尊重」、「公平な機会の提供」、「実力主義の徹底」を実現するための取り組みを進めています。

### LIXIL Diversity 宣言

LIXIL の企業文化は、多様性が生み出すエネルギー、創造性を経営に活かし、公正で公平な環境の中で、誰もが現状に満足せず、自らが課す高いハードルを次々に越えきちんと結果を出し、それが正当に評価される会社を目指すことです。

#### 1. 多様性の尊重 (Respect Diversity)

性別、年齢、人種、国籍、価値観、バックグラウンドの違いを歓迎し、自由闊達な議論から生み出されるエネルギー、創造性を強さの源泉とします。

#### 2. 公平な機会の提供 (Provide Equal Opportunity)

属性の違いにかかわらず自発的・積極的に取り組もうとする人に活躍の機会・場を公平に提供します。

#### 3. 実力主義の徹底 (Implement Meritocracy)

LIXIL VALUE の実践とパフォーマンスの発揮を正当に評価します。



この企業文化達成のため、まず Diversity 宣言を行い、次のような行動を実施します。

#### 1. 人事施策

2015 年度の管理職登用者 \* 1 の 30%を、女性を含むダイバーシティタレントとすることを目指します。

2014 年度新卒入社者の 30%を、女性を含むダイバーシティタレントとすることを目指します。

女性を含むダイバーシティに富んだチームやタスクフォースを設け、活躍の場を創出します。

#### 2. 人材育成

リーダーシップ育成プログラム参加者の 15%以上を、女性を含むダイバーシティタレントとすることを目指します。

#### 3. 環境整備

WLF \* 2(ワーク・ライフ・フレキシビリティ)の推進や女性を含むダイバーシティタレントの活躍を推進する制度を新設します。

#### 4. 風土醸成

「LIXIL Women's Network」を立ち上げ、ダイバーシティタレントの活躍を推進します。

社長以下トップリーダーによる「ダイバーシティ・ミーティング」を開催します。

\* 1 : 管理職昇格者と中途採用者の合計

\* 2 : 変化するライフステージのなかで、高いパフォーマンスを発揮し続けられるように「柔軟な働き方」の実現を目指すもの



## 女性活躍の推進

LIXIL では、ダイバーシティの推進において女性従業員の活躍は不可欠なものであると考えています。女性の活躍をさらに推進するために、人事総務本部にダイバーシティ推進室を設置しています。また、2014年8月には女性の活躍を加速するための「We Doアクション」を策定しました。今後、本アクションに沿って活動を進めていきます。LIXIL 単体で、女性管理職者数は2012年3月は22名(0.9%)でしたが、2014年11月には119名(5.1%)と約5.7倍になりました。119名の内訳は部長職相当以上12名(2.2%)、課長職相当107名(5.9%)です。また女性の役員(株LIXILグループ含む)は5名(4.5%)おり、内訳は取締役1名、執行役専務2名(1名は日本人以外)、執行役員2名となっています。(比率はそれぞれ全役職者数に占める女性人数の割合)今後ますます女性活躍の場を広げていく予定です。

\* [「We Doアクション」についてのニュースリリース](#)

### 女性管理職者数と構成比

	2012年度		2013年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
女性管理職者数	77	47	111	76
総管理職者数	2,847	2,189	3,062	2,280
構成比	2.70%	2.15%	3.63%	3.33%

※日本国内のみ

※各事業会社の資格制度に基づく集計

### ワーク・ライフ・フレキシビリティの推進

LIXILでは、仕事と家庭の両立支援策として、従業員が変化するライフステージの中で、高いパフォーマンスを発揮し続けられるよう「柔軟な働き方」の実現を目指しています。2012年9月にLIXIL労働組合メンバーを含めた専門委員会「WLF(ワーク・ライフ・フレキシビリティ)検討委員会」を立ちあげ、労使一体となった議論を重ねた結果、2014年4月時点で以下のとおりの制度が導入、拡充されています。

\* [仕事と家庭の両立支援に関する全施策についてはこちら](#)

ねらい	制度改定内容
有給休暇の取得促進	「メモリアル休暇」の導入、「ゆとり休暇」の取得促進
出産・育児・介護による退職者の再雇用	「キャリアリターン制度」の導入
育児支援	育児休業期間を最大1歳半から最大3歳まで延長
	育児短時間勤務を最大小学校3年生終了まで延長
	育児者に「繰り下げ勤務(始業・終業時間の変更)」を導入し、妊婦にも適用を拡大
	延長保育料補助の正式導入
	休業中のイントラ・メールの環境整備(準備が整い次第導入予定)
介護支援	休業中の社会保険料相当額の補助
	積立年休(有給休暇の失効分)を利用し賞与計算時の欠勤に充当

※(株)LIXIL及び一部事業会社・子会社で運用

## 障がい者雇用の推進

LIXIL では雇用障がい者数 392 名、障がい者雇用率\*は 2.04%となっています。雇用機会の創出という視点だけでなく、誰もが活き活きと働くことができる職場環境づくりに取り組んでおり、研究開発や生産、各種事務業務など幅広い職場で障がい特性に合わせた働き方を提供しています。尚、2014 年 7 月には東京都江東区にて、様々な障がい内容に配慮した障がい者就労センター「WING NIJI」をオープンさせ、さらなる雇用拡大にチャレンジしています。

### 障がい者雇用率

	2012 年度		2013 年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
雇用障がい者数	733	375	952	392
障がい者雇用率*	1.84%	1.96%	2.20%	2.04%

※日本国内のみ

※当該年度の 3 月 31 日時点の人員による

\*厚生労働省が定める「障害者雇用率制度」の算出方法に基づく

## 定年後再雇用の推進

LIXIL では、定年後再雇用制度を運用しています。満 60 歳を迎えた従業員が、豊富な経験やスキル・技能を活かして働き続けられるように、また技術を後進に伝えていくために、希望する従業員の再雇用を進めています。

### 定年後再雇用率

	2012 年度		2013 年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
定年退職者数	209	165	172	110
再雇用者数	128	98	145	96
再雇用率	61.20%	59.40%	84.30%	87.30%

※日本国内のみ

\* [集計範囲はこちら](#)

## 労働安全

LIXIL グループでは、「グループ企業行動憲章」の中に「働くすべての人の安全を優先し、労働災害のない働きやすい職場を実現するとともに、心とからだの健康づくりを推進します。」と明記し、従業員の安全と健康を守る取り組みを実施しています。

### 労働安全衛生マネジメントシステム

LIXIL グループでは、労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、労働災害発生防止に向けた、積極的な取り組みを実施しています。また、事業所ごとに「安全衛生委員会」を設置して、労働安全衛生における課題の共有と、改善策について協議し、PDCA サイクルに基づくマネジメントを実施しています。

### 労働災害度数率：日本国内事業所

	2012 年度		2013 年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
度数率*	1.02	0.36	1.13	0.4
強度率*	0.01	0.01	0.01	0.003
LTIFR**	0.41	0.36	0.42	0.4

※集計範囲：(株)LIXILと子会社 10 社・グループ事業会社 7 社

※日本国内のみ、直接雇用の従業員のみ

\*厚生労働省「労働災害動向調査」の算出方法に基づく

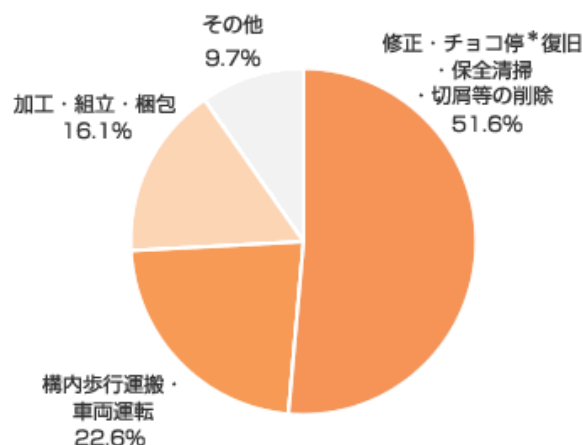
\*\*LTIFR：Lost Time Injuries Frequency Rate

休業を伴う労災件数／延実労働時間×1,000,000(休業の定義は 1 日以上)

### 生産部門での取り組み

2011 年 4 月の LIXIL 統合後、生産部門はこれまで金属・建材カンパニーと住設・建材カンパニーに分かれていましたが、2014 年 4 月より(株)LIXIL 国内 7 統括 40 工場を対象として再編成しました。これまでカンパニーごとに異なる「労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS や OHSAS をベースとした独自のシステム)」を構築していましたが、2013 年 10 月からは、マネジメントシステムを統合しています。また、日本国内において 7 統括工場ごとに「実践研究会」を月 2 回開催し、実際に生産現場で確認・点検をしながら、機械・設備の危険要因を徹底的に排除するための情報共有と横展開を図っています。万が一、事故が発生した場合は、各工場に所属する安全管理責任者を中心に原因の把握や適切な対応が取られるとともに、それらの情報は 2 営業日以内に全工場で共有します。共有された情報をもとに、各工場にて類似災害・事故の危険性がないかチェックされ、全工場で再発防止に取り組んでいます。

### 作業内容別災害構成比 (株) LIXIL 国内生産部門



\*チョコ停：故障ではないが、一時的なトラブルのために設備が停止、または空転（生産なしで空運転）する現象で簡単な処理により原状復帰するもの。

## (例)安全衛生管理体制図



## 健康管理

LIXILでは、LIXIL健康保険組合と連携しながら従業員の健康づくりを積極的に支援しています。健康保持・増進活動の基本的な考え方として、以下について健康保険組合と共有し、取り組みを行っています。

- ・一人ひとりの健康意識を高め、自己健康管理意識を高揚させる
- ・多くの人に疾病予防及び健康増進の機会を提供する
- ・一人ひとりの健康に配慮した快適職場環境を整備する

具体的な取り組みとしては、全従業員を対象とした定期健康診断を毎年実施、その結果から「糖尿病」や「高血圧症」などを発症する危険性の高い従業員に対し、人事部門と健康保険組合が協働して医療機関受診勧奨を積極的に行うなどの重症化予防活動を2012年度から展開しています。2013年度は112名の対象者に対し、医療専門職の面談による勧奨を実施、着実に医療機関受診へとつなげることができています。また、長時間労働者に対しては産業医による面談を確実に実施し、心身に不調を引き起こすことのないよう予防に努めています。

このほか健康保険組合では、被保険者だけでなく被扶養者に対しても「人間ドック」、「子宮ガン・乳ガン検診」、「歯科検診」などを呼びかけ、健康保険組合で検診費用の補助を行っています。また、40歳以上を対象としている特定保健指導について、2013年度は960名に実施しました。

	2012年度	2013年度
人間ドック 受診	6,426名	7,184名
子宮ガン・乳ガン検診 受診	1,082名	1,219名
歯科検診 受診	285名	179名
特定保健指導者 実施	883名	960名

※(株)LIXILのみ

従業員が積極的に健康づくりに取り組めるように、「健康づくりキャンペーン」を展開しています。参加者はウォーキングやダイエット、禁煙などにチャレンジすることで、一定のポイントを獲得し、好きな賞品を選び交換できる制度です。2013年度は5,634名の従業員及び家族が参加しています。

	2012年度	2013年度
健康づくりキャンペーン	5,504名	5,634名

※(株)LIXILのみ

LIXIL では、健康づくりにおいてメンタルヘルスの取り組みも重要であると考えています。事業所単位でのメンタルヘルスセミナーや、ストレスチェックを実施し、従業員一人ひとりがメンタルヘルスへの正しい知識を持ち、また自身の状態を把握することで予防に取り組んでもらうよう働きかけをしています。また、ラインケアの要である管理職を対象にしたメンタルヘルスマネジメント教育も実施し、早期発見、早期治療が実行できる職場環境づくりに努めています。

	2012 年度	2013 年度
メンタルヘルスセミナー	204 名(8 回実施)	230 名(10 回実施)
ストレスチェック参加者	3,731 名	84 名
管理職メンタルヘルスマネジメント教育	129 名	125 名

※(株)LIXIL のみ

メンタル疾病休業者については、「職場復帰プログラム」に基づいた復職支援を実施しています。このプログラムは、休業中のケアから復職後の支援(フォローアップ)まで、休業者個々人の状態に合わせて対応できるよう構成しています。また、全国で 5 つの拠点にメンタルヘルスケアを専門とした産業医を配置し、無理なく復職できるよう支援するとともに、心の健康管理についても相談できる体制を整えています。

## 働きやすい職場づくり

LIXIL グループでは、従業員一人ひとりが能力を十分に発揮して生き活きと働き続けられる職場環境の構築に向けて、「仕事」と「生活」の双方をともに充実できる環境の整備を進めています。

### 仕事と家庭の両立支援

LIXIL では、従業員がさまざまなライフイベントにあっても、仕事と家庭の両立を支援するための制度を整備しています。

制度名		内容
勤務形態	フレックスタイム制	対象部署は、フレキシブルタイム内で自主的・計画的な出退社が可能
休暇	ゆとり休暇	年 3 日間(土日祝・連休との接続可)
	メモリアル休暇	年 2 日間
	永年勤続休暇	永年勤続(10 年・20 年・30 年)従業員に休暇と記念品贈呈
出産	出産休暇	産前 6 週間/産後 8 週間(健康保険から出産手当金の支給あり)
	配偶者出産休暇	年 3 日間(分割取得可)
育児	育児休業	子が最長で満 3 歳に達するまで(最長 1 歳半まで雇用保険から育児休業給付金の支給あり)
	勤務時間の短縮	小学校 3 年生以下の子を養育する従業員は 1 日 1 時間または 2 時間の短縮可
	育児始業・終業時刻の繰り下げ	妊婦および小学校 3 年生以下の子を養育する従業員は始業・終業時刻を 30 分または 1 時間繰り下げ可
	延長保育料補助	小学校就学前の子を養育する従業員で業務都合に伴う延長保育が必要な場合、延長保育料を補助
	子の看護休暇	小学校就学前の子 1 人につき年 5 日間(2 人以上最大 10 日間)
介護	介護休業	要介護者 1 人につき要介護状態になるごとに 1 回、通算 93 日まで(分割取得可)
	勤務時間の短縮	1 日 1 時間または 2 時間の短縮可
	月例給与補填	休業中の社会保険料相当額の補助
	賞与補填	積立年休(有給休暇の失効分)を欠勤日数に充当し賞与計算時に出勤扱い
	介護休暇	要介護者 1 人につき年 5 日間(2 人以上最大 10 日間)

※(株)LIXIL 及び一部事業会社・子会社で運用

### 各種制度の利用状況

#### 出産休暇制度の利用状況

	2012 年度		2013 年度	
		内 (株)LIXIL		内 (株)LIXIL
取得者数	291	231	300	228
復職者数	258	205	275	221
復帰率	88.70%	88.70%	91.70%	96.90%

※日本国内のみ

## 育児休業制度の利用状況

2012 年度	男性		女性		合計	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
取得開始者数	1	1	254	195	255	196
復職者数	1	1	214	176	215	177
復職予定者数*	1	1	218	179	219	180
復帰率	100.00%	100.00%	98.20%	98.30%	98.20%	98.30%
2013 年度	男性		女性		合計	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
取得開始者数	2	2	285	215	287	217
復職者数	2	2	201	149	203	151
復職予定者数*	2	2	215	152	217	157
復帰率	100.00%	100.00%	93.50%	98.00%	93.50%	96.20%

※日本国内のみ

\*株式会社 LIXIL：男性育児休業取得率(配偶者が出産した男性労働者に占める育児休業取得者の割合)は、2012 年度は 0.2%(平均取得日数 84 日)、2013 年度は 0.4%(平均取得日数 41.5 日)となっています。

\*復職予定者数：当該年度に復帰予定の制度利用者数。復帰率＝復職者数÷復職予定者(%)。  
但し、復帰予定日を変更した際、年度をまたぐ場合は復帰予定者(分母)を前年度または次年度として集計

## 介護休業制度の利用状況

2012 年度	男性		女性		合計	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
取得開始者数	2	1	7	5	9	6
復職者数	1	0	8	6	9	6
復職予定者数*	1	0	8	6	9	6
復帰率	100.00%	-	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
2013 年度	男性		女性		合計	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
取得開始者数	3	3	7	5	10	8
復職者数	2	2	7	5	9	7
復職予定者数*	2	2	7	5	9	7
復帰率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

※日本国内のみ

\*復職予定者数：当該年度に復帰予定の制度利用者数。復帰率＝復職者数÷復職予定者(%)。

但し、復帰予定日を変更した際、年度をまたぐ場合は復帰予定者(分母)を前年度または次年度として集計

## 過重労働の防止

LIXIL では、労働時間の適正化を進め、効率的で生産性の高い働き方を推進しています。時間外労働の削減として、毎週水曜日を「ノー残業デー」と設定し、従業員が原則として定時に退社するよう定めるほか、システムでの「残業の事前申告制」を導入し、従業員が意識的に残業を減らせるよう取り組んでいます。

また、長時間労働者に対するフォローも、人事総務部門と所属部門が連携して実施しています。

一方、有給休暇については取得率 50%を目指しています。その推進策として、年 1 回稼働 3 日間連続で有給休暇を取得することができる「ゆとり休暇」や「メモリアル休暇」を導入しています。

### 時間外労働 月平均残業時間（日本国内のみ）

	2012 年度		2013 年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
時間管理対象者数*	27,661	20,358	27,316	19,653
年間総労働時間**	5,860,669	4,391,880	6,274,345	4,511,732
一人当月平均残業時間	17.7 時間	18.0 時間	19.1 時間	19.1 時間

\*時間管理対象者数：正社員(管理職を含む)、嘱託・パート社員の 12 ヶ月分の平均人数、但し、(株)LIXIL ビバは正社員のみ。

\*\*時間外年間総労働時間：各事業会社制度上の残業時間(管理職を含む)

### 有給休暇利用状況 一人当たりの年間取得日数（日本国内のみ）

	2012 年度		2013 年度	
		内(株)LIXIL		内(株)LIXIL
有給休暇取得対象者数*	28,051	16,154	31,780	19,169
年間有給取得総日数**	179,285	113,888	236,474	153,371
一人当年間取得日数(取得率)	6.4 日	7.1 日(36.2%)	7.4 日	8.0 日(41.7%)

\*正社員(管理職を含む)、嘱託・パート社員の人員(3 月末時点の在籍者)

\*\*対象者全員の取得日数合計(特別休暇を除く)

## 福利厚生

LIXIL では、従業員と家族が豊かで安心した生活を送れるよう、労働組合や健康保険組合、LIXIL スマイルクラブ※と協力して、生活向上、ライフステージ支援、相互扶助などを軸とした福利厚生の充実に努めています。具体的には、団体保険や、財形貯蓄、持株会、年金などの諸制度に加え、勤続年数が 10 年、20 年、30 年のタイミングで、休暇とお祝金が支給される「永年勤続休暇制度」の運用、結婚、出産、子どもの入学などのライフイベント時に祝金が支給される「慶弔金制度」のほか、各種従業員相談窓口の運用などを行っています。

※LIXIL スマイルクラブ：労働組合員とその家族の生涯福祉増進を支援する共済会

### 主な相談窓口

相談の内容	窓口
セクシュアルハラスメント・パワーハラスメント相談窓口	人事総務本部 人事部
職場の悩み相談、法律相談、消費者金融相談	LIXIL 労働組合
法律・税務・健康相談	LIXIL スマイルクラブ／各事業所総務課
ローンおよび貯蓄の相談	LIXIL スマイルクラブ
保険相談	LIXIL スマイルクラブ
介護、健康、マナー、しきたり、人間関係の悩みなど	LIXIL スマイルクラブ／各事業所総務課



# 人材育成

## 基本的な考え方

LIXIL では、「LIXIL VALUE(共有価値)を実践し、チャレンジ精神にあふれる人材の育成」を方針としています。

具体的には、

- 1.グローバル化する経営を任せられるリーダーを育成する
- 2.LIXIL VALUE を実践するプロフェッショナルを育成することを目標に、右記のテーマで取り組みを進めています。

\* [「LIXIL VALUE」はこちら](#)

### テーマ1：次世代リーダー育成

- 全ての階層においてリーダー候補を選抜・育成

### テーマ2：プロフェッショナル育成

- 部門専門教育の企画推進
- 理念浸透、OneLIXIL活動の推進

## 評価の仕組み(人事考課制度)

「実力主義」の実践のもと、全社員を対象に「業績」と「VALUE」の2つの要素で評価を行います。

本人が目標設定、自己評価において参画し、上司は面談を通じて評価結果のフィードバックを徹底するなど、オープンな制度運用を行っています。

## フィードバックの目的

- 1.評価を確実にフィードバックすることで、評価の納得性を高め公平性を保つ。
- 2.前期活動の振り返りと今後の期待を共有することで、従業員の育成を図る。

## 人事考課のフロー



## 教育体系

LIXIL の教育体系は大きく2つに分けられます。ひとつは部門横断的に全従業員共通で必要となる基本能力の開発、そしてもうひとつがカンパニーやファンクション特有の専門技能トレーニングです。これらの教育体系を全社教育委員会にて統括し、活動推進、課題共有・解決などを行っています。

## 次世代経営リーダー育成

LIXIL では、次代の経営をリードする次世代経営リーダーの育成に注力しています。2012 年より、経営幹部候補のリーダーシップ強化を目的に、部長層を対象とした「エグゼクティブ・リーダーシップ・トレーニング(以下 ELT)」を開始しました。このトレーニングは、専用のトレーニング施設や中国北京の万里の長城での合宿型ワークショップに加え、半年間のパーソナルコーチング等、さまざまな角度から刺激を与える 1 年間のプログラムにて、リーダーシップ、事業戦略、グローバルビジネスなどについて学ぶものです。参加者は、代表執行役社長をはじめとする経営トップの期待を肌で感じ、意欲高く積極的にプログラムに取り組んでいます。

2013 年度からは、より早い段階から自身のリーダーシップを考える機会を提供すべく、ミドル層を対象とした「シニア・リーダーシップ・トレーニング(以下 SLT)」、中堅層を対象とした「ジュニア・リーダーシップ・トレーニング(以下 JLT)」を、2014 年度からは、20 代の若手層を対象とした「フレッシュ・リーダーシップ・トレーニング(以下 FLT)」を開始しています。また、ELT 修了者の選抜者と海外グループ会社のリーダー候補を集め、海外ビジネススクールへの派遣、イタリアでのワークショップの開催など、よりグローバルで活躍できるリーダー育成の取り組みも実施しています。その他、国内各社では、通信教育の推奨及び、修了者への一部費用負担などを導入しています。



▲エグゼクティブ・リーダーシップ・トレーニング(ELT)の様子

ジュニア・リーダーシップ・トレーニング(JLT)の様子▲

### 各種研修・教育支援制度の種類と 2013 年度の活用状況(海外事業所含む)

項目	研修概要	参加者数
新人研修	新規入社に従業員を対象とした基礎研修	3,434 名
階層別研修	階層別に必要とされるスキルや能力開発のための職位・職層別研修	10,465 名
エグゼクティブ・リーダーシップ・トレーニング(ELT)*	対象：部長クラス(経営幹部候補) 目的：グローバルリーダーシップの探求	47 名
シニア・リーダーシップ・トレーニング(SLT)*	対象：課長クラス 目的：価値観の深堀と経営スキルの習得	57 名
ジュニア・リーダーシップ・トレーニング(JLT)*	対象：主任クラス(中堅層) 目的：リーダーを目指す決意と基礎力の養成	80 名
管理職研修	管理職昇格者を対象とした研修	477 名
部門別研修	開発・生産・営業など職種、部門ごとに必要とされるスキル・能力開発研修	21,392 名
その他(技能取得研修など)	公的資格取得など、業種や職種に特有の独自研修	6,198 名

\*(株)LIXIL のみ

## 従業員のキャリア開発支援

(株)LIXIL では、従業員のキャリア開発支援の一環として、若手従業員を対象に MBA 取得制度を導入しました。これは、リーダーシップや経営スキル、国際感覚を習得する機会を設け、「自己のあくなき向上心を発揮し、(株)LIXIL の事業発展に貢献しよう」という情熱あふれる若手従業員を育てることを目的としています。社内公募により 2011 年度は 10 名、2012 年度は 8 名、2013 年 5 名の従業員を選抜し、MBA 修学に向けた国内外の大学への派遣を開始しています。

### 主要会社の主なキャリアアップ制度・自己申告制度と 2013 年度の利用状況

項目	制度導入組織	利用者数
社内公募制度	(株)LIXIL PT American Standard Indonesia 驪住通世泰建材(大連)有限公司 (中国) 驪住海尔住建設施(青島)有限公司	15 名
資格取得推奨制度	シニアライフカンパニー (株)川島織物セルコン (株)LIXIL ビバ (株)LIXIL トータルサービス (株)LIXIL 鈴木シャッター 旭トステム外装(株) 驪住通世泰建材(大連)有限公司 (中国)	222 名
MBA 制度	(株)LIXIL	22 名
自己申告制度* (キャリアアップ申告)	(株)LIXIL (株)川島織物セルコン 旭トステム外装(株) ジャパンホームシールド(株) (株)G テリア (株)日本住宅保証検査機構	14,263 名

## 労使関係

LIXILグループでは、企業の発展と従業員の生活の安定・向上を目指し、労使双方が対等で責任ある信頼関係を築くことが重要であると考えています。

### 労使関係

LIXILでは、2011年4月の5社統合(トステム、INAX、新日軽、サンウエーブ工業、東洋エクステリア)にあわせ、旧各社の労働組合も一本化し、LIXIL労働組合を結成しました。(加入対象：日本国内の事業所の正社員のみ)LIXIL労働組合はユニオンショップ制をとっており、日本国内では全正社員数における85.4%の14,031名が組合員(2014年3月末時点)となっています。労使協議の場としては、「労使協議会」や「団体交渉」を定期的に行い、労働条件や労働環境などの課題について情報共有を図り、労使一体となって課題解決にあたっています。また、大きな労働条件の改定などの重要なテーマについては「労使専門委員会」を組織し、十分な検討・協議を経て決定しています。こうしたプロセスを経て導入された労働条件や各種制度は、社内イントラネットでの制度紹介や管轄総務部門による従業員フォローなどで浸透を図り、また、労働組合も独自で制度のポイントをまとめた「ユニオンガイド」を全組合員に配布するなど、労使が協力して周知活動を行っています。これまで労使間で築き上げた信頼関係をより一層深化させ、労使一体となって会社の業績向上を目指し、住宅建材業界におけるリーディングカンパニーにふさわしい労働条件に向けて更なる改善に取り組んでいます。

### 労使基本協定 ※一部抜粋

#### ●第1章 総則

(会社および組合の権利 第5条)

会社および組合は、労働権と経営権を相互に尊重し、その正当な行使を妨げない。

#### ●第4章 団体交渉

(団体交渉の原則 第34条)

団体交渉は、会社および組合双方とも対等の立場において信義と誠実をもって平和的に交渉事項の円滑な妥結をはかるものとする。

#### ●第5章 紛争処理

(平和義務 第48条)

会社と組合は、相互信頼の上に立ち、労使間の問題はすべて話し合いによって平和のうちに円満に解決する。

(争議行為の調整 第49条)

会社および組合双方は、協議又は団体交渉によって誠意をもって円満な解決を図るよう努力し、なお妥結しない紛議については労働委員会に斡旋又は調停を申請し、その斡旋又は調停案により紛争の平和的解決に努めるものとする。

### 主な労使協議と労働組合会議体

年末一時金交渉/団体交渉(全4回)	議題は一時金のみ
春闘交渉/団体交渉(全4回)	議題は賃金、一時金、労働条件
中央労使協議会(9回/年)	会社施策の情報共有、組合活動の情報共有
中央執行委員会(10回/年)	組合活動の進捗確認、方策検討、会社施策の情報共有
中央委員会(9回/年)	組合活動の各種承認、会社施策の情報共有
安全衛生委員会(12回/年)	事業所ごとに情報交換・対策検討を実施

## 労働組合の活動

2012年に発足した新生LIXIL労働組合は「ALL LIXIL～やりがい・働きがいのある職場づくり～」をスローガンに掲げ、活動を進めています。2年目の今期は会社の急速な変革が進む中で、労働組合としての存在意義を中央執行委員会や中央委員会の中で改めて検討し、新たに「組合は、みんなの笑顔を創ります。守ります。育てます。」をミッションとして全ての組合活動の基礎にしていくこととしました。来期の活動方針はこのミッションを反映した形で策定していきます。また昨年開催したWLF検討委員会内で「試行」とされていた制度(延長保育料補助)の確認や追加検討を目的に委員会が再開されました。その中で試行制度の正式採用や一部制度の見直し(育児時短等)が議論され、その結果2014年4月から一部改訂での実施となりました。これまで以上に「やりがい・働きがいのある職場」としていくために、全ての組合員の協力の基、組合活動を進めています。

\* [仕事と家庭の両立支援に関する詳細はこちら](#)

## 労働組合機関誌の発行

LIXIL労働組合では、統合後の組合員の融和を図り、かつ新しい労働条件に関する組合員の理解を深めることを目的として2011年度から発行していた組合統合機関誌「ALL LIXIL」を、2012年度から新体制がスタートしたことを機に「TUNE」としてリニューアルし、全組合員に配布しました。機関誌の中では、これまで通り組合員の交流イベントや行事の紹介や新しいLIXILの人事制度の説明に加え、支部活動を中心とした記事や新しいコーナーの掲載など、より充実した内容とし、LIXIL労働組合としての一体感を高める内容としています。



## LIXIL スマイルクラブ

LIXILスマイルクラブは、組合員とその家族の生涯総合福祉の増進を図ることを目的に、福利厚生制度を専門に扱う団体として、2001年10月に労働組合から独立して設立されました。独立した団体となることにより、一単組の枠にとらわれず会員規模の拡大を図り、そのスケールメリットを活かして質の高い福利厚生制度を安定的に提供しています。現在、LIXILスマイルクラブには、LIXIL労働組合と同グループ内会社の6つの労働組合が加盟しており、会員数は約15,000名(2014年3月末時点)となっています。これらの会員から集めた会費と事業収益を原資に福利厚生制度の充実を図りながら、会員の安心で充実した暮らしの支援に取り組んでいます。

## 主な制度紹介

慶弔金	結婚祝金、出産祝金、入学祝金、弔慰金、快気祝金、住宅災害見舞金等
共済、保険	全労済、かんぼ生命保険、団体長期障害所得補償保険(まもるくん)等
預金、融資	労金(住宅ローン・カーライフローン等)
その他ライフサポート	冠婚葬祭・レジャー・ショッピングなどの各種割引制度等 (マジックキングダムクラブ、ベネフィット・ワン、ツヴァイ、全国儀式サービス等)

## 環境活動

LIXIL グループは、  
人びとの暮らしが地球と調和することを願い、  
住まいづくりのあらゆるプロセスにおいて、  
環境に配慮した主体的な取り組みを続けています。

## 環境活動

### 地球との約束

地球環境問題やエネルギー問題は、グローバルな規模でますます深刻になってきました。LIXILグループは、私たちの暮らしがいつまでも地球と調和することを願い、地球への負担をへらすことに果敢に挑戦するとともに、大地からの贈りものを大切にいかしながら、生きものや自然をまもるための知恵をさらに高めていきたいと思いをします。

## 環境方針



## 環境理念

LIXILグループは、人びとの暮らしが地球と調和することを願い、住まいづくりのあらゆるプロセスにおいて、環境に配慮した主体的な取り組みを続けていきます。

## 行動指針

LIXILグループは、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、あらゆる業務において環境配慮型のオペレーションを実践し、幅広いステークホルダーと活発なコミュニケーションを推進します。

- 私たちは、お客さまに対して、自然の恵みをいかした製品とサービスを総合的に提供し、お客さまと共に、これからの暮らしのあり方を考えます。
- 私たちは、日々の仕事を進めるうえで、環境に関する法令の順守と汚染の予防に努め、低炭素・資源循環・自然共生につながる活動を行います。
- 私たちは、地域や社会の一員として、一般市民や行政、NGO・NPOなどの相互理解を深め、協働して、私たちならではの環境保全活動を進めます。

## 環境ビジョン

### 地球の企業として

豊かな暮らしに向けて発展を続ける新興国をはじめ、世界規模でのエネルギー消費が増大し、CO<sub>2</sub> 排出量の増加が止まりません。豊かさを求める世界の人びとの思いを、地球はどこまで支えることができるのでしょうか。私たちは、あらためて日本が育ててきた世界最高レベルの環境技術や製品・サービスの革新、ライフスタイルの変革などをもって、世界全体のエネルギー消費の削減や CO<sub>2</sub> 排出量の削減を一層進めていくことが求められています。

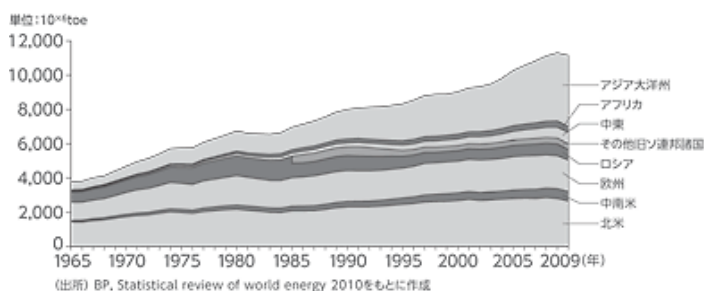


私たち LIXIL グループは、2050 年の人びとの暮らしの豊かさと、地球環境への負荷がゼロ・バランスしている姿を希求し、住生活産業の分野で世界をリードしていきます。

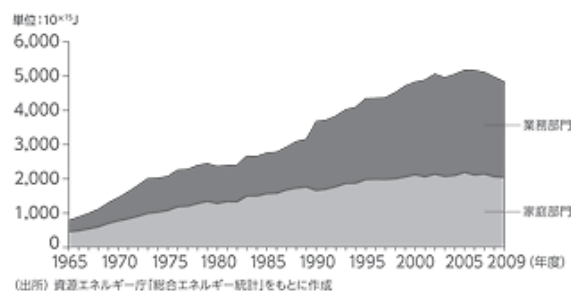
**私たちは、住宅やビルのゼロエネルギーを実現するための技術革新を追求し、それらを提供するトータル・ハウジング・プロバイダーとなって、世界全体の省エネルギーや CO<sub>2</sub> 削減に貢献します。**

住生活産業におけるグローバルリーダーとなり、世界の人びとに提供する製品の製造・使用・廃棄、国境を越えた原材料の調達など、直接・間接を問わずあらゆる事業活動による地球環境への負荷低減を限りなく追求していきます。そして、世界各地における水資源や森林生態系の保全・回復につながる社会貢献活動も積極的に推進していきます。

●世界の地域別のエネルギー消費の推移



●日本の民生部門のエネルギー消費の推移





## 環境戦略

### 地球と調和する「暮らしの理性」の創造

人びとの暮らしは、地球と調和することで成り立つものです。  
私たちは、住まいに関わる分野で世界をリードしていくことを目指し、  
お客様の暮らしに貢献する製品をお届けするとともに、  
自らの事業活動にともなう環境負荷をできるかぎり減らしていきます。  
また、社会全体の環境負荷を低減していくために  
さまざまなステークホルダーと共に地域と社会に貢献していきます。



- ・LIXIL の直接的な事業活動においては、生産効率のさらなる向上や再生可能エネルギーの導入を進め、日本国内の事業拠点での CO<sub>2</sub> 排出量を 2010 年度(法人統合前)の水準よりもさらに削減していきます。
- ・お客さまによる製品の使用、原材料の調達や製品の廃棄など、LIXIL が間接的に影響を及ぼすことができる場面においては、省エネ・創エネ・断熱・パッシブやリデュース・リユース・リサイクルなどの技術革新を進め、エネルギー消費を 2010 年度(法人統合前)の水準よりも削減することに貢献していきます。

#### 重点テーマ 1

自然の恵みをいかした製品とサービスを提供しながら、  
お客さまと共にこれからの暮らしを考えます。



製品の使用段階でのエネルギーや水資源の消費をコントロールする技術を高めるとともに、暮らしの中から新しいエネルギーを生み出す先進的な技術、事業を創出していきます。

#### 暮らしを快適にする制御技術確立して、住宅やビル一棟あたりのエネルギー消費をネット・ゼロにできる製品群を普及します。

これからの住宅やビルに求められる高性能な断熱サッシ・ドア、節電・節湯機能を高めた製品の開発により、冷暖房や給湯に使われるエネルギーを大きく削減。さらに太陽光発電などを組み合わせることで、一棟あたりのエネルギー消費を実質的に概ねゼロにできる製品群を提案、普及していきます。



**暮らしに必要な水の制御技術確立して、住宅やビル一棟あたりの水使用量を大幅に削減できる製品群を普及します。**

トイレやバス、キッチンなど、毎日多くの水を使う住宅やビル。超節水型の便器や水栓金具などを開発・普及してきた実績をもとに、さらに高度な水の制御技術を高めた製品群を投入することで、大切な水資源を守っていきます。



**再生可能エネルギーに関わる独自技術確立して、新規の環境事業を創造します。**

低炭素社会を実現するには化石エネルギーへの依存度を下げ、太陽光・太陽熱、風力、地中熱などの再生可能エネルギー導入を積極的に進めることが求められています。これまでの技術水準を超えた次世代の太陽光発電や風力発電などの先進的な独自技術確立し、新たな環境事業として一般に広く普及していきます。



## 重点テーマ 2

日々の事業活動において、  
低炭素・資源循環・自然共生につながる



製造段階でのCO<sub>2</sub>排出量の削減をさらに推進するとともに、原材料の調達や製品の廃棄段階において、グローバルな規模で資源循環・自然共生を追求していきます。

**製造における再生可能エネルギーの導入により、グリーン電力の自給工場を拡大します。**

製造拠点で使うエネルギーの多くは化石エネルギーに支えられてきましたが、再生可能エネルギー設備を自ら導入することで、化石エネルギーへの依存度を下げます。拠点ごとに立地や気候などの特性を考慮して、太陽光や風力、熱電変換などの可能性を検討。また、蓄電システムを併設するなど、電力の安定自給も実現します。



**廃棄における製品の高品位リサイクルシステム確立して、調達におけるバージン原料の使用量を削減します。**

これまで使用済み製品の回収・再資源化を積極的に進めてきた実績を活かし、アルミや銅などの金属原料を中心に、廃棄される製品を生産工程で再利用するクローズド・リサイクルを加速させます。この取り組みを推進することで、原材料の調達にともなうエネルギーを削減します。



### 工場使用水の循環システムを確立して、製造における水資源の使用量を削減します。

製造拠点では上水や中水など、多くの水を使用していますが、世界的に水資源の枯渇が懸念されています。使用した水の循環システムの構築、製造工程での水使用の効率化などを進め、水使用量の削減に取り組んでいきます。



### 調達における指針づくりや技術開発により、森林生態系保全に配慮された木材資源の利活用を拡大します。

キッチンやインテリア建材などの製品に多くの木材資源を使用しています。持続可能な循環が営まれている森林の木材を使用するため、利用・調達のガイドラインを策定し、さらに材料改質や代替材料の技術開発も進めます。



## 重点テーマ 3

地域や社会の一員としてステークホルダーとの相互理解を深め、協働して独自の活動を行います。



### 社員環境教育「私たちのエコ・アクション」を通じて、全社員の環境リテラシーを高めます。

環境方針や環境ビジョンにもとづく共通の価値観のもと、社会のために自発的に仕事をするという企業風土を築いていきます。そして、国内外に展開した各拠点の地域コミュニティに、積極的に参画していきます。



### 社員による出前授業やワークショップを通じて、

### 「きれいな水」につながる環境貢献活動を行います。

国内外の子どもたちを対象に、生活に関わる水の大切さを伝える「水から学ぶ」という活動を行います。国内では、オリジナル教材を使った出前授業を通じて、社員が小学校などで子どもたちに直接伝えていきます。また海外では現地 NPO と協働し、子どもたち自身が理解し、考え、行動する教育の支援を展開していきます。



**社員による里山保全や植樹を通じて、  
「うつくしい森」につながる社会貢献活動を行います。**

生態系保全や水源涵養など森林が持つ多面的な機能を理解し、地方自治体やNPOと協働して、間伐・環境整備などの「森でeこと」という活動を行います。また、国内外に展開した製造拠点では、社員とその家族が近隣住民や行政関係者などと協働して「工場の杜」という植樹活動を行います。



## 環境マネジメント

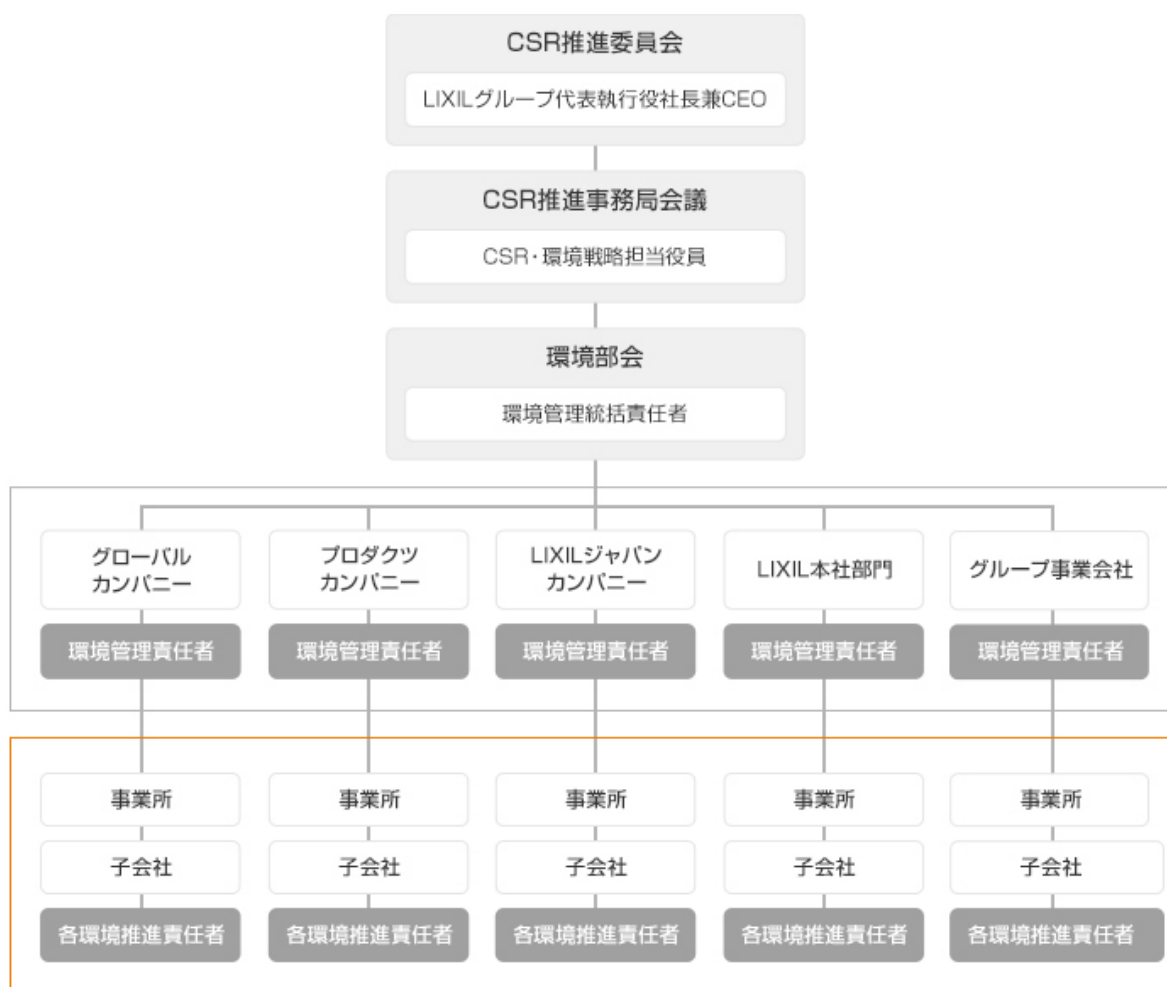
LIXIL グループでは、2012 年度に「LIXIL グループ環境管理規程」を制定し、「LIXIL 環境ビジョン」に基づき設定した 2015 年(中期)環境目標の達成に向け、環境マネジメントシステムを運用しています。2013 年度は LIXIL グループ環境管理規程を、グローバルカンパニーやグループ事業会社及び子会社に展開しました。また、プロダクツカンパニーの工場では個々に取得していた ISO14001 の認証をプロダクツカンパニーとして統合したほか、グローバルカンパニーの ISO14001 の認証未取得工場は、順次 ISO14001 の認証取得を進めています。

\* [中期目標はこちら](#)

## 環境推進体制

代表執行役社長を委員長に全執行役からなる「グループ環境戦略委員会」を 2012 年 7 月から「CSR 推進委員会」とし、新体制のもと関連会社を含むグループ全社での環境経営を推進しています。

\* [CSR 推進体制はこちら](#)



※子会社への環境マネジメントシステム展開時期は各カンパニー・事業会社判断

※2013 年度時点の体制図です。2014 年度からプロダクツカンパニーを改廃し、SC 本部が生産部門を担っています。

## 内部監査実施状況

LIXIL のプロダクツカンパニー及びグローバルカンパニーの生産工場では、環境マネジメントシステムの有効性や順法について、ISO14001 に基づく内部監査を実施しています。生産工場以外の部門やグループ事業会社では、LIXIL グループ独自の環境マネジメントシステムに基づく内部監査を実施しており、実施対象を順次子会社へと拡大しています。また、2013 年度からは新たに本社環境部門による順法教育及び順法監査を開始し、コンプライアンスの徹底を図っています。いずれにおいても大きな不適合事項はありませんでしたが、監査で指摘があった事項については、フォローアップを行い、改善実施を確認しています。

## 従業員意識啓発活動

LIXIL グループ全従業員の環境リテラシーの向上を目指し、2011 年度から自由投稿形式のイントラサイト「私たちのエコ・アクション」や掲示用ポスターを活用し、事業所単位や個人単位で、またプライベートでも実施しているエコ・アクションの情報共有と意識啓発を行っています。イントラサイトでは、2013 年度は 1 年間で 126,693 件の訪問数、過去 3 年間で 2,484 件の投稿がありました。イントラサイトを通じて離れた地域の事業所の活動も知ることができ、エコの気づきと行動を共有化することで、インナーコミュニケーションとしての活用も広げ、自発的に行動するという企業風土を築いていきます。また、LIXIL グループの環境ビジョンを掲げた小冊子を全従業員に配布するなど、意識向上に努めています。



▲イントラサイトと啓発ポスター

## 社外評価

### エコプロダクツ大賞 受賞

LIXIL は、エコプロダクツ大賞推進協議会が主催する「第 11 回 エコプロダクツ大賞」において、室外へ排気する室内空気の熱を活用し、外気を室内の温度に近づけて取り込む高効率・熱換気ユニット「エコエア 90」と、一部屋単位から既存の窓・壁・床の上から内窓や断熱パネルを取付けるだけで、最短 1 日で断熱性を高めることができる新発想の工法「ココエコ」が、「エコプロダクツ部門」で「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)」を受賞しました。また、過去には「第 9 回エコプロダクツ大賞」において、「通風・創風設計サポート」が「エコサービス部門」で「環境大臣賞」を受賞しています。



▲「エコエア 90」(左)と「ココエコ」(右)

- \* [高効率・熱換気ユニット「エコエア 90」についてはこちら](#)
- \* [エコリフォームができる新発想の工法「ココエコ」についてはこちら](#)
- \* [第 11 回 受賞についてのニュースリリースはこちら](#)
- \* [第 9 回 受賞についてのニュースリリースはこちら](#)

### 環境格付融資制度で最高ランク取得

LIXILグループは、CO2 排出量削減活動、メガソーラーなど再生可能エネルギーの導入、住宅リフォーム廃材の再資源化や生物多様性に関する取り組みを積極的に進めている点などが、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価され、2012年1月、日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、最高ランクを取得しました。

\* [「環境格付融資制度」についてのニュースリリースはこちら](#)



### エコ・ファーストの約束

「エコ・ファースト」とは、業界のトップランナー企業の環境保全に関する行動をさらに促進していくため、企業が環境大臣に対し、自らの環境保全に関する取り組みを約束する環境省の制度です。LIXIL(認定当時は INAX ブランド、現在は LIXIL ブランドとして認定)は、2008年6月に環境省から住宅設備・建材業界で初めて「エコ・ファースト企業」として認定を受けました。



地球環境のためにLIXILは  
業界トップランナーとして  
先進的な取組をしていきます。

\* [「LIXIL エコ・ファーストの約束」はこちら](#)

## LIXIL「エコ・ファーストの約束」

「エコ・ファースト」とは、企業の環境保全に関する業界のトップランナーとしての取り組みを促進していくため、企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度です。

### \* [環境省 HP「エコ・ファーストの制度について」](#)

株式会社 LIXIL は、「LIXIL 環境ビジョン」の環境戦略重点テーマに基づいた具体的な取り組み内容と目標を明確にした活動を積極的に推進することを約束し、環境省から「エコ・ファースト企業」として認定を受けました。



2012年10月29日に行われた「エコ・ファースト」認定式にて  
長浜博行環境大臣(左)と当社代表取締役 上席副社長執行役員  
LIXIL ジャパンカンパニー社長 大竹俊夫

## 株式会社 LIXIL「エコ・ファーストの約束」

株式会社 LIXIL とその子会社は、事業活動でのエネルギー消費のミニマム化とともに、民生部門のエネルギー消費のゼロ・バランスを希求し、豊かで快適な住生活の未来に貢献するために、以下の取組を進めてまいります。

### 1.自然の恵みをいかした製品とサービスを提供しながら、お客さまと共にこれからの暮らしを考えます。

高性能な断熱サッシ・ドア、節電・節湯機能を高めた製品の開発・販売により、家庭・オフィスビル等の民生部門における CO<sub>2</sub> 排出量削減に寄与します。LIXIL 製品による国内のエネルギー削減貢献量の最大化に努めるとともに、CO<sub>2</sub> 排出量の削減も推進し、2015 年度までに 2010 年度比で 2 倍にします。

### 2.日々の事業活動において、低炭素・資源循環・自然共生につながる運営を行います。

低炭素化の推進のため、調達・製造から廃棄まで、あらゆる事業活動におけるエネルギー消費のミニマム化に努め、国内事業所の CO<sub>2</sub> 排出量を 1990 年度比で 2020 年度に 60%削減します。

資源循環の推進のため、廃棄製品に含まれるアルミ等の金属原料について、産学官による共同開発への参画を通じて高度選別技術の実用化と製品製造工程における技術革新を重ね、現在業界トップランナーレベルにある原材料全体に占めるリサイクル原料の比率を更に高めます。また、拡大生産者責任のひとつとして、住宅リフォーム廃材の再資源化を行う「エコセンター」事業を中部・関東に続き東北地区で 2012 年度に開始し、2015 年度までに東北地区で年間 5,000m<sup>3</sup>の廃材を処理します。

自然共生の推進のため、木質材料の調達量に占める国内外の第三者機関による認証材、植林材、国産材および木質端材・廃材を原料とした加工材の合計の比率を、2015 年度までに 80%にします。また、サトウキビの絞りカスを原料とした「バガスボード」を先進的な品質規格に適合させて国内からアジアへ普及させることをはじめ、木質端材と再生プラスチックを混合成型した「強化木」および未利用材や早生樹などの木材改質などの先進技術を活用した事業化により、木材資源の有効利用を促進し森林減少の抑制に寄与します。



### 3.地域や社会の一員としてステークホルダーとの相互理解を深め、協働して独自の活動を行います。

国内外の子どもたちに、生活に関わる水の大切さを伝える「水から学ぶ」活動を推進します。国内では地域の小学校でオリジナル教材を使った出前授業を社員自らが実施、海外では現地 NPO と協働し、地元の子どもたちと対話しながら教育の支援を行い、2015 年までに海外新規拠点での活動を 1 箇所追加し、活動を拡大します。

製造拠点のある地域の生物多様性や森林の保全を維持するため、社員とその家族が近隣住民や地方自治体、NPO と協働して森林の環境整備や間伐、植樹などを行う「森で e こと」や「工場の杜」活動を推進します。2015 年までに新規拠点での活動を 1 箇所追加し、活動を拡大します。

株式会社 LIXIL は、上記取組内容の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告いたします。

環境先進企業として環境省からの認定を受けている「エコ・ファースト企業」は、環境大臣に個別に宣言している「エコ・ファースト約束」の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動のさらなる充実強化などを「エコ・ファースト企業」が連携して強力に推進していくことを目的に、2009 年 12 月 9 日に「エコ・ファースト推進協議会」を設立しました。



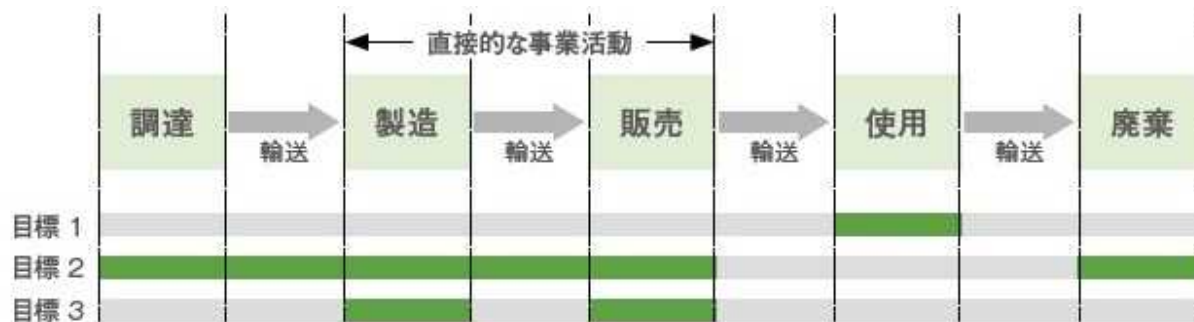
この設立は「エコ・ファースト制度」が創設されて 1 年余が経過したことを契機に、エコ・ファースト企業が環境保全の取組みを中断なく前進させるとともに環境行政との連携及びエコ・ファースト企業間の連携を強化することにより「エコ・ファースト制度」の発展を目指すものであります。

\* [「エコ・ファースト推進協議会」についてはこちら](#)

## 中期目標

LIXIL グループは、「環境ビジョン」に掲げたミッションを達成するため、事業活動における CO<sub>2</sub> 排出量の削減からエネルギー消費量そのものを減らすことに切り替え、「ライフサイクル全体のエネルギー消費量を削減」することを目標としました。事業活動において私たちが直接消費するエネルギーのみならず、原材料の調達からお客さまによる製品の使用・廃棄といった、間接的に影響のある場面まで含めたエネルギー消費量を削減していきます。2015 年に向けて、次の 3 つの中期目標を設定して取り組んでいきます。

### 製品・サービスのライフサイクル



## 目標 1

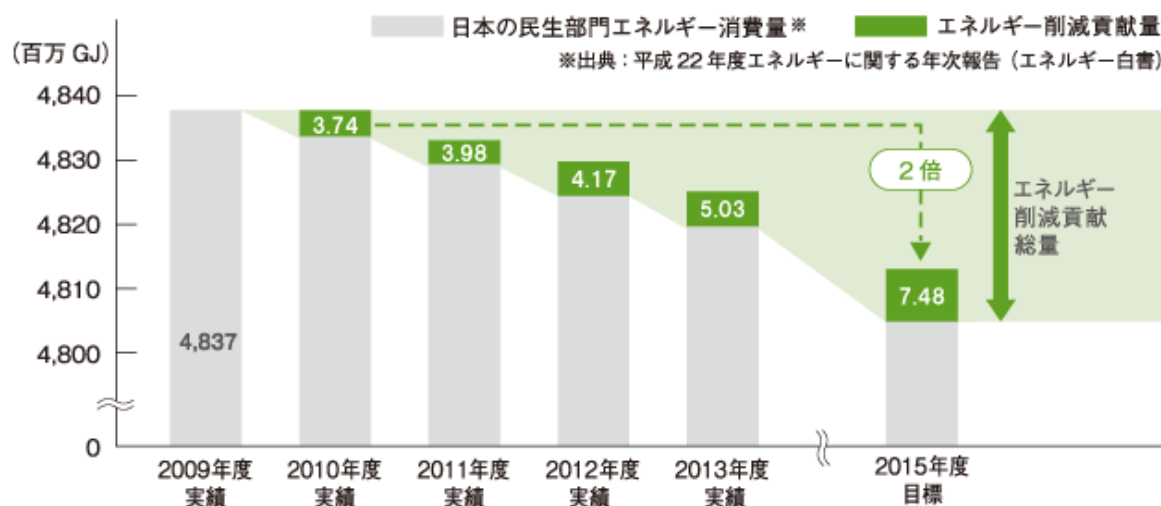
### 民生部門のエネルギー消費のゼロ・バランスを達成するため、国内の家庭・オフィスビルなどにおけるエネルギー削減貢献量を 2015 年度に 2010 年度比で 2 倍にします

国内の住宅やオフィスといった民生部門のエネルギー消費は増え続け、2009 年には 4,837 百万 GJ となりました。そのうち、家庭部門におけるエネルギーの大半は、断熱性能が低く旧来型の設備機器が使われている住宅で消費されています。断熱性能が低いとされる住宅は、日本の住宅ストック数(約 5,800 万戸)の過半を占めています。

その住宅の省エネ性能が 1990 年当時の水準であると仮定し、LIXIL の最新の製品が 1990 年当時の製品に比べて削減できるエネルギー総量を「エネルギー削減貢献量」と定義し、民生部門のエネルギー消費削減に取り組むための指標としました。2015 年度の「エネルギー削減貢献量」が 2010 年度比で 2 倍になるよう、製品のさらなる性能向上と普及を推進します。2013 年度の「エネルギー削減貢献量」は 5.03 百万 GJ で、2010 年度比 1.34 倍でした。

また、これらの創エネ、省エネ、節水製品は交換・廃棄されるまで継続してエネルギーを削減し続けるため、2010 年度以降、毎年の削減貢献量を積算した「エネルギー削減貢献総量」は 2015 年度には 30 百万 GJ にのぼると推計されます。その技術を海外商品にも展開することで、世界全体のエネルギー削減に貢献していきます。

### 国内における民生部門エネルギー消費量とエネルギー削減貢献量の推移



#### [ エネルギー削減貢献量の算定方法 ]

エネルギー削減貢献量 = (各年度に国内で販売した創エネ・省エネ・節水製品※1 の 1990 年製品比年間電気・ガス・水使用削減量) × (エネルギー換算係数※2) × (各製品の販売数量)

<窓の場合>

窓のエネルギー削減貢献量 = (1990 年当時の窓に対して、窓の断熱性能向上により 1 年間に削減できた暖冷房の電気使用量※3) × (電気のエネルギー換算係数) × (窓の年間販売数量(住宅一棟換算))

※1 対象商品カテゴリ：住宅用サッシ・パネル・ドア【戸建て・集合住宅用サッシ、住宅用断熱パネル、玄関ドア(プレハブ向け除く)】、システムキッチン・洗面化粧台、トイレ、ユニットバス、太陽光発電パネル、水栓金具(単品)、調湿建材

※2 [電気・ガス]省エネ法「エネルギー種別の単位発熱量」、2010 年度版

[水](社)産業環境管理協会「カーボンフットプリントデータベース ver.1」より算出した換算係数

※3 住宅用熱負荷計算プログラム「SMASH for Windows」((財)建築環境・エネルギー機構)を用いて算出した標準的な住宅一棟の年間暖冷房負荷を電気使用量に換算

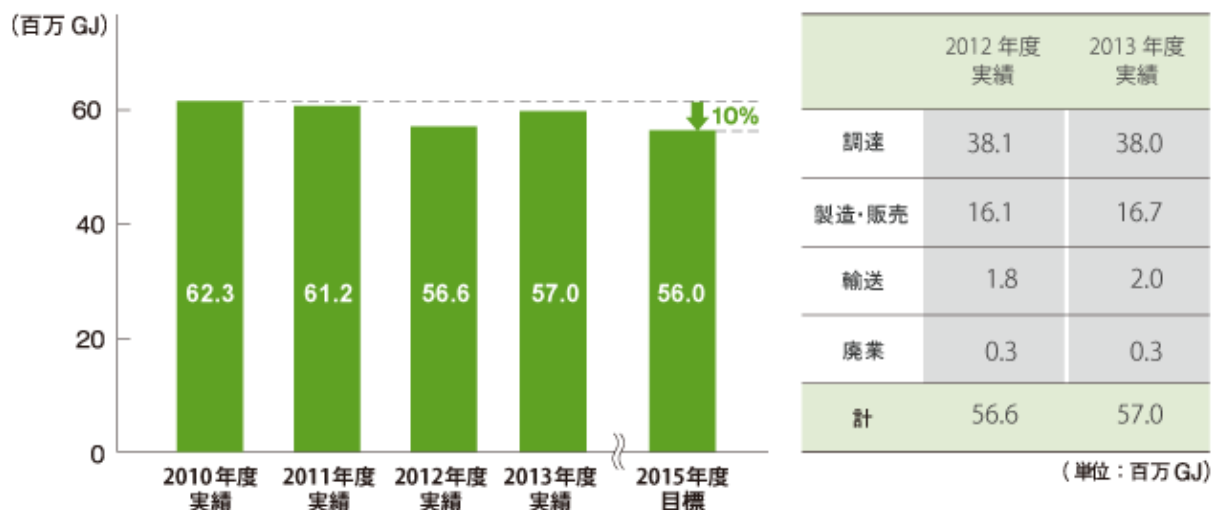
## 目標 2

### 調達・製造・販売・廃棄における国内・海外のエネルギー消費総量を 2015 年度までに 2010 年度比で 10%削減します

ライフサイクルの各段階で発生するエネルギー消費量を管理し、調達段階では原材料のリサイクル比率向上、製造・販売段階では再生可能エネルギーの導入や生産効率向上、輸送段階ではリターンブル梱包やコンパクト梱包等による輸送方法の効率向上、廃棄段階では製品のリサイクル向上といった施策を推進していきます。

2015 年度までに、2010 年度比でエネルギー消費総量 10%削減を目指します。2013 年度のエネルギー消費総量は 57.0 百万 GJ で、2010 年度比で 8.5%削減しました。

#### 国内・海外におけるエネルギー消費総量の推移



2013 年度より、マテリアルバランスには新たに関連子会社 10 社分、(0.17 千 GJ) を含んでいますが、目標実績には、次期の中期目標から追加するため、含まれていません。

#### [ エネルギー消費総量の算定方法 ]

エネルギー消費量(調達)※1 = (原材料購入量) × (エネルギー換算係数※2) + (部品・部材購入金額) × (エネルギー換算係数※3)

- ・エネルギー消費量(製造・販売)※4 = (電気・燃料使用量、取水量) × (エネルギー換算係数※5)
- ・エネルギー消費量(廃棄) = (製品を廃棄するときの埋立て・焼却量) × (エネルギー換算係数※2)
- ・エネルギー消費量(輸送) = (輸送重量) × (輸送距離) × (エネルギー換算係数※6)

※1 原材料のエネルギー消費量には、鉱山等での採掘・選別と工場等での調合・精錬にて素材へ加工し、日本へ輸送するまでを含む

部品・部材のエネルギー消費量には、原材料の採掘から精錬や加工、日本への輸送に加えて、日本国内での組立て、加工も含む

※2(社)産業環境管理協会「カーボンフットプリントデータベース ver.1」より算出した換算係数

※3(社)日本建築学会「LCA データベース(2005 年産業関連表データ版)」

※4 製造・販売時のエネルギー消費量は、製造・販売時の廃棄物処理量にエネルギー換算係数※2 を乗じて算出したエネルギーを含む

※5 [電気・燃料] 省エネ法「エネルギー種別の単位発熱量」、2010 年度版

[水](社)産業環境管理協会「カーボンフットプリントデータベース ver.1」より算出した換算係数

※6 省エネ法(荷主に係る措置)における「改良トキロ法の燃料使用原単位、単位発熱量」により算出した換算係数

#### [ 算定対象範囲 ]

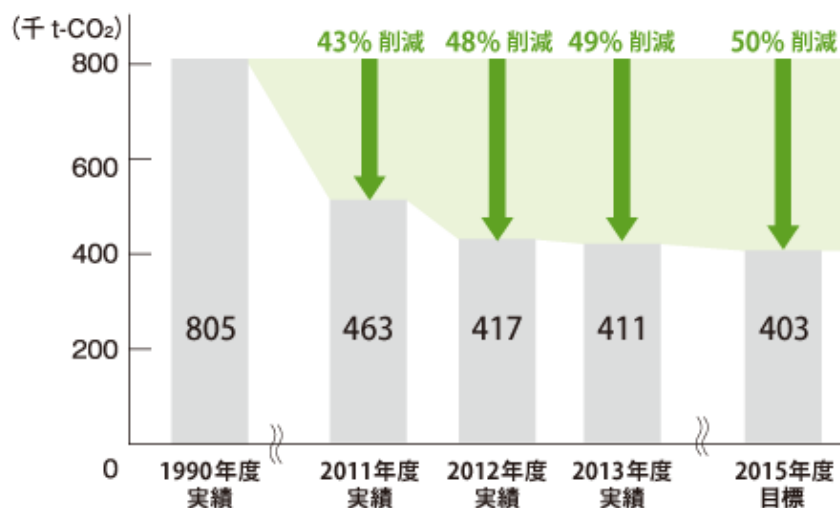
2013 年 4 月時点での、国内・海外の事業会社ならびにその連結子会社、及び事業会社の管理下にある非連結子会社

### 目標 3

#### 日本国内の事業所からの CO<sub>2</sub> 排出量を 2015 年度に 1990 年度比で 50%削減します

目標 2 においてエネルギー消費量を削減することにより、日本国内の直接的な事業活動における CO<sub>2</sub> 排出量削減にも貢献していきます。2013 年度の国内の事業拠点での CO<sub>2</sub> 排出量は 411 千 t-CO<sub>2</sub> で、1990 年度比 49%削減しました。

#### 日本国内の事業所からの CO<sub>2</sub> 排出量



2013年度より、マテリアルバランスには新たに関連子会社8社分、(6千 t-CO<sub>2</sub>)を含んでいますが、目標実績には、次期中期目標から追加するため、含まれていません。

#### [ CO<sub>2</sub> 排出量の算出に用いた CO<sub>2</sub> 換算係数 ]

購入電力：(日本:0.378)、(中国:0.764)、(韓国:0.489)、(タイ:0.567)、(ベトナム:0.427)、(インドネシア:0.653)、(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

天然ガス：2.108 (kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>)、LPG：3.002 (kg-CO<sub>2</sub>/kg)、灯油：2.492 (kg-CO<sub>2</sub>/L)、重油：2.71 (kg-CO<sub>2</sub>/L)

軽油：2.624 (kg-CO<sub>2</sub>/L)、ガソリン：2.322(kg-CO<sub>2</sub>/L)、購入蒸気：0.06 (kg-CO<sub>2</sub>/MJ)

出典：事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン 2005 年度版(環境省)

：GHG-emissions-from-purchased-electricity (Version-4\_4\_Aug-2012)

## マテリアルバランス

### 集計対象・範囲について

環境負荷データの集計対象組織は、会社規模・事業内容を考慮し、一部の連結子会社を除いては、原則 2013 年 4 月時点での事業会社並びにその連結子会社としています。また、非連結子会社については、一部の生産、物流子会社((株)LIXIL 物流、驪住建材(上海)有限公司)のみを含んでいます。(建物を LIXIL グループの事業会社が所有し同社の管理下にある場合は、LIXIL の組織下として管理しています)尚、連結財務諸表と対象範囲は異なります。その他、対象範囲が異なる項目は個別に注釈を記載しています。

#### ■(株)LIXIL グループの事業会社

(株)LIXIL、(株)LIXIL ビバ、(株)川島織物セルコン、(株)LIXIL 住宅研究所、ハイビック(株)、(株)日本住宅保証検査機構、(株)LIXIL リアルティ、(株)クラシス、LIXIL グループファイナンス(株)

#### ■(株)LIXIL の主要子会社

・**国内連結子会社**：サンウエーブ工業(株)、(株)LIXIL トータル販売、旭トステム外装(株)、Gテリア(株)、(株)LIXIL 鈴木シャッター、ジャパンホームシールド(株)、(株)LIXIL トーヨーサッシ商事、(株)ダイナワン、(株)テムズ、(株)クワタ、サンウエーブキッチンテクノ(株)、大分トステム(株)、西九州トステム(株)、(株)LIXIL オンライン、トステムマネジメントシステムズ(株)、(株)LIXIL トータルサービス、LIXIL エナジー(株)、(株)LIXIL リニューアル、(株)LIXIL インフォメーションシステムズ、  
・**国内非連結子会社**：(株)LIXIL 物流  
・**海外連結子会社**：TOSTEM THAI Co., Ltd.、驪住通世泰建材(大連)有限公司、LIXIL AS Sanitary Manufacturing(Shanghai) Co., Ltd.、LIXIL AS Sanitary Manufacturing (Tianjin) Co., Ltd.、Jiangmen LIXIL AS Sanitary Fitting Manufacturing Co., Ltd.、HUA MEI SANITARY WARE Co., Ltd.、LIXIL INAX VIETNAM、LIXIL INAX DANANG Manufacturing Co., Ltd.、LIXIL INAX SAIGON Manufacturing Co., Ltd.、驪住海尔住建設施(青島)有限公司、驪住建材(蘇州)有限公司、驪住衛生潔具(蘇州)有限公司、その他、海外連結子会社 4 社、非連結子会社 1 社

#### 【調達および物流データについて】

■**調達**：(株)LIXIL グループ環境マネジメントシステムの傘下で製品を製造している拠点を算定範囲としています。製品に用いられる原材料、部品、包装資材の全てを算定対象としており、生産設備、オフィス消耗品は除外しています。(日本国内：43 拠点、海外：16 社)

■**物流**：(株)LIXIL 物流が省エネ法(特定荷主)として指定された範囲のみを算定範囲としています。((株)LIXIL 物流の 17 拠点)

#### 【新規統合会社について】

LIXIL グループ環境規程の中で、新規統合会社のデータ開示については、統合以前のデータ収集状況の分析および環境マネジメントシステム導入の準備期間を考慮し、統合後 3 年後からのデータ集計を行っていくことを定めています。そのため、Permasteelisa S.p.A.(ペルマスティリーザグループ)、ASD Americas Holding Corp.(アメリカン・スタンダード・プランズグループ)につきましては、2013 年度の集計対象範囲外としています。

【報告対象期間】2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

## マテリアルバランス( I N P U T )

### ■ 調達

使用量	2012 年度	2013 年度		
原材料	アルミ原料	157,875 t	148,882 t	
	その他金属	78,204 t	86,567 t	
	樹脂原料	32,231 t	39,765 t	
	木質原料	214,084 t	268,735 t	
	窯業原料	393,829 t	531,006 t	
	その他	11 t	8 t	
部品 ・ 部材	金属部品	100,815 t	117,407 t	
	樹脂部品	129,925 t	126,232 t	
	木質部品	103,503 t	102,051 t	
	窯業部品	236,986 t	262,207 t	
	梱包資材	14,789 t	17,692 t	
	その他	149,471 t	254,086 t	削減量
エネルギー消費量	38,095 千 GJ	37,983 千 GJ	112 千 GJ	0.3%減

※部品・部材の重量は購入金額からの換算値

※(株)LIXIL およびその海外連結子会社、(株)川島織物セルコン及びハイビック(株)の生産拠点を対象

### ■ 製造・販売

エネルギー使用量	2012 年度	2013 年度		
電気	953,977 千 kWh	969,360 千 kWh		
都市ガス	91,009 千 m <sup>3</sup>	100,084 千 m <sup>3</sup>		
LNG	14,318 t	16,645 t		
LPG	16,700 t	14,758 t		
灯油	6,741 kL	3,766 kL		
重油	14,045 kL	11,928 kL		
軽油	2,858 kL	2,528 kL		
ガソリン	8,434 kL	9,655 kL		
蒸気	161,757 GJ	167,590 GJ		
太陽光発電使用量*	8,080 千 kWh	26 千 kWh	削減量	前年比
エネルギー消費量	16,409 千 GJ	16,808 千 GJ	-400 千 GJ	2.4%増

\*自社工場敷地内の設備 (自家使用分)

取水量	2012 年度	2013 年度		
上水	1,103 千 m <sup>3</sup>	1,552 千 m <sup>3</sup>		
工業用水	8,589 千 m <sup>3</sup>	6,484 千 m <sup>3</sup>		
地下水	5,657 千 m <sup>3</sup>	5,040 千 m <sup>3</sup>	削減量	前年比
エネルギー消費量	20.4 千 GJ	19.0 千 GJ	1.3 千 GJ	6.6%減

※(株)LIXIL の本社の一部、支社及び営業系列の連結子会社、(株)LIXIL 住宅研究所、ハイビック(株)、(株)日本住宅保証検査機構、(株)クラシスを除く

取扱量	2012年度	2013年度	削減量	前年比
化学物質	6,669 t	6,681 t	-12 t	0.2%増

※(株)LIXIL 及び(株)LIXIL ビバを対象に集計

## ■物流

エネルギー使用量	2012年度	2013年度	削減量	前年比
原油換算	46,451 kL	52,631 kL		
エネルギー消費量	1,800 千GJ	2,040 千GJ	-240 千GJ	13.3%増

※(株)LIXIL 物流を対象に集計

## マテリアルバランス(OUTPUT)

### ■調達(スコープ3)

CO <sub>2</sub> 排出量		2012年度	2013年度	削減量	前年比
原材料	アルミ原料	961 千t-CO <sub>2</sub>	788 千t-CO <sub>2</sub>		
	その他金属	148 千t-CO <sub>2</sub>	162 千t-CO <sub>2</sub>		
	樹脂原料	78 千t-CO <sub>2</sub>	86 千t-CO <sub>2</sub>		
	木質原料	171 千t-CO <sub>2</sub>	214 千t-CO <sub>2</sub>		
	窯業原料	84 千t-CO <sub>2</sub>	97 千t-CO <sub>2</sub>		
	その他	0.2 千t-CO <sub>2</sub>	0.1 千t-CO <sub>2</sub>		
部品・部材	金属部品	499 千t-CO <sub>2</sub>	501 千t-CO <sub>2</sub>		
	樹脂部品	308 千t-CO <sub>2</sub>	302 千t-CO <sub>2</sub>		
	木質部品	87 千t-CO <sub>2</sub>	82 千t-CO <sub>2</sub>		
	窯業部品	48 千t-CO <sub>2</sub>	47 千t-CO <sub>2</sub>		
	梱包資材	33 千t-CO <sub>2</sub>	40 千t-CO <sub>2</sub>		
	その他	249 千t-CO <sub>2</sub>	329 千t-CO <sub>2</sub>		
合計		2,667 千t-CO <sub>2</sub>	2,648 千t-CO <sub>2</sub>	19 千t-CO <sub>2</sub>	0.7%減

※(株)LIXIL およびその海外連結子会社、(株)川島織物セルコン及びハイビック(株)の生産拠点を対象

### ■製造・販売(スコープ1,2)

CO <sub>2</sub> 排出量	2012年度	2013年度	削減量	前年比
電気	430 千t-CO <sub>2</sub>	439 千t-CO <sub>2</sub>		
都市ガス	193 千t-CO <sub>2</sub>	211 千t-CO <sub>2</sub>		
LNG	39 千t-CO <sub>2</sub>	45 千t-CO <sub>2</sub>		
LPG	50 千t-CO <sub>2</sub>	44 千t-CO <sub>2</sub>		
灯油	17 千t-CO <sub>2</sub>	9 千t-CO <sub>2</sub>		
重油	38 千t-CO <sub>2</sub>	32 千t-CO <sub>2</sub>		
軽油	7 千t-CO <sub>2</sub>	7 千t-CO <sub>2</sub>		
ガソリン	20 千t-CO <sub>2</sub>	22 千t-CO <sub>2</sub>		
蒸気	10 千t-CO <sub>2</sub>	10 千t-CO <sub>2</sub>		
合計	804 千t-CO <sub>2</sub>	820 千t-CO <sub>2</sub>		
コジェネレーションクレジット想定量補正*	-15 千t-CO <sub>2</sub>	-14 千t-CO <sub>2</sub>		
合計(補正後)	789 千t-CO <sub>2</sub>	806 千t-CO <sub>2</sub>	-17 千t-CO <sub>2</sub>	2.2%増

\*環境省自主参加型排出量取引制度実施ルール Ver.1 (2005.2.21)に基づく



廃棄物排出量	2012 年度		2013 年度			
リサイクル	88,985	t	109,574	t		
埋立	50,184	t	49,982	t	削減量	前年比
合計	139,169	t	159,556	t	-20,387 t	14.6%増

※(株)日本住宅保証検査機構、(株)クラシスを除く

排水量	2012 年度		2013 年度		削減量	前年比
排水	14,456	千m <sup>3</sup>	10,851	千m <sup>3</sup>	3,604 千m <sup>3</sup>	24.9%減

※(株)LIXIL の本社の一部、支社及び営業系列の連結子会社、(株)LIXIL 住宅研究所、ハイビック(株)、(株)日本住宅保証検査機構、(株)クラシスを除く

排出移動量	2012 年度		2013 年度		削減量	前年比
化学物質	377	t	348	t	30 t	7.9%減

※(株)LIXIL 及び(株)LIXIL ビバを対象に集計

### ■物流(スコープ3)

CO <sub>2</sub> 排出量	2012 年度		2013 年度		削減量	前年比
燃料(原油換算)	123	千 t-CO <sub>2</sub>	140	千 t-CO <sub>2</sub>	-16 千 t-CO <sub>2</sub>	13.3%増

※(株)LIXIL 物流を対象に集計

#### [ エネルギー消費総量の算定方法 ]

- ・エネルギー消費量(調達)※1 = (原材料購入量)×(エネルギー換算係数※2) + (部品・部材購入金額)×(エネルギー換算係数※3)
- ・エネルギー消費量(製造・販売)※4 = (電気・燃料使用量、取水量)×(エネルギー換算係数※5)
- ・エネルギー消費量(廃棄) = (製品を廃棄するときの埋立て・焼却量)×(エネルギー換算係数※2)
- ・エネルギー消費量(輸送) = (輸送重量) × (輸送距離)×(エネルギー換算係数※6)

※1 原材料エネルギー消費量には、鉱山等での採掘・選別と工場等での調合・精錬にて素材へ加工し、日本へ輸送するまでを含む  
部品・部材のエネルギー消費量には、原材料の採掘から精錬や加工、日本への輸送に加えて、日本国内での組立て、加工も含む

※2 (社)産業環境管理協会「カーボンフットプリントデータベース ver.1」より算出した換算係数

※3 (社)日本建築学会「LCA データベース(2005 年産業関連表データ版)」

※4 製造・販売時のエネルギー消費量は製造・販売時の廃棄物処理量にエネルギー換算係数 (※2) を乗じて算出したエネルギーを含む

※5 [電気・燃料] 省エネ法「エネルギー種別の単位発熱量」2010 年度版

[水] (社)産業環境管理協会「カーボンフットプリントデータベース ver.1」より算出した換算係数

※6 省エネ法 (荷主に係る措置)における「改良トンキロ法の燃料使用原単位、単位発熱量」より算出した換算係数

#### [ CO<sub>2</sub> 排出量の算出に用いた CO<sub>2</sub> 換算係数 ]

- ・購入電力 : (日本)0.378、(中国)0.764、(韓国)0.489、(タイ)0.567、(ベトナム)0.427、(インドネシア)0.653 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh)、
- ・天然ガス : 2.108 (kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>)、LPG : 3.002 (kg-CO<sub>2</sub>/kg)、灯油 : 2.492 (kg-CO<sub>2</sub>/L)、重油 : 2.71 (kg-CO<sub>2</sub>/L)、
- ・軽油 : 2.624 (kg-CO<sub>2</sub>/L)、ガソリン : 2.322(kg-CO<sub>2</sub>/L)、購入蒸気 : 0.06(kg-CO<sub>2</sub>/MJ)
- ・出典 : 事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン 2005 年度版 (環境省)  
: GHG-emissions-from-purchased-electricity (Version-4\_4\_Aug-2012)

## 製品・サービス

### 環境配慮設計

#### 環境配慮設計への取り組み

# Design for Environment

Design for Environment (DfE) とは、環境に配慮した設計をすること。  
それは、商品の一生を見据えて  
環境負荷を可能な限り低減していくことをめざすモノづくりです。

LIXIL は、商品企画の段階から独自評価により、環境法令を順守し、  
より高い環境性能を備えたエコ商品の開発を進めています。

#### 環境配慮設計(DfE)の考え方



LIXIL では、商品開発において、環境配慮設計(DfE)の考え方に基づく独自の環境配慮設計評価を実施しています。これは、環境に関わる法令の順守に加え、「つくる」、「つかう」、「もどす」の3つのステージで商品进行评估し、商品が環境に与える負荷を可能な限り低減していくことを目的としています。高い環境性能を有する商品は「LIXIL エコ商品」と位置づけられ、カタログや公式ホームページで「エコ訴求マーク」を表示して、その特長をお客さまに訴求していきます。「商品企画」では、開発商品が目指す環境目標を設定し、「設計・試作」では、目標に対する達成度を評価します。「最終確認」では、環境情報の訴求内容等について最終確認を行います。評価内容は定期的に見直し、より高いレベルでの環境配慮設計の実現をめざします。

\* [LIXIL のエコ商品はこちら](#)



## エコ訴求マーク

環境配慮設計評価の公的基準および自社基準を満たす商品には、「エコ訴求マーク」を表示しています。

### 公的基準適合マーク

法律や事業者団体による基準、第三者認証を満たす商品に表記するマークです。

### 主な公的基準マーク

	<p>グリーン購入法で定められた特定調達品目の判断の基準を満たす商品です。</p>		<p>(社)日本建材・住宅設備産業協会が定めた、「調湿建材判定基準」を満たす商品です。</p>
	<p>省エネ法のトップランナー基準による省エネ性能を示すもので、省エネ基準達成率 100%以上の商品は緑色、100%未満の商品はオレンジ色のマークを、省エネ基準達成率、年間消費電力量とともに表示しています。</p>		<p>国際標準化機構が定めた ISO22196 法により評価された結果に基づき、抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開された商品です。</p>
	<p>建築基準法(シックハウス対策)が定めたホルムアルデヒド放散速度に関する基準の最高等級区分を満たす商品です。</p>		<p>(財)日本環境協会が定めた、日常生活に伴う環境への負荷の低減等を通じて環境保全に役立つという基準を満たす商品です。</p>
	<p>「建材からの VOC 放散速度基準化研究会」が定めた、4VOC(トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン)の放散速度基準を満たす商品です。</p>		<p>省エネ法の「住宅・建築物の省エネ基準」に定められた、節湯水栓の定義を満たす商品です。</p>
	<p>「建材からの VOC 放散速度基準化研究会」が定めた、4VOC(トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン)の放散速度基準への適合を制度化した住宅部品 VOC 表示ガイドラインを満たす商品です。</p>		<p>省エネ法の「住宅事業建築主の判断の基準」における、節湯水栓の定義を満たす商品です。</p>












## 自社基準適合マーク

自社が定めた商品の一生の「つくる」「つかう」「もどす」の段階で、環境への負荷を低減する評価基準を満たす商品に表記するマークです。

### つくる

	自社が定めた、再生材原料の使用量基準を満たす商品です。		自社が定めた、施工法見直しや施工材料削減などの省施工基準を満たす商品です。
	自社が定めた、認証材や植林木などの環境に配慮した木材の使用基準を満たす商品です。		自社が定めた、施工法見直しや包装材改良などの施工時の廃材削減基準を満たす商品です。
	自社が定めた、製造法や原材料見直し、軽量化などの原材料使用量削減基準を満たす商品です。		

### つかう

	自社が定めた、ホルムアルデヒド等の有害な VOC(揮発性有機化学物質)の放散による濃度基準を満たす商品です。		自社が定めた、冬季の採光、夏季の遮光を調整できるなどの採光基準を満たす商品です。
	自社が定めた、使用時の省エネ基準を満たす商品です。		自社が定めた、侵入・プライバシーに配慮しながら、効率的な通風ができるなどの採風基準を満たす商品です。
	自社が定めた、使用時の節水基準を満たす商品です。		自社が定めた、エネルギーゼロで快適性や利便性を高めているという機能、素材のゼロエネ基準を満たす商品です。
	自社が定めた、住宅の断熱性能を高め暖冷房エネルギーの削減に貢献するなどの断熱基準を満たす商品です。		自社が定めた、使うたびにエネルギーを造り活用しているという創エネ基準を満たす商品です。
	自社が定めた、熱線吸収や熱線遮断などの遮熱基準を満たす商品です。		自社が定めた、洗浄水や洗剤使用量を節約し、きれいな状態で長く使用できるなどの防汚基準を満たす商品です。
	自社が定めた、陽射しを遮ることで室内への日射侵入率を下げるなどの日射遮蔽基準を満たす商品です。		

### もどす

	自社が定めた、資源をリサイクルするために分解・分別を容易にするなどのリサイクル設計基準を満たす商品です。		自社が定めた、部品部材をリユースし資源廃棄を無くすというリユース可能基準を満たす商品です。
---	--	---	---

## 法令・制度について

商品の環境に関わる法令・制度に関する情報は、下記をご参照下さい。





\* [公的優遇制度のご案内についてはこちら](#) \* [法令・制度関連のデータについてはこちら\(LIXIL ビジネス情報\)](#)

## エコ商品データベース

### 対応商品一覧

環境配慮設計の基準を満たすエコ商品について、公的基準・自社基準への適合情報等を一覧で掲載しています。

\* [エコ訴求マークについてはこちら](#)

<p><b>窓・シャッター</b> <a href="#">サーモスX</a></p>  <p>断熱</p> <p>アルミと樹脂のハイブリッド構造で、従来品樹脂同等の断熱性能を実現しました。</p> <p>エコ基準適合情報</p> <p><a href="#">窓・シャッター</a> <a href="#">ビル・店装・カーテンウォール</a></p>	<p><b>玄関ドア・引き戸</b> <a href="#">グランデル</a></p>  <p>再生材使用 省エネ CAZAS+ 断熱</p> <p>寒冷地にも対応する k1.5 仕様という優れた断熱性能で、玄関からの熱の流出を抑えます。</p> <p>エコ基準適合情報</p> <p><a href="#">玄関ドア・引戸</a></p>
<p><b>インテリア</b> <a href="#">ウッディーライン</a></p>  <p>F☆☆☆☆ 4VOC基準適合(木質建材)</p> <p>F☆☆☆☆や 4VOC の基準に適合する木質材料を使用しています。</p> <p>エコ基準適合情報</p> <p><a href="#">インテリア建材</a></p>	<p><b>エクステリア</b> <a href="#">カーポート&lt;アーキフィールド&gt;</a></p>  <p>省エネ LED 遮熱 熱線吸収・熱線遮断屋根材 防汚 アクアシャイン</p> <p>熱線を吸収・遮断したり、汚れをつきにくくするなど目的に合った屋根材を選べます。</p> <p>エコ基準適合情報</p> <p><a href="#">エクステリア</a></p>

**タイル** エコカラット<グラナス ヴィスト>



家の中の空気を吸って吐いて、季節を問わず快適な湿度を保ち、気になるニオイや有害な物質も低減します。

エコ基準適合情報 [タイル](#)

エコ効果 [タイル](#)

**キッチン** キッチン<リシェル エスアイ>



水栓は手元止水，小流量吐水，水優先吐水により、無意識に使うお湯を削減します。

エコ基準適合情報 [システムキッチン](#)

エコ効果 [システムキッチン](#)

**浴室** ユニットバスルーム<スパージュ>



手元スイッチ付きのエコフルシャワーは、小流量で心地よく、大幅な節湯効果を実現します。

エコ基準適合情報 [ユニットバスルーム](#)

エコ効果 [ユニットバスルーム](#)

**洗面化粧室** 洗面化粧室 <ルミス>



ミラーキャビネットは、くもり止めコート搭載により、エネルギーゼロでくもりを軽減します。

エコ基準適合情報 [洗面化粧室](#)

エコ効果 [洗面化粧室](#)

**トイレ** シャワートイレ<サティス G タイプ>



大洗浄 4L、小洗浄 3.3Lの超節水を実現、グリーン購入法に適合します。

エコ基準適合情報

[住宅用トイレ](#) [パブリックトイレ](#) [トイレ手洗](#)

エコ効果 [住宅用トイレ](#) [パブリックトイレ](#)

**水栓金具** 洗面用水栓 <キュービ>



無駄な給湯を防ぐ「エコハンドル」と、優しい洗い心地の「節水泡沫」で、節湯節水を実現します。

エコ基準適合情報 [水栓金具](#) [アクセサリ](#)

エコ効果 [水栓金具](#)

## 高性能住宅工法 断熱改修工法 <ココエコ>



既存の窓・壁・床を壊さずに、上から内窓や断熱パネルを取付けるだけで、一部屋から断熱性を高めることができます。

エコ基準適合情報 [高性能住宅工法](#)

## 特定施設向け機器 オストメイトバック



流しは、国際規格に準拠した SIAA 抗菌。銀イオンパワーで細菌の繁殖を抑えます。

エコ基準適合情報 [特定施設向け機器](#)

## エコ効果算出根拠

試算条件 \* [商品のエコ効果試算条件](#)

### 水道、電気、ガス料金 m<sup>3</sup>

2014年7月調べによる日本国内の代表情報に基づき算出しています。地域、時期、契約条件等により異なります。

項目	料金単価	出所	備考
上下水道 料金	住宅向け	265 円/m <sup>3</sup> (税込)	東京都水道局
	パブリック向け	700 円/m <sup>3</sup> (税込)	東京都水道局
電気料金	住宅向け	27 円/kWh(税込)	新電力料金目安単価
	パブリック向け	13 円/kWh(税込)	資源エネルギー庁 (特別高圧)
都市ガス 料金	住宅向け	181 円/m <sup>3</sup> (税込)	東京ガス
	パブリック向け	121 円/m <sup>3</sup> (税込)	東京ガス
LP ガス料金	665 円/m <sup>3</sup> (税込)	日本 LP ガス協会	小売業者⇒最終消費者 小売価格
灯油料金	112 円/L(税込)	石油情報センター	全国平均灯油(配達)小売価格

※消費税率 8%

### CO<sub>2</sub> 排出係数

項目	排出係数	単位	出典
電気	0.43	kgCO <sub>2</sub> /kWh	経済産業省、全電源排出係数平均値
都市ガス	2.23	kgCO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	地球温暖化対策の推進に関する法律
LP ガス	5.98	kgCO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	地球温暖化対策の推進に関する法律、日本 LP ガス協会
灯油	2.49	kgCO <sub>2</sub> /L	地球温暖化対策の推進に関する法律
水道	0.23	kgCO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	産業連関表より推計(上水のみ)

### 商品の CO<sub>2</sub> 削減効果

省エネ・節水などの環境負荷低減機能により使用時の CO<sub>2</sub> 排出量を削減できる最新の LIXIL 製品と、1990 年頃の一般的だった製品とを比較して削減できる年間 CO<sub>2</sub> 量を表示しています。



## お客さまへの提案

### 新しいサービス「住まい方のソリューション」の開始

快適性評価指標のひとつである PMV※1 を活用し、建築予定の設計図面、立地条件などの情報をもとに、夏を省エネで快適に過ごすための最適な窓サイズ・種類・配置を提案する新しいサービス「通風・創風※2 設計サポート」を、全国のビルダー様向けにスタートしました。自然の恵み「風」を活かしてエネルギーを節約する、快適な住まい方を提案しています。このサービスは省エネ効果や画期的な取り組みが評価され、「第9回エコプロダクツ大賞」(主催：エコプロダクツ大賞推進協議会)において、最高賞のひとつである「環境大臣賞」(エコサービス部門)を受賞しました。

\* [「通風・創風設計サポート」についての詳細はこちら](#)

※1 PMV(Predicted Mean Vote/予測温冷感申告)：快適性を評価する指標。温熱環境に関する6要素(空気温度、相対湿度、平均放射温度、平均風速、代謝量、着衣量)の組み合わせで求めることができます。

※2 創風：温度差換気を意味する(株)LIXIL の造語。暖かい空気が自然に上昇する性質を利用して空気の流れを創ります。風がないときでも外部の涼しい空気を取り込むことで快適な暮らしが期待できます。

### 省エネ・節水シミュレーションツールの充実

窓や玄関ドア、水回りを最新機種にすることで、光熱費やCO<sub>2</sub>の削減量を簡単にシミュレーションできるWebアプリ「住まいの省エネ・節水シミュレーター」を公開しました。ホームページで公開することで、すべてのお客さまにご利用いただけるとともに、タブレット端末を用いてショールームでの接客や営業提案にも活用しています。

\* [「住まいの省エネ・節水シミュレーター」はこちら](#)



### 一歩先を行く省エネ住宅の考え方“パッシブファースト”の提案

ビルダー様などのプロユ―ザ―様向けの「自然をかしこく生かす、パッシブファースト」と、一般のお施主様向けの「ムリなくムダなく一歩先行く暮らしのご提案」の、2種類のエコ住宅の提案冊子を発行しました。この2冊子は、当社の提唱する「自然の力を上手に使い、快適に生活する」新しいエコ住宅の概念“パッシブファースト”をテーマにしており、2013年10月に施行された「平成25年住宅・建築物の省エネルギー基準」に対応しています。



[PASSIVE FIRST](#)



[一歩先行く暮らしのご提案](#)

\* [「パッシブファースト」についてのニュースリリースはこちら](#)



## 事業活動

### 地球温暖化防止

CO<sub>2</sub> 排出量の削減をはじめ、調達から製造、廃棄に至るまでのあらゆるプロセスでの改善に全社的に取り組んでいます。

#### 工場における太陽光発電システム

工場の遊休地を利用した太陽光発電施設を、有明工場(熊本県玉名郡長洲町)と岩井工場(茨城県坂東市)に建設しました。それぞれ 500kW の大型パワーコンディショナを導入し、3.75MW を発電しています。発電した電気は 2013 年 3 月より電力会社に売電する全量買取の運転としています。また、須賀川工場(写真右：福島県須賀川市)では、東北地方では初となる太陽光発電施設「LIXIL 須賀川 SOLAR POWER」を工場敷



地内に建設し、2014 年 5 月より本格的な稼働を開始しました。最大で 6.35MW の発電を行い、想定年間発電量は約 7.800MWh/年(一般家庭 1 年間の約 1,400 世帯分)となります。発電した電力の全量は東北電力に売電しています。

\* [「太陽光発電システム」についてのニュースリリースはこちら](#)

#### エネルギーの有効活用

大連工場では、工場内で多く発生する木屑を燃料としてボイラーで蒸気を発生させ、余剰蒸気でお湯を沸かし、工場内で活用するだけでなく、生産工程・プール・シャワーのお湯などの用途として近隣業者に販売することで、余剰エネルギーの有効活用を行っています。一方で、粉体状の木屑は顆粒燃料に加工し、廃棄物の削減にも取り組んでいます。また、こうした日本国内や海外の LIXIL 工場の環境活動(省エネルギー・廃棄物削減など)の成果は、社内で開催されるエコファクトリー成果発表大会で生産本部の経営層に報告され、今後の環境改善活動のさらなる質の向上、水平展開に繋がっています。

#### 環境配慮の店舗・ショールームづくり

新設のショールームを中心に、全窓ペアガラス仕様や最新型節水トイレや高効率空調、太陽光パネル(屋外・屋上)を設置、また、ベース・スポットの LED 化や、トイレなどの照明に人感センサーを導入しています。また、スーパービバホームでも環境に配慮したエコストアを展開しています。ミスト空調システム、無水小便器、超節水トイレ、電気に頼らないガス式空調機、電力のデマンド監視装置の採用をはじめ、太陽光パネルや風力発電、LED 照明を採用するなど、さらに環境に配慮した店舗づくりを行っています。



▲ショールームの LED 照明



▲スーパービバホームの太陽光パネルと風力発電

\* [「環境配慮型ショールーム」についてのニュースリリースはこちら](#)

\* [「スーパービバホーム エコストア」についてのニュースリリースはこちら](#)

### 2013 年度の夏の節電対策

全事業所に、冷房 28℃設定（一部ショールームなどは対象外）や照明 50%間引き、工場などでは夜間シフトへの切り替えや自家発電機の導入など、徹底した節電活動を実施しています。また、毎年 5 月頃から「LIXIL 緑のカーテンプロジェクト」として全国の事業所に緑のカーテンづくりを呼びかけています。LIXIL グループとして、2013 年度は 60 拠点近くの事業所が参加し、社内コンテストも実施しています。



▲筑波工場 給水用非常用発電機



▲深谷工場（左）と厚木ショールーム（右）の緑のカーテン（2013 年度 社内コンテスト大賞）

## 資源循環

生産工程で発生する産業廃棄物については 3R を基本とする分別回収を徹底しています。再資源化の推進や、開発部門が主体となった、製造段階での廃棄物の削減に取り組んでいます。今後は、原材料の調達や製品の廃棄段階において、グローバルな規模での資源循環を追求していきます。

### 廃棄物リサイクル量と埋立量

	2012 年度	2013 年度
リサイクル	88,985t	109,574t
埋立	50,184t	49,982t
合計	139,169t	159,556t

### 廃棄物リサイクル率

	2012 年度	2013 年度
削減量(前年比)	7,573t (5.2%減)	20.387t (14.6%増)
リサイクル率※	77.3% (LIXIL 国内工場のみ : 98.9%)	80.6% (LIXIL 国内工場のみ : 98.5%)

※2012 年度から集計対象組織が 10 社（日本国内 8 社、海外 2 社）増加しています。

※リサイクル率は、廃棄物等排出量のうち、有価物を含めた再資源化量の割合としています。

\* [集計対象・範囲について](#)

### リサイクルアルミ材の活用

LIXIL グループの事業で最もエネルギーを消費しているのは、サッシなどに使用するアルミ部材の製造工程です。エネルギー消費量の削減は徹底して進めていますが、リサイクルによる資源循環によって原材料の調達に伴うエネルギー消費量の削減にも取り組んでいます。LIXIL では、住宅の解体などに伴って排出される廃サッシをはじめとしたリサイクルアルミ材を積極的に原料として活用し、さらにアルミスクラップ材を迅速に、精度よく合金種別を選別することにより、リサイクルの促進を目指しています。



▲アルミのリサイクル材



▲アルミ溶解炉への原料投入



▲生産工場のアルミ溶解炉

## LIXIL エコセンター

住宅リフォーム廃材を収集、再資源化する事業を、2007年に愛知県常滑市でスタートさせ、2011年に茨城県つくば市、2013年に宮城県仙台市と、全国3拠点に拡大し展開しています。愛知県・三重県・岐阜県・茨城県・東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・栃木県・群馬県・宮城県・岩手県において産業廃棄物収集運搬業の許可を取得し、近郊の住宅リフォーム店に協力を働きかけながら、シャワートイレや水栓金具など住宅設備機器のみならず、窓サッシ・ドア・カーポートなどの再資源化を進めています。

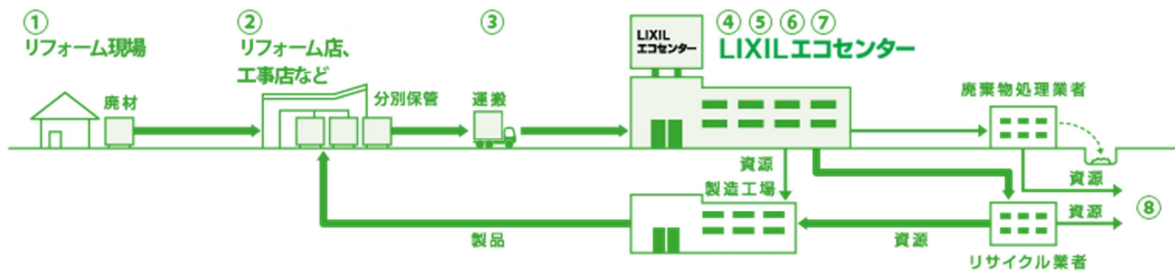
### LIXIL エコセンター誕生の背景

近年、住宅の新築やリフォーム工事から発生する廃材をリサイクルする試みが進んでいます。しかし、廃棄された住宅設備機器類はガラスや廃プラスチック、木くずなどが複合しており、分解や分別が難しいため、埋立て処分や熱エネルギーを回収するサーマルリサイクルに回されることが多く、廃材を資源として再生するマテリアルリサイクルの取り組みは遅れていました。この課題の解決に向け、住宅リフォーム廃材を有償で集め再資源化するための事業認可を、住宅設備メーカーで初めて取得しました。2007年5月「INAX エコセンター 常滑（現 LIXIL エコセンター常滑）」として産業廃棄物処理業を愛知県下でスタートさせ、さらに、2011年1月には「LIXIL エコセンター 茨城」、2012年12月には「LIXIL エコセンター 仙台」を開設し、循環型社会の構築に向けた取り組みを加速させています。

### LIXIL エコセンターの役割

新築やリフォーム工事などで発生した使用済み製品などの廃材を有償で収集し、「LIXIL エコセンター」へ運搬します。ここでは、水回り製品や窓サッシなど住宅設備機器・建材メーカーとしての蓄積されたノウハウを活かし、集められたさまざまな廃材を経験豊富な職人の手作業により、徹底的に手分解・手分別します。「LIXIL エコセンター」は、サーマルリサイクルや埋め立て処分ではなく、手作業により、資源として再生するマテリアルリサイクルにこだわっています。

### LIXIL エコセンターでの住宅リフォーム廃材の流れ



<p><b>① リフォーム工事現場</b> 住宅のリフォーム工事現場では、たくさんの廃材が発生します。</p>	<p><b>② リフォーム廃材</b> リフォーム廃材は、保管場所で種別ごとに廃材収集缶に分別されます。</p>	<p><b>③ 収集</b> 粗分別された廃材は、収集缶ごとにエコセンターへ運搬されます。</p>	<p><b>④ 粗分別</b> 収集された廃材は、分別基準に従い、さらに分別されます。</p>
<p><b>⑤ 分解</b> 従来、分解が難しかった水まわり機器も、徹底的に手分解されます。</p>	<p><b>⑥ 分別</b> 手分解され、マテリアルごとに細かく分別されます。</p>	<p><b>⑦ 減容</b> 樹脂・木・陶磁器廃材は、処理・運搬しやすいように破砕機で減容されます。</p>	<p><b>⑧ 資源の再生、再利用</b> 新たな資源として、社会に還元されます。</p>

## LIXIL エコセンターの沿革

2005年4月	リフォーム廃材リサイクルシステムの構築と事業化に向けた取り組みを開始
2006年6月	試験施設にて、リフォーム廃材リサイクル事業の実証試験を開始
2007年4月	試験施設から、旧常滑工場の一画へ場所移転
2007年5月	「INAX エコセンター 常滑」開設。社外リフォーム廃材収集を本格的に開始
2007年9月	愛知県循環型社会形成推進事業（先導的リサイクル関係施設整備事業）に採択
2008年2月	廃プラスチック類の破碎施設を導入
2008年3月	住宅リフォーム廃材リサイクル事業が「エコタウン事業」に認定
2008年7月	愛知県から「産業廃棄物処分業」の許可を取得
2011年1月	「INAX エコセンター 茨城」開設
2011年6月	茨城県から「産業廃棄物処分業」の認可を取得。「INAX エコセンター茨城」開業
2011年12月	INAX エコセンター常滑「産業廃棄物処分業」に中間処分（選別）を追加
2012年4月	「INAX エコセンター」から「LIXIL エコセンター」へ名称変更
2012年12月	「LIXIL エコセンター仙台」開設。宮城県仙台市から「産業廃棄物処分業」の許可を取得 宮城県から「産業廃棄物収集運搬業」の許可を取得
2013年1月	「LIXIL エコセンター仙台」開業
2013年8月	岐阜県から「産業廃棄物収集運搬業」の許可を取得
2013年12月	LIXIL エコセンター常滑「産業廃棄物処分業」に中間処分（圧縮）を追加
2013年10月	茨城県、群馬県、千葉県、栃木県から「産業廃棄物収集運搬業」の許可を取得
2013年11月	東京都、埼玉県、神奈川県から「産業廃棄物収集運搬業」の許可を取得
2014年2月	岩手県から「産業廃棄物収集運搬業」の許可を取得

## 汚染防止

工場周辺の土壌への影響や、排水による河川などへの影響については、「土壌汚染対策法」などの環境法令に基づいた管理・調査を徹底して行っています。2013年度は、法令違反は0件でした。

## 土壌汚染防止

LIXIL 統合前の旧各社より継続して「土壌汚染対策法」に基づく自主的な管理を徹底して行っています。土壌汚染対策法の改正に伴い、3,000m<sup>2</sup>以上の土地の造成を伴う改築や新築を実施する事業所において法対応を実施し、その結果2013年度は土壌汚染は0件でした。

## 水使用削減と水質保全

工場では、アルミ製品の表面処理などに大量の水を使用しています。水の使用量を削減するために、工場ごとの水使用状況（取水量、工程別の使用量、水循環システムの導入状況）の詳細調査を行い、水循環システムの構築や節水対策などにより、水使用の効率化を推進しています。また、排水管理を徹底し自然環境へ与える影響を最小限にする取り組みも進めています。

## 生産活動での水使用量

取水	2012 年度	2013 年度
上水	996 千 m <sup>2</sup>	1,056 千 m <sup>2</sup>
工業用水	8,544 千 m <sup>2</sup>	6,391 千 m <sup>2</sup>
地下水	5,645 千 m <sup>2</sup>	5,033 千 m <sup>2</sup>
エネルギー消費量合計 (千 GJ)	19.8 千 GJ	16.4 千 GJ
エネルギー消費量合計前年比 (千 GJ)	—	-3.4 千 GJ (17.2%減)

※営業、店舗、海外 2 社除く

\* [集計対象・範囲について](#)

## 主要水系一覧

		地域	主要水系
国内		北海道	石狩川
		東北	最上川・阿武隈川
		関東	利根川・鶴見川・荒川
		中部	木曽川・矢作川・小矢部川・庄川
		近畿	淀川・大和川・雲出川
		中国	吉井川
		九州	筑後川
海外	中国	華北	碧流川・海河
		華中	長江・太湖・ワイ河
		華南	珠江
	ベトナム	紅河・ハン川・メコン川	
	タイ	チャオプラヤー川	

# コンプライアンス

# コンプライアンス

## 基本的な考え方と推進体制

LIXIL グループでは「コンプライアンス」という言葉の意味を、法令や社内規程、社会ルールの遵守という意味だけでなく、「相手の立場に立つ」という倫理面も含めた行動と考えています。そのような意味でのコンプライアンスを徹底・実践するために、すべての従業員が守るべき「グループ行動指針」を制定し、浸透に取り組んでいます。また、コンプライアンスの周知・徹底を図ることを目的にコンプライアンス委員会をグループ内に設置し、グループ各社のコンプライアンス体制の構築・運営管理の指導や法令遵守などの実施状況のモニタリング等を実施しています。

## コンプライアンス教育

LIXIL グループでは、従業員一人ひとりのコンプライアンスへの理解を高めるため、グループ行動指針を用いた教育を実施しています。具体的には、A4版と手帳サイズ版の2種類のグループ行動指針冊子を全従業員に配布し、身近な場所に置くこととしているほか、毎年10月に各職場でグループ行動指針の読みあわせを実施し、全従業員がグループ行動指針を遵守する旨を誓約することで、内容の周知徹底を図っています。そのほか、日々の業務において、直面する事態に対する正しい行動を示したケーススタディを作成し、イントラネット上で共有しています。

## 内部通報制度

LIXIL グループでは、コンプライアンス違反に関する情報を収集し、不正・違反行為の未然防止や早期対処を図ることを目的に、内部通報制度を設けています。イントラネット上から経営者に直接通報ができるシステムを構築しているほか、社外弁護士を窓口とした通報体制も運用しています。いずれの通報ルートでも通報者のプライバシーを厳守するとともに、通報者が不利益な扱いを受けることのないよう、適正に対応しています。

## 取引先様（「資材購入先」「業務委託先」様）からのコンプライアンス情報の受付

LIXIL グループでは、企業活動を通して、広く社会に信頼される有用な企業でありたいと思っています。そのために、取引先様（「資材購入先」「業務委託先」様）から LIXIL グループのコンプライアンス違反に関する情報提供を受け付けています。窓口を社外の法律事務所に設け、情報提供いただくことで、適正な対処等を行い、更なる違反防止に努めています。

\* [情報提供はこちらから](#)



## 知的財産活動

### 知的財産活動の基本的な考え方

LIXIL グループでは、グループ各社の行動規範を示すグループ企業行動憲章において「知的財産を適切に保護・活用し、他社の知的財産権を尊重」するよう定めており、そのうえで LIXIL では知的財産管理規定を制定しています。同規程の目的は「社業の発展と業績の向上に寄与するとともに会社内における創造的業務活動を促進し、また、第三者の知的財産権を侵害することを未然に防止する」としており、LIXIL におけるすべての知的財産活動の基本となっています。

### 知的財産活動の体制

LIXIL では、本社管理部門に「知的財産部門」を設置するとともに、各戦略的ビジネスユニットと研究部門にも知的財産権の保護の担当組織（担当者）を設置し、年に 2 回度の定例会や日々の業務の中で知的財産部門と連携を取りながら全社の知的財産活動に取り組んでいます。

### 知的財産権利化の推進

LIXIL では、開発部門から生まれた発明については、先行技術があるか否かを調査し、さらに事業上、特許出願する価値があるか否かを判断しており、「特許出願に関する社内ルール」として定めています。このルール運用を徹底させることにより、質の高い知的財産の権利化を進めています。

### 第三者の知的財産権侵害防止

事業を進めていくうえで、第三者の知的財産権を侵害してしまうと、第三者より製品の販売差止めや損害賠償請求をされてしまう訴訟リスクが発生してしまいます。LIXIL では、このようなリスクを未然に防止するため、事業開始にあたっては、第三者の知的財産権を調査・点検するための社内ルールを定めており、その運用を徹底しております。

### 知的財産保護に関する教育

上記「知的財産権利化の推進」と「第三者の知的財産権侵害防止」の知的財産にかかわる活動を適切に進めていくうえで、ルールの運用徹底だけでなく、知的財産にかかわる関係者の知的財産知識・スキルを向上させるための教育にも積極的に取り組んでいます。主に開発者・研究者向けには「特許」「意匠」、商品企画担当者には「商標」に関するカリキュラムを実施し、また新入社員向けの教育も実施しています。

# リスクマネジメント

## LIXIL グループの推進体制

LIXIL グループでは経営目標達成を阻害する一切の不確実性をリスクと捉え、グループ各社でリスクマネジメント体制を構築しています。推進体制はLIXIL グループ代表執行役社長を議長とするLIXIL グループリスクマネジメント会議を最高決議機関とし、グループ各社も同様の体制としています。グループ全社のリスクを一元的に管理するため、LIXIL グループ本社に主管部門を設置するとともに、各社においてもリスクマネジメント事務局を設置しています。重大リスクが発生した場合はLIXIL グループリスクマネジメント会議にて対応を指示する体制としています。

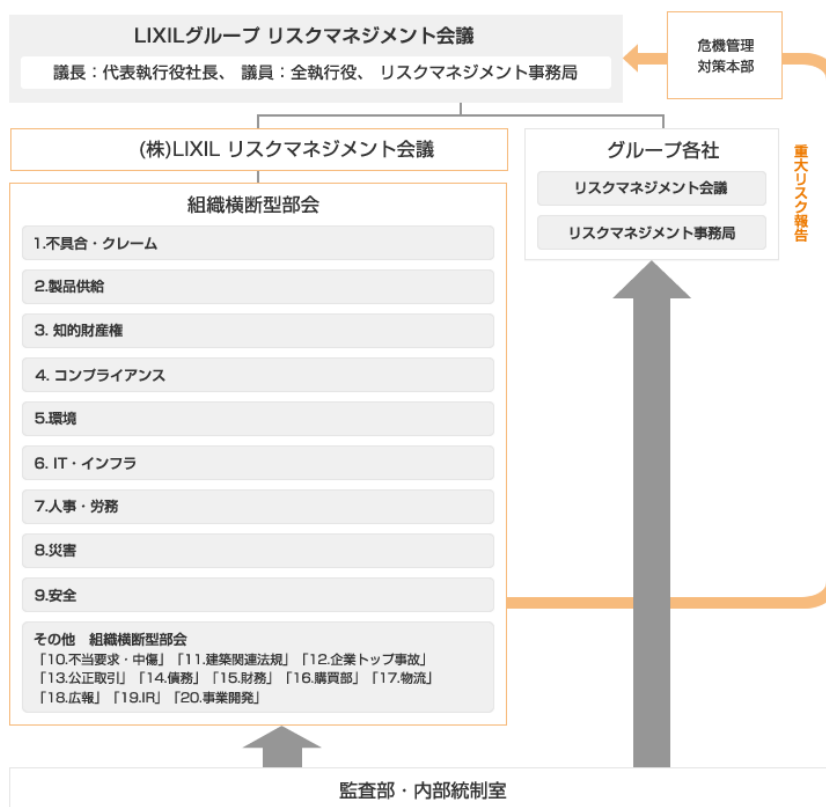
## LIXIL の推進体制

LIXIL では本社に主管部門を設置するとともにリスクを区別し、20のリスクマネジメント部会を組織化して管理しています。活動は年度単位でリスクを抽出し、アセスメント（影響度、頻度、予防・事後対策の脆弱性の評価）、目標設定、対策立案、及び実施スケジュールの策定を行い、対策実施、評価、およびフィードバックをPDCAマネジメントとして四半期単位で実践しています。

## 事業継続計画

東日本大震災・タイ洪水および雪害の被災などの自然災害発生リスクの高まりを踏まえ、事業継続計画の策定・整備をグループ全社において継続して推進しています。

## リスクマネジメント推進体制図



\* 参照：LIXIL グループ アニュアルレポート「経営成績と財政状態のレビュー及び分析／事業等のリスク」

## 情報セキュリティ

LIXIL グループでは、リスクマネジメントの一環として情報資産の保護を特に重要視しており、「情報セキュリティ管理規程」を定めて、情報の適切な管理を推進しています。なお、情報システム関連の管理やマネジメントの機能は、IT 推進本部及びグループ会社である株式会社 LIXIL インフォメーションシステムズ（以下、LIS）に集約されています。

### マネジメント体制

多様な事業・カンパニーを有する LIXIL グループでは、情報管理で想定される情報セキュリティの課題に対して、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）を元にしたチェックシートによる自己点検を実施し、改善活動を進めているほか、IT 推進本部・LIS が監査を行うなどのマネジメント体制を構築しています。また、万が一、問題が発生した場合には、IT 推進本部・LIS やリスクマネジメント部、各グループ会社の総務・法務部門が連携を図って被害を最小限にとどめるとともに、問題の原因を突き止めたうえで全社を点検し、同様の問題が起きないように改善につなげています。

### 情報セキュリティの取り組み

情報資産保護のために、ネットワークへのセキュリティ対策やウイルス対策ソフトの自動更新などの技術的対策を行っています。また、営業担当者に配布され、予め持ち歩きを想定している iPad からの情報流出防止のため、端末内のデータをリモートで消去できるシステムを整えるなど、万が一の事態への対策も行っています。さらに、従業員への情報管理ルールを徹底するため、全従業員に対して年に一度 e ラーニングシステムでの教育受講と情報セキュリティ誓約の実施を義務付けています。2013 年度は対象者に対し、100%実施しています。

### 個人情報保護

個人情報の保護は LIXIL グループにとって重要な責務であると考え、個人情報の保護に関する考え方や方針を「個人情報保護方針」としてホームページ上で公開しています。この方針及び社内規程を遵守することで、個人情報を安全かつ適正に取り扱うよう、全従業員に徹底しています。また、LIS では事業会社や取引先様に安心したサービスをご提供するための証として、2005 年 11 月に一般財団法人 日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）より「プライバシーマーク」の認証を取得しました。その後もマネジメント活動の継続により、2 年毎の更新審査も問題なく合格し、プライバシーマーク認証を維持しています。



## 編集方針

LIXIL グループでは、「CSR 方針」の「重点テーマ」に「迅速・透明な情報開示や社会貢献ストーリーの相互理解」を、「具体的活動」に「株主・投資家からの長期的な信頼を獲得し、社会とともに成長し続けるために、迅速で透明性が高い情報開示や、社会貢献に向けた道筋と役割の相互理解を推進します。」を掲げています。

グループ全体として、適切・適正な方法で社内外に開示・報告し、ダイアログを重ねていくことで、ステークホルダーとの持続的な関係を構築し、CSR 活動の前進につなげていきます。

情報開示としては WEB のみで冊子の発行は行っていません。冊子としては機関投資家向けのアニュアルレポートにて CSR 活動報告ページを設けています。また、広くステークホルダーに向けた情報発信ができるよう、内容を充実させるとともに、年度ごとの更新だけではなく必要に応じて最新情報を公開していきます。LIXIL グループ全体の企業統治にかかわる情報については、株式会社 LIXIL グループのホームページに掲載しています。

### 【関連リンク】

\* [LIXIL グループ「CSR・環境活動」](#)

\* [アニュアルレポート 2014](#)

### 報告期間中（2013 年 4 月から 2014 年 3 月末）の主な組織変更

2013 年 8 月 ASD Americas Holding Corp が、株式会社 LIXIL の子会社として、グループ入りしました。Permasteelisa S.p.A.と ASD Americas Holding Corp.については、従業員構成比などの一部のデータを除き、非財務データについては 2013 年度報告には含まれていません。

### CSR 報告公開内容に関するお問い合わせ

株式会社 LIXIL グループ コーポレートコミュニケーション部（グループ広報室） E-Mail : [pr\\_hd@lixil.co.jp](mailto:pr_hd@lixil.co.jp)  
質問欄に、「CSR 報告への問い合わせ」とご記載ください。

\* [LIXIL グループ お問い合わせフォームはこちら](#)

当ホームページでは公開内容について、アンケートも実施しております。

LIXIL グループの CSR 経営・CSR 活動について、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。今後の企業活動及び、情報開示の参考にさせていただきます。

\* [アンケートに回答する](#)

株式会社 LIXIL グループでは、「アニュアルレポート 2014 別冊データ集 CSR 関連非財務データ」の信頼性確保のため、株式会社トーマツ審査評価機構による第三者審査を受けております。

▼アニュアルレポート 2014 別冊データ集 CSR 関連非財務データ

[http://www.lixil-group.co.jp/pdf/ar\\_j\\_csrdeta.pdf](http://www.lixil-group.co.jp/pdf/ar_j_csrdeta.pdf)